

<自主研究>

---

---

# 岩手・宮城内陸地震に関する調査 調査報告書

---

---

平成 20 年 7 月

 **株式会社** サーベイリサーチセンター  
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

<自主研究>

---

---

岩手・宮城内陸地震に関する調査  
調 査 報 告 書

---

---

平成 20 年 7 月

 株式  
会社 サーベイリサーチセンター  
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.



# 目 次

## I 調査概要

1 調査目的	1
2 「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」について	1
3 調査概要	2
4 調査協力	2
5 報告書を読む際の留意点	2

## II 調査結果のまとめ

調査結果の概要（東洋大学社会学部 教授 中村 功）	3
「岩手・宮城内陸地震」と「緊急地震速報」（日本大学文理学部 教授 中森 広道）	7

## III 調査回答者の属性

調査回答者の属性	11
----------	----

## IV 調査結果

1 地震発生時の状況	13
2 緊急地震速報の入手	19
3 入手した緊急地震速報とその評価	24
4 緊急地震速報に対する認識	40
5 携帯電話での緊急地震速報の受信	53
6 安否確認サービス	54

## V 調査票（単純集計結果）

調査票（単純集計結果）	57
-------------	----

サーベイリサーチセンターの業務案内



I

## 調査概要



# I. 調査概要

## 1 調査目的

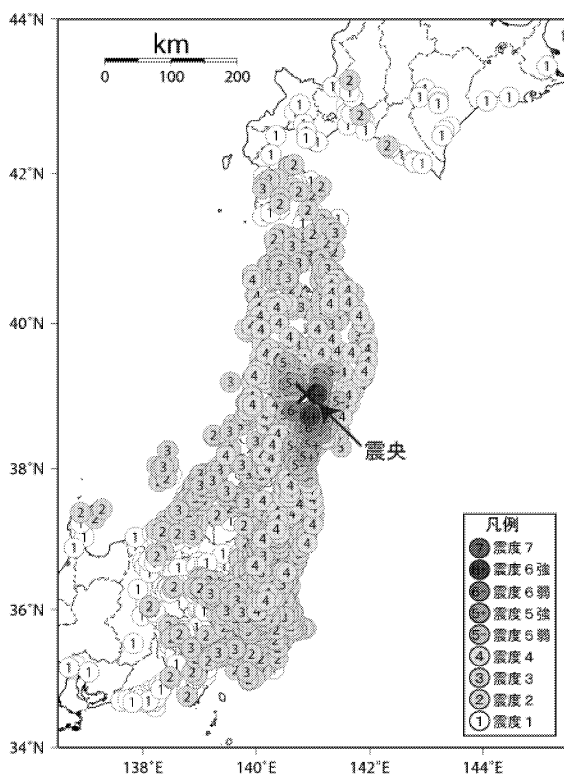
6月14日（土）午前8時43分ころに発生した「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」について、住民の発生直後の行動や緊急地震速報の入手状況などを把握することで、今後の防災対策の基礎資料として提供することを目的として実施した。

## 2 「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の概要

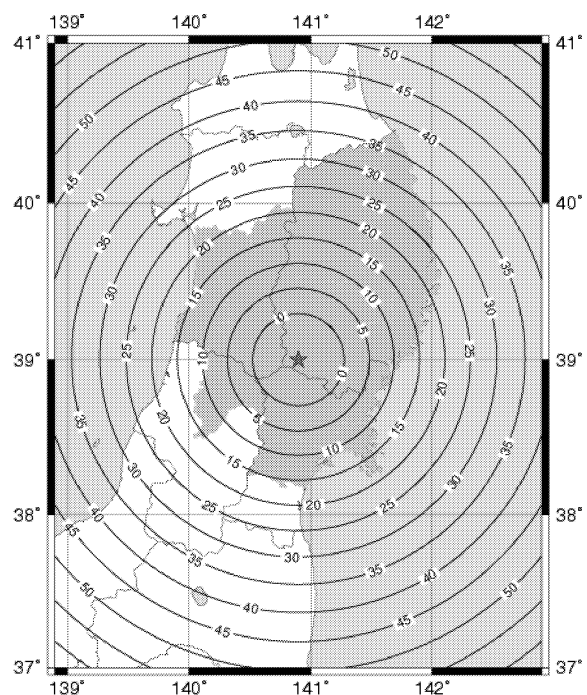
6月14日08時43分ころ、岩手県内陸南部の深さ約10kmで、M7.0（速報値）の地震が発生し、岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度6強、宮城県大崎市で震度6弱を観測したほか、東北地方を中心に北海道から関東・中部地方にかけて震度5強～1を観測しました。

岩手県、宮城県で震度5弱以上を観測したのは、2005年8月16日に発生した宮城県沖の地震（M7.2）で宮城県で震度6弱、岩手県で5強を観測して以来である。また、この付近の地震で震度5以上を観測したのは、1996年8月11日のM5.8の地震で、宮城県栗原市で震度5を観測して以来となる。

なお、08時43分のM7.0（速報値）の地震に対し、地震検知の約4秒後の08時43分55秒に緊急地震速報（警報）を発表した。



震度分布図



一般向け緊急地震速報を発表した地域及び  
主要動到達までの時間

※ 図は気象庁ホームページより転載



## 3 調査概要

(1) 調査地域

仙台市・盛岡市・福島市

(2) 調査対象

調査地域に居住する 20 歳以上の男女個人

(3) 調査方法

インターネットリサーチパネルを対象とした WEB によるクローズド調査

(4) 有効回収数

683 サンプル（仙台市 246 サンプル／盛岡市 222 サンプル／福島市 215 サンプル）

(5) 調査項目

- 地震発生時の状況（地震時の居場所／していたこと／揺れがおさまるまでの行動）
- 緊急地震速報の入手（入手有無／入手媒体／緊迫感／入手タイミング／対応行動／有用性）
- 緊急地震速報の認識（認知度／理解度／発表基準／信頼度）
- 携帯電話での緊急地震速報の受信
- 安否確認サービス など

(6) 調査期間

平成 20 年 6 月 27 日（金）～ 7 月 1 日（火）

## 4 調査協力

本調査は、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター田中淳教授をはじめ、東洋大学社会学部中村功教授、関谷直也専任講師、日本大学文理学部中森広道教授より、多大な協力を得て実施した。

## 5 報告書を読む際の留意点

- 図表中の n は回答者の基数であり、その質問に回答すべき人数を表す。
- 回答比率（%）は、小数点第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位までを表示している。このため、回答比率の合計が 100%にならないことがある。
- 2 つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として 100%を超える。
- 年齢別や緊急地震速報入手状況別などの詳細分析では、基数が少ないために、標本誤差が大きくなり厳密な比較をすることが難しい場合がある。その場合は、得られた回答の割合の傾向をみる程度にとどめる。また、詳細分析のグラフではスペースの関係で数値を省略している場合がある。

## Ⅱ

## 調査結果のまとめ



## Ⅱ. 調査結果のまとめ

### 調査結果の概要

東洋大学社会学部教授 中村 功

#### (1) 災害の特徴と調査の目的

2008年6月14日6時43分ごろ、岩手県内陸南部（北緯39度01.7分、東経140度52.8分）深さ8kmを震源として、マグニチュード7.2の岩手・宮城内陸地震が発生した。この地震では、岩手県奥州市や宮城県栗原市で震度6強、宮城県大崎市で震度6弱、岩手県北上市・一関市・金ヶ崎町・平泉町、宮城県加美町・涌谷町・登米市・美里町・名取市・仙台市・利府町、秋田県湯沢市・東成瀬村などで震度5強の強い揺れを観測した。

近年の地震災害

地震	最大震度	死者・行方不明		負傷者		住家全壊
			うち 災害死		うち 重症者	
2000年鳥取県西部地震	6強	0	—	182	0	435
2001年芸予地震	6弱	2	2	288	0	70
2003年宮城県沖地震	6弱	0	—	174	25	2
2003年宮城県北部地震	6強	0	—	677	51	1,276
2004年中越地震	7	67	31	4,805	636	3,175
2005年宮城県沖地震	6弱	0	—	100	12	1
2005年福岡西方沖地震	6弱	1	1	1,087	76	133
2007年能登半島地震	6強	1	1	356	91	684
2007年中越沖地震	6強	15	11	2,345	329	1,319
2008年岩手・宮城内陸地震	6強	23	0	448	77	23

消防庁調べ：7月14日現在

この地震により、23人の死者・行方不明者が発生し、448名が負傷した。また23の住宅が全壊の被害を受けた。近年発生した震度6強の地震と比べると、今回は全壊した住宅の数や負傷者の数が少ない一方、死者行方不明者が多いという特徴がある。これは、地震動の周期が短く建物の被害が少なかった一方、山間地での地震であったために土砂災害が多く発生し、被害をもたらしたためである。実際、岩手県・宮城県・秋田県・福島県の6市で48件の土砂災害があり、また岩手・宮城県境の栗駒山周辺において15箇所の河道閉塞が発生している。（国土交通省調べ：7月14日現在）

犠牲者の被災状況

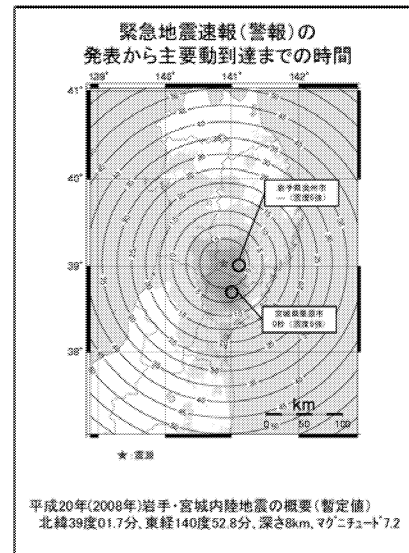
駒の湯温泉で生き埋め、5名が死亡	栗原市
土砂崩れにより生き埋め、3名が死亡	栗原市
湯浜温泉で車両が埋没して死亡	栗原市
胆沢ダム建設工事現場での落石で、救出時心肺停止状態の傷病者が死亡	奥州市
岩場にいたところ地震の落石で海へ転落し死亡	いわき市
地震に驚き道路に飛び出し、交通事故死	一関市
地震により崩れた書籍に埋もれ窒息して死亡	仙台市

## II. 調査結果のまとめ

一方、今回の地震で注目されたのが、緊急地震速報である。緊急地震速報は2007年10月より一般に公表されるようになり、これまで、2008年4月28日に発生した宮古島近海の地震や、2008年5月8日に発生した茨城県沖の地震で発表されたが、いずれも主要動到達には間に合わなかった。だが今回は、緊急地震速報が強い揺れの届く前に発表されている。すなわち、地震発生を検知した4秒後である8時43分55秒に発表され、30キロ以上離れた地域では強い揺れの前に速報が出たという（毎日新聞：6月15日）。気象庁資料によれば、たとえば仙台市宮城野区では、主要動到達まで15.32秒の猶予時間があったとされている。

緊急地震速報発表から主要動到達までの猶予時間（気象庁資料）

観測された震度	地域名	観測点名	警報の猶予時間(秒)
6強	岩手県内陸南部	奥州市衣川区	-4.43
6強	宮城県北部	栗原市一迫	0.30
6弱	岩手県内陸南部	奥州市胆沢区	-3.72
6弱	宮城県北部	栗原市栗駒	-2.06
6弱	宮城県北部	栗原市築館	1.10
6弱	宮城県北部	栗原市高清水	3.17
6弱	宮城県北部	栗原市鶯沢	-1.88
6弱	宮城県北部	栗原市金成	-0.45
6弱	宮城県北部	栗原市志波姫	0.80
6弱	宮城県北部	栗原市花山	-1.51
6弱	宮城県北部	大崎市古川三日町	5.52
6弱	宮城県北部	大崎市鳴子	0.11
6弱	宮城県北部	大崎市古川北町	5.38
6弱	宮城県北部	大崎市田尻	5.33
5弱	宮城県中部	仙台宮城野区五輪	15.32
5弱	秋田県内陸南部	横手市中央町	2.60
4	宮城県中部	石巻市泉町	12.74



そこで今回、緊急地震速報がどのように伝達され、どのように受け取られたのかを明らかにするために調査を行った。調査地域は盛岡市、仙台市、福島市の3都市である。盛岡市は震源から約75キロ、仙台市は約80キロ、福島市は約134キロ離れている（いずれも市役所までの距離）。なお緊急地震速報は本震の後の余震でも出されているが（9時20分、10時00分、12時10分、12時27分、23時42分、16日23時14分）、調査では主に本震についてたずねた。

### (2) 調査結果

#### 間に合った速報

調査では、全体の約4割が本震の緊急地震速報を見聞きしており、そのうちの約8割がテレビを通じて入手していた。到達したタイミングを見ると、緊急地震速報と同時に揺れが来たという人が4割と最も多かったが、緊急地震速報入手の後に揺れが来たという回答も33.3%あった。多くの人に認知されたかはともかく、調査した地域では、大きな揺れの前に緊急地震速報が伝えられた事実があったといえる。ただ地域差をみると、緊急地震速報が間に合った人は約134キロ離れた福島市で33.3%、約80キロ離れた仙台市で38.3%、約75キロはなれた盛岡市で28.1%と、ほとんどかわりがない。仙台市にくらべて福島市では、10秒程度猶予時間が長いはずであるが、この程度の差では認知に差がなく、むしろ個人差のほうが大きいようである。

## 通常の地震速報と誤解した

緊急地震速報を入手した人がどう感じたか、を尋ねたところ、最も多かったのは「すでに起きた地震の震度速報だと思った」という人で、50.9%に達していた。せっかく緊急地震速報を受け取ったのに過半数の人が誤解していたわけで、これは大きな問題である。逆に「大きな地震が来ると思った」と正しく解釈した人は30.0%にすぎなかった。これには、緊急地震速報そのものが理解されていないということも考えられるが、緊急地震速報の知識については59.9%が名前も内容も知っているとし、36.7%が名前を聞いたことがあると、理解が進んできた。むしろ、こうした誤解の主要因は、緊急地震速報の表現の仕方にあると思われる。そもそも「緊急地震速報」は「地震速報」に2文字が付け加わっただけであり、またテレビでも通常番組にかぶせる形で文字が表示される点などは、通常の地震速報と似ている。伝えるときに、通常の地震速報と異なることをいかに強調できるかが、今後の課題といえるだろう。

またこれを見聞きしたときの緊迫感であるが、多少緊迫感を感じたという人が45.3%と最も多く、とても緊迫感を感じた人は36.3%と、聞いた人の1/3にすぎなかった。この情報を生かすためには、緊迫感をより感じてもらうような表現が必要なのではないだろうか。

## 情報収集と火の始末は促進したが…

緊急地震速報を受け取ったあとの行動を尋ねたところ、地震情報を知ろうとした人が52.8%、様子を見た人が39.0%と多かった。地震がおさまるまでの行動を、緊急地震速報を聞いた人と聞かない人と比べてみると、地震速報を知ろうとしたという人は、緊急地震速報を聞かなかった人が33.2%だったのに聞いた人では49.4%と多くなっており、また火の始末をした割合も、聞かなかった人が5.8%に対して聞いた人は13.9%と多くなっている。さらに家具や壊れ物を押さえた割合も、聞かなかった人が16.6%に対して、聞いた人は23.2%と多くなっている。その一方で、安全な場所に隠れたり身を守った人は、聞かなかった人が10.3%であるのに対して、聞いた人は9.7%と、ほとんど差がなかった。緊急地震速報は情報収集や火の始末などは促進したが、肝心の身を守る行動は促進していないようである。

## まあ役に立った

緊急地震速報を見聞きした人にその評価を尋ねたところ、「まあ役に立った」という人が41.2%と最も多かったが、「あまり役に立たなかった」という人も34.8%と1/3ほどいた。従来の地震速報と誤解した人が半数だったことを考えると、この評価もうなずけるところである。

## 携帯電話設定の問題

緊急地震速報の伝達メディアとして注目されるのが、携帯電話である。とくに通常のメールとは違ってアドレス登録が不要で、遅延がなく、その情報が必要な地域を選んで伝えることができるCBS（あるいはブロードキャストSMS）という技術は重要で、既にNTTドコモとauが緊急地震速報の伝達サービスを行っている（ドコモは2007年12月から、auは2008年3月から）。ただこのサービスを使うには、これに対応した新機種を持ち、受信の設定をオンに変える必要がある。今回の調査では対応機種を持つ人が79人いたが、実際に緊急地震速報を受信したのはその25.3%（20人）にすぎなかった。これはせっかく対応機種を持ちながら、受信の設定をしていなかったために、緊急地震速報が入ってこなかったものと考えられる。防災情報は

## Ⅱ. 調査結果のまとめ

その地域にいる人全員に伝える必要があるので、出荷時点で受信の設定にしておく必要があるのではないだろうか。アンケートでは、携帯電話は設定をしなくても受信できるようにするべきだ、とする人が全体の54.9%に達しており、こうしたことは社会的にも理解が得られると考えられる。

## 「岩手・宮城内陸地震」と「緊急地震速報」

日本大学文理学部教授 中森 広道

### 「緊急地震速報」に接した人々

気象庁の「緊急地震速報」は、昨年10月に本運用を開始し、広く一般の人々にも発表されるようになった。テレビ・ラジオならびに一部の携帯電話で伝えられるのは、「警報（地震動警報）」として位置づけられている「どこかの観測点で震度5弱以上が予測された場合」である。「警報」の「緊急地震速報」は、これまで今年4月28日に発生した宮古島近海の地震、5月8日に発生した茨城県沖の地震で発表されていた。これら過去2回の地震は、発生が深夜・未明であったが、今回の「岩手・宮城内陸地震」は8時43分という、速報に接することができる人が多い時間に発生した。この地震における「緊急地震速報」は、多くの人々が活動している時間帯に初めて発表されたものと言えよう。

この時の「緊急地震速報」は、人々にどう受け止められ、どのように評価されたのであろうか。

まず、「緊急地震速報」を「見たり聞いたりした」と回答した人は39.1%で（問5）、得た手段で最も多かったものは「地上波テレビ」（83.5%）であった（問6）。また、「緊急地震速報」に接した時間であるが、「速報を見たり聞いたりする前に揺れた」が26.2%、「速報と同時に揺れた」が40.4%、「速報を見たり聞いたりした後揺れが来た」が33.3%であった（問12）。「緊急地震速報」に接した人の中の約3割が実際の揺れを感じる前に速報を受け取ることができたわけである。

「緊急地震速報」を受け取った人々の対応について尋ねた結果（問13）を見ると、「火の始末をした」、「安全な場所にかくれたり身を守ったりした」、「周囲の人に声をかけた」、「子どもや老人、病人などを保護した」、「戸・窓を開けた」といった望ましい対応をしたと回答をした人が、それぞれ1割前後を占めていた。全体から見れば少ないものの、「緊急地震速報」を有効に活用した人がある程度見られ、一定の効果があったように思われる。一方、「地震情報を知ろうとした」、「様子をみた」をはじめ、地震から身の安全を守る対応をしていないと回答した人（複数回答の結果であるため、いくつかの対応を同時に行った人もいる）が少なくなかった。今後、「緊急地震速報」に接した際の対応についての質問で、「安全な場所にかくれたり身を守る」と回答した人が64.0%を占めるなど、被害発生防止に望ましい活用を考える人が多かったが（問17）、このようなことが実現できるように、「緊急地震速報」に接した場合の対応について徹底することが必要である。

### 放送への評価

「緊急地震速報」は、NHKはテレビ・ラジオともに昨年10月1日から運用を始めていた。民間放送では、テレビは昨年から運用していたものの、ラジオは一部の局を除いて今年になってから運用を始めたところが多く、IBC（岩手放送）とRFC（ラジオ福島）は、今年の4月1日から、TBC（東北放送）は6月8日からであった。TBCラジオは、「緊急地震速報」の運用開始後わずか6日後に今回の地震が発生したということになる。

今回の調査では、前述のように「緊急地震速報」を得た手段として、「テレビ」を挙げた人が大半を占めていた。人々はテレビで伝えられた「緊急地震速報」をどのように受け止めたのであろうか。まず、テレビの速報についての「緊迫感」を尋ねたところ、「とても緊迫感があった」が36.3%、「多少緊迫感があった」が45.3%と、「緊迫感があった」と評価した人が8割以上を占めた（問9）。ただ、この結果を、NHKと民間放送とで比較すると、NHKで「緊急地震速報」を見た人（117名）の中では、「とても緊迫感があった」が40.2%



(47名)、「多少緊迫感があった」が46.2% (54名)とであったのに対し、民間放送で「緊急地震速報」を見た人(103名)の中では、「とても緊迫感があった」が33.0% (34名)、「多少緊迫感があった」が44.7% (46名)と、わずかではあるが民間放送の速報よりもNHKの速報の方に「緊迫感があった」と評価している人が多いことがわかる。また、テレビにおける「緊急地震速報」の感想を尋ねたところ(複数回答)、「大きな地震が来ると思った」と回答した人が31.4%だったのに対し、「すでに起きた地震の速報だと思った」が51.6%、「別の地震がまた来るかもしれない」が20.2%、「何を言っているのかわからなかった」が8.1%と、「緊急地震速報」が目的としている内容について一般の人々に必ずしも伝わっていないという結果が見られた。この点をNHKと民間放送とで比較すると、NHKは、「大きな地震が来ると思った」と回答した人が37.6% (44名)、「すでに起きた地震の速報だと思った」が47.9% (56名)、「別の地震がまた来るかもしれない」が21.4% (25名)、「何を言っているのかわからなかった」が8.5% (10名)で、民間放送は、「大きな地震が来ると思った」と回答した人が24.3% (25名)、「すでに起きた地震の速報だと思った」が56.3% (58名)、「別の地震がまた来るかもしれない」が19.4% (20名)、「何を言っているのかわからなかった」が6.8% (7名)となり、「すでに起きた地震の速報だと思った」という回答は、NHKよりも民間放送の方に多いという結果が見られた。

現在、NHKテレビの「緊急地震速報」は、通常地震(震度)速報とは明らかに違うとわかる画像が、画面中央のやや下の方に表示される。一方、民間放送テレビの場合、大半が通常地震速報やニュース速報と同じように画面の上の方にテロップで表示される(ただし、このテロップが通常地震速報との違いがわかるように色をつけたり、地図などを表示している局もある)。今回の結果だけでは確実なことは言えないが、NHKのような放送の方が、仮に「緊急地震速報」ということがわからない場合でも、少なくとも通常地震速報ではないことが伝わりやすいのではないと思われる。また、NHKは速報と同時に自動的にアナウンスが入る。今回の地震(本震)の時には、NHK総合テレビでは「NHK週刊ニュース」を生放送しており、スタジオのアナウンサーは「緊急地震速報」の放送とともに話を控え、「緊急地震速報」のアナウンスが視聴者に聞こえるような対応をとっていたが、このような配慮が確実に速報を受け取ってもらう上で重要ではないかと思われる。

なお、今回のテレビの「緊急地震速報」の評価については、速報の送出方法にも関係しているようだ。NHKの「緊急地震速報」は、どの地域が対象になっても東京から全国に向けて自動的に放送される。民間放送は、基本的には対象となった地域をサービスエリアとしている局ごとに放送をすることになっているが、局によっては自動的に放送するのではなく手動(局の担当者の判断)によって放送することになっているところもあるため、今回の地震でも結果的に遅くなったケースもあったようだ。このような点も改善が求められるのではないだろうか。

思えば、通常テレビのニュース速報のテロップも、画面の下に出すのか上に出すのか、また、ニュース速報が伝えられることを視聴者がわかるように音を出したり点滅させたりという工夫を導入するなど現在の表示方法になるまである種の試行錯誤があった。この、「緊急地震速報」の効果的な伝え方が定着するまでに、しばらく時間がかかるかもしれないが、今回の調査結果は、この点を検討する上での課題を示しているように思える。

### 「緊急地震速報」の評価と今後の課題

さて、「緊急地震速報」の本運用開始にあたって、事前の周知・広報が1つの問題となった。当時のマス・メディア各社の報道は、周知・広報の不十分さをたびたび指摘し、その徹底を求める論調が多かった。このような中、発表する気象庁は、おそらくは開設以来はじめてとも言えるような非常に活発な広報を行った。

今回の調査で、「緊急地震速報」について「名前も内容も知っていた」と回答した人は35.9%、「名前を聞いたことがあったが内容は詳しくは知らなかった」と回答した人は60.9%であった（問18）。つまり、何らかのかたちで「緊急地震速報」を知っている人は9割を超えていたことになる。これに関連して、「緊急地震速報」の意味を理解している人は全体の64.3%であったが、この結果を地域別に見ると、福島市が60.0%だったのに対して仙台市は69.5%という差が見られた（問19）。これは、仙台市は、予想される「宮城県沖地震」への危惧や、この地震に備える意味もあって「緊急地震速報」の導入への積極性や関心を持つ人の割合が比較的高いことなどが、この結果に表れているのではないかと考えられる。

さて、今回の調査で、「緊急地震速報」が役に立つかどうかについて尋ねたところ（問22）、「非常に役に立つと思う」が16.7%、「ある程度役に立つと思う」が67.3%と、8割以上の人がこの速報を「役に立つ情報」と評価している。また、この速報の信頼度を尋ねたところ（問23）、「非常に信頼できる」が5.7%、「ある程度信頼できる」が76.6%と、こちらも8割以上の人「信頼できる」と考えているようだ。加えて、「『緊急地震速報』は場所によっては伝えないほうがよいと思うか」という質問（問21）に対して、「どんな場所でも積極的に伝えるべきだと思う」と回答した人は85.4%を占めていた。昨年、「緊急地震速報」の本運用が始まる前に、筆者が全国の18歳以上の住民を対象に行った調査においても、この速報を積極的に伝えることに賛成する人が多い傾向が見られたが、これらの結果から、多くの人は、「緊急地震速報」を有効な情報と考え、そして、この速報をどんな場所においても接することができることを望んでいるように思われる。

すでに、「緊急地震速報」の本運用が始まっている現在、この速報が、様々な方法で広く一般に伝わることを前提にした対応が求められている。そして、「岩手・宮城内陸地震」の経験やこの調査結果からの知見をもとに、この速報が確実に伝わり、そして効果的に活用されるように、さらなる改善や対策を進めていかなければならないだろう。



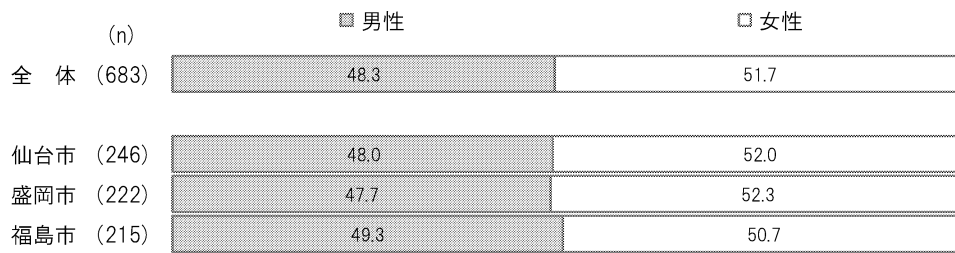
Ⅲ

## 調査回答者の属性

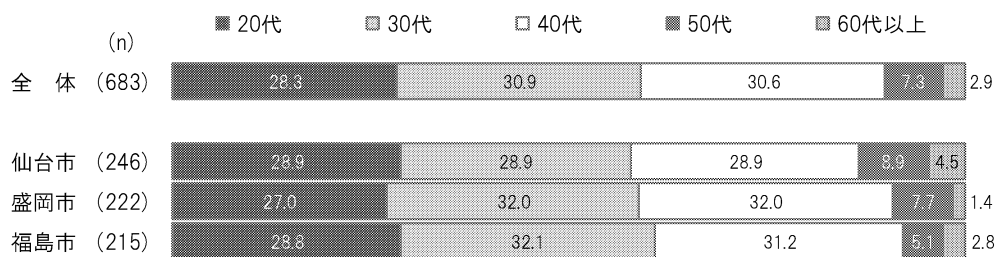


## Ⅲ. 調査回答者の属性

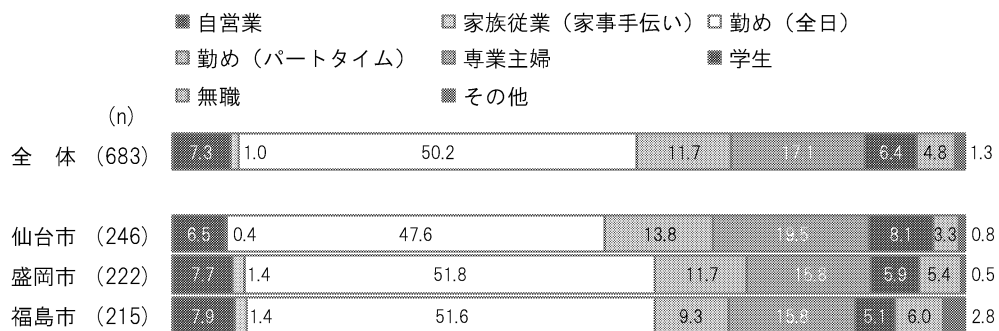
(性別)



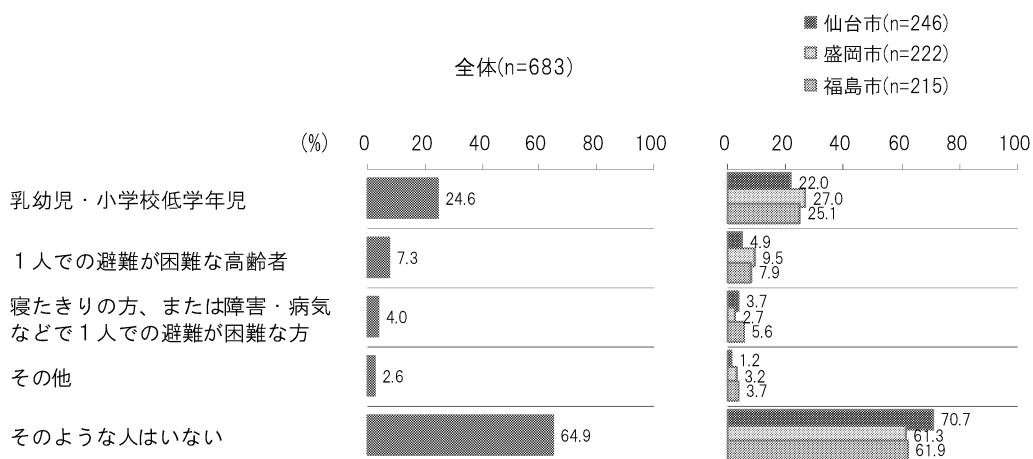
(年齢)



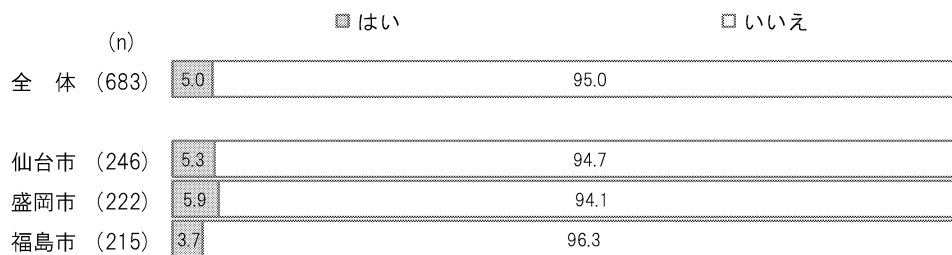
(職業)



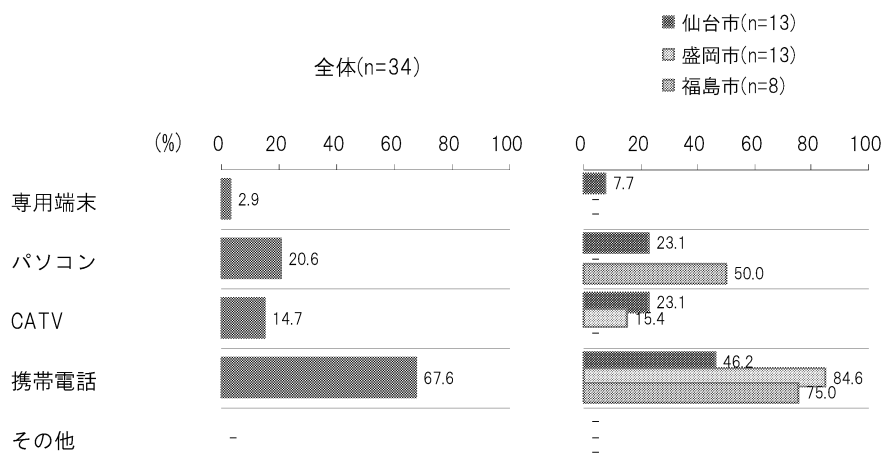
(避難の際に援助・支援が必要な方の有無)



(緊急地震速報の受信サービスの契約有無)



(緊急地震速報の受信サービスの契約状況)



IV

調查結果





## IV. 調査結果

### 1 地震発生時の状況

#### (1) 地震発生時の状況

##### ① 地震が発生した時にいた場所

屋内にいたのは9割、そのうち「自宅」が7割台半ば

問1 この地震が起きたとき（午前8時43分ころ）、あなたはどこにいましたか。（○はひとつ）



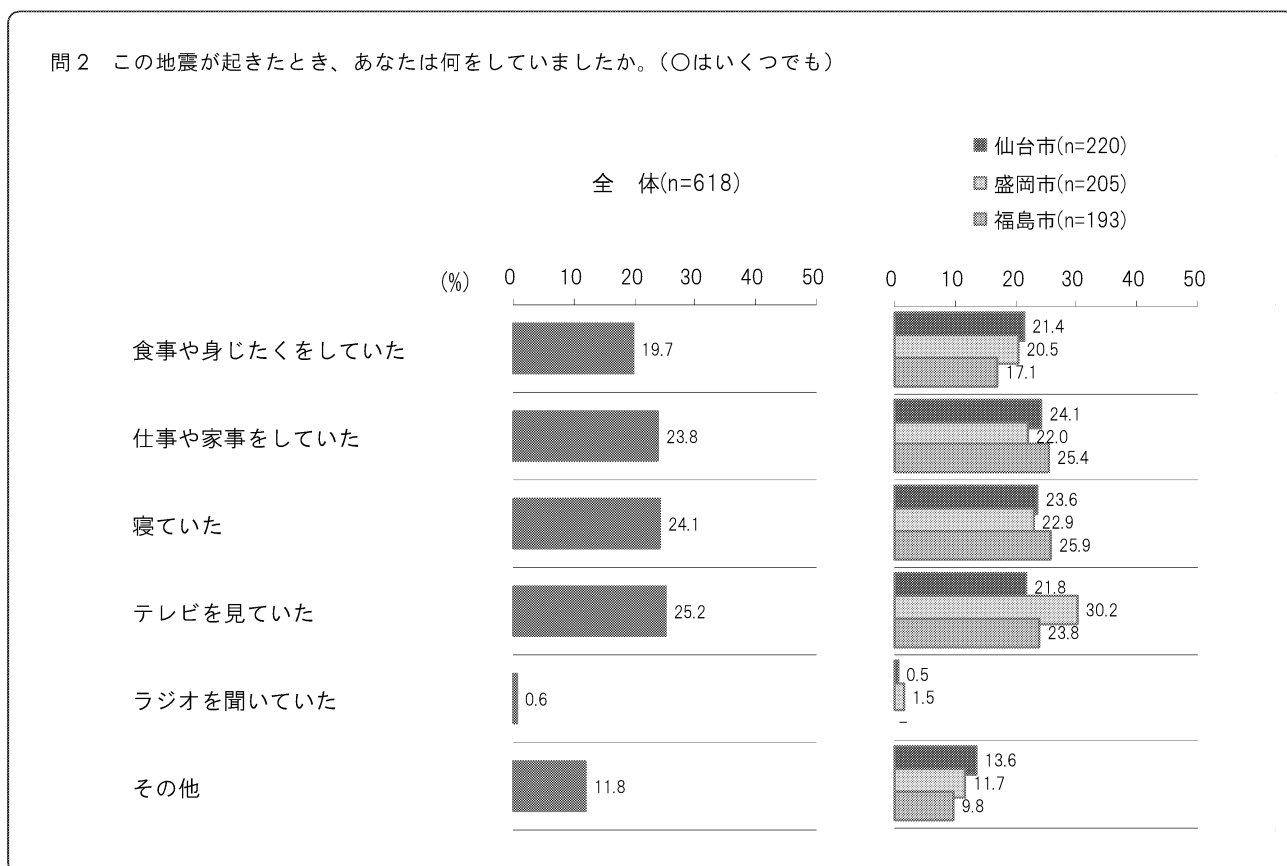
地震が起きたときにいた場所は、「自宅」（76.0%）との回答が最も高く7割台半ばを占めた。また、「会社・学校」（11.1%）、「上記（自宅・会社・学校）以外の建物の中にいた」（3.4%）を合わせると9割が屋内にいたことになる。

■ 性別／年齢別



② 地震が発生した時の行動（自宅・会社・学校など屋内にいた人）

「テレビを見ていた」が4人に1人程度



自宅・会社・学校など屋内にいたと回答した618人に対して、地震が起きたとき何をしていたかを尋ねたところ、「テレビを見ていた」（25.2%）との回答が最も高く4人に1人の割合となった。次いで「寝ていた」（24.1%）、「仕事や家事をしていた」（23.8%）が僅差で続いている。

■性別／年齢別／地震時の居場所別

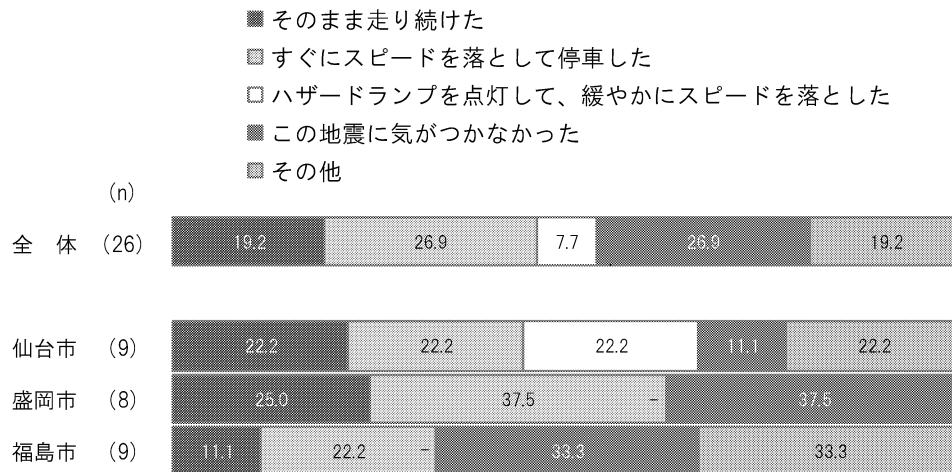
（全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け）

	調査数	食事や身じたくをした	仕事や家事をしていた	寝ていた	テレビを見ていた	ラジオを聞いていた	その他
全体	618	19.7	23.8	24.1	25.2	0.6	11.8
性							
男性	288	14.6	20.1	27.4	27.1	0.3	13.5
女性	330	24.2	27.0	21.2	23.6	0.9	10.3
年齢							
20代	178	19.1	18.0	33.7	23.6	1.1	10.7
30代	190	22.1	21.1	22.6	28.9	0.5	10.5
40代	191	20.4	29.8	17.3	24.1	-	13.1
50代	42	11.9	33.3	21.4	21.4	2.4	11.9
60代以上	17	11.8	23.5	23.5	23.5	-	23.5
地震時の居場所							
自宅	519	22.9	14.6	28.1	28.7	0.8	11.0
会社・学校	76	1.3	86.8	3.9	2.6	-	5.3
上記以外の建物の中にいた	23	8.7	21.7	-	21.7	-	52.2
建物の外にいた	-	-	-	-	-	-	-
車・バイクで走っていた	-	-	-	-	-	-	-
電車やバスなどに乗っていた	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-

③ 地震が発生した時の行動（車・バイクを運転していた人）

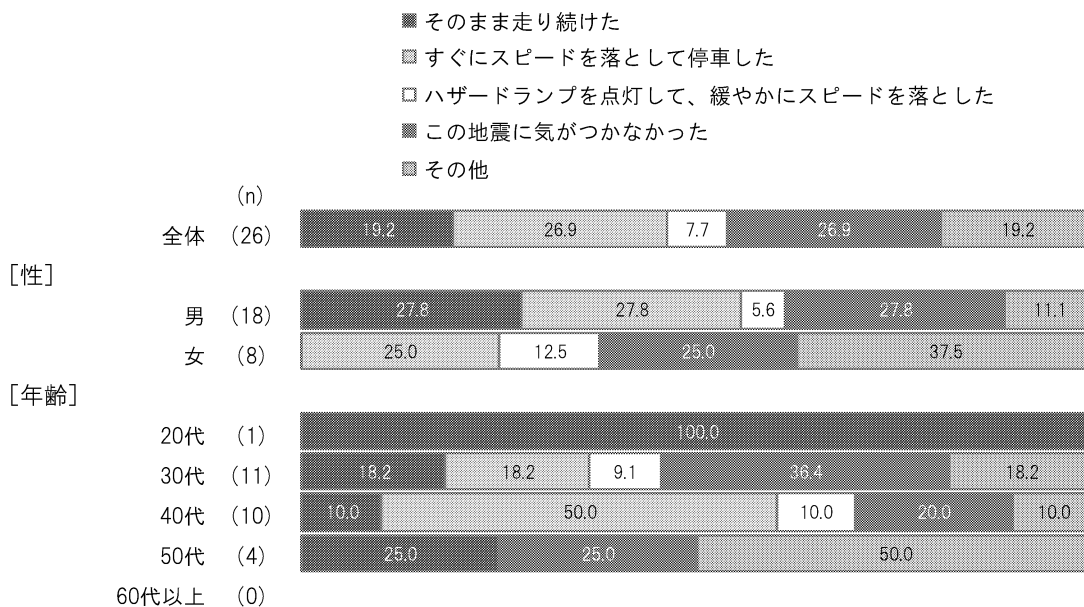
「すぐにスピードを落として停車した」が26人中で7人

問3 この地震が起きたとき、何をしましたか。（○はひとつ）



車・バイクで走っていたと回答した26人に対して、地震が起きたときどうしたかを尋ねたところ、「すぐにスピードを落として停車した」（26.9%・7人）との回答が最も高く4人に1人の割合となった。次いで「そのまま走り続けた」（19.2%・5人）が2割弱となっている。なお、「この地震に気がつかなかった」（26.9%）も高く4人に1人の割合となった。

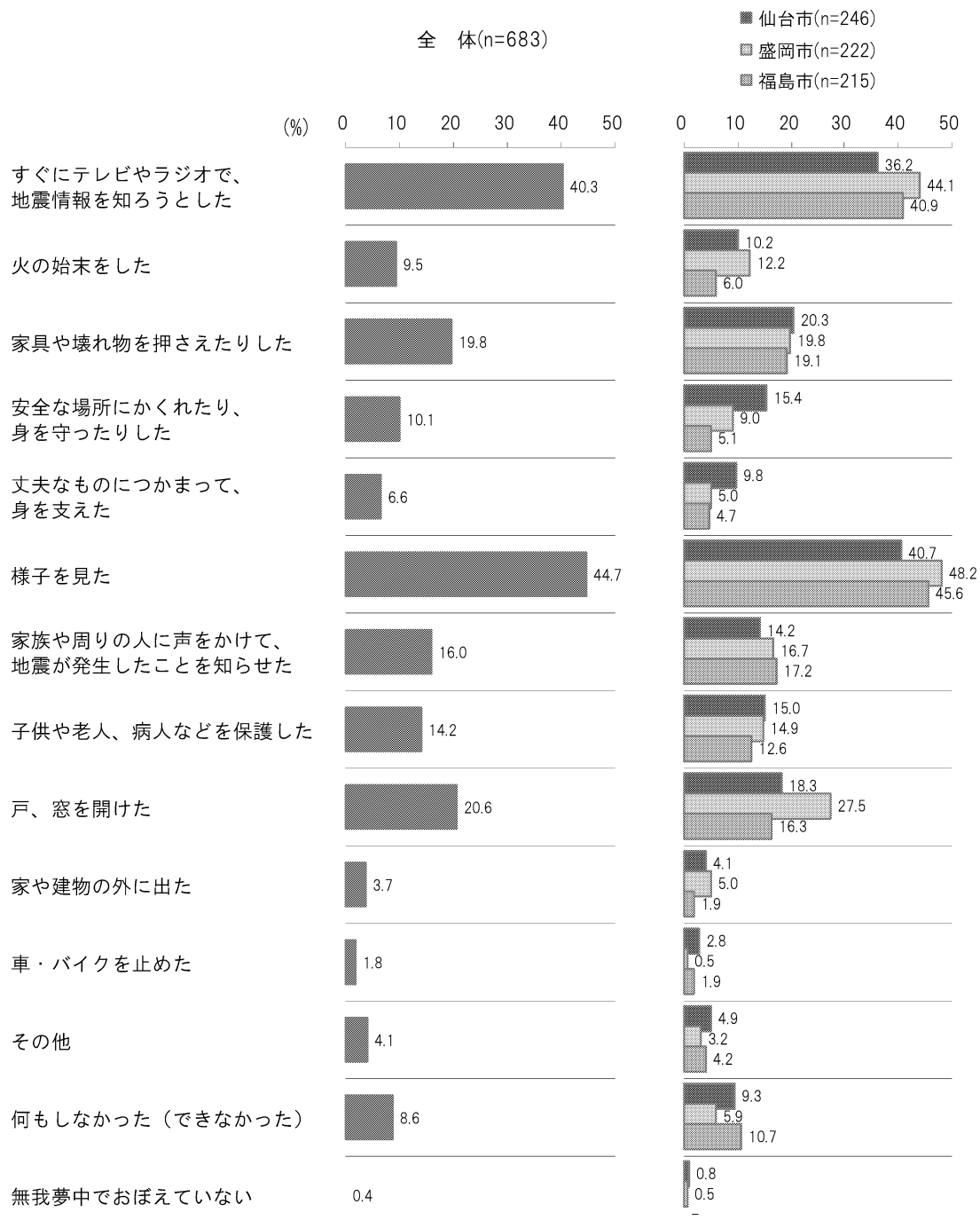
■ 性別／年齢別



(2) 揺れがおさまるまでの間の行動

「テレビやラジオで地震情報を知ろうとした」が4割

問4 揺れがおさまるまでの間、あなたはどうしましたか。(○はいくつでも)



IV. 調査結果

揺れがおさまるまでの間どうしたかを尋ねたところ、「様子を見た」(44.7%)が最も高く4割台半ばを占めた。具体的な行動としては、「すぐにテレビやラジオで、地震情報を知ろうとした」(40.3%)が4割と高く、次いで「戸、窓を開けた」(20.6%)、「家具や壊れ物を押さえた」(19.8%)が2割程度となっている。なお、「何もしなかった(できなかった)」(8.6%)との回答は1割に満たなかった。

■性別／年齢別／地震時の居場所別

(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	調査数	ろうと、地震情報をラジオで、テレビやラジオ	火の始末をした	家具や壊れ物を押さえた	家具や壊れ物を押さえた	安全な場所を守つたり	安全な場所を守つたり	丈夫なものにつかまっ、身を支えた	様子を見た	家族や周りの人に声をかけて、地震が発生したことを知らせた	子供や老人、病人などを保護した	戸、窓を開けた	家や建物の外に出た
全体	683	40.3	9.5	19.8	10.1	6.6	44.7	16.0	14.2	20.6	3.7		
性													
男性	330	39.1	6.7	21.8	7.9	4.8	47.0	11.5	7.3	12.7	3.3		
女性	353	41.4	12.2	17.8	12.2	8.2	42.5	20.1	20.7	28.0	4.0		
年齢													
20代	193	37.8	7.3	13.5	10.9	6.2	47.2	15.5	13.0	19.7	4.1		
30代	211	45.0	9.0	22.3	11.4	6.2	44.5	16.6	20.9	21.3	1.9		
40代	209	37.3	10.5	21.1	9.1	6.7	41.6	16.3	12.0	22.0	3.3		
50代	50	46.0	16.0	22.0	8.0	6.0	42.0	18.0	6.0	20.0	8.0		
60代以上	20	30.0	10.0	35.0	5.0	15.0	60.0	5.0	-	10.0	10.0		
地震時の居場所													
自宅	519	44.5	12.3	23.5	10.2	7.5	44.1	17.9	17.5	24.9	3.3		
会社・学校	76	27.6	-	11.8	13.2	3.9	51.3	9.2	2.6	14.5	9.2		
上記以外の建物の中にいた	23	39.1	-	17.4	4.3	4.3	87.0	8.7	4.3	4.3	-		
建物の外にいた	30	13.3	-	-	16.7	3.3	33.3	10.0	10.0	-	-		
車・バイクで走っていた	26	30.8	3.8	-	-	-	15.4	-	-	-	3.8		
電車やバスなどに乗っていた	8	12.5	-	-	-	12.5	37.5	50.0	-	-	-		
その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

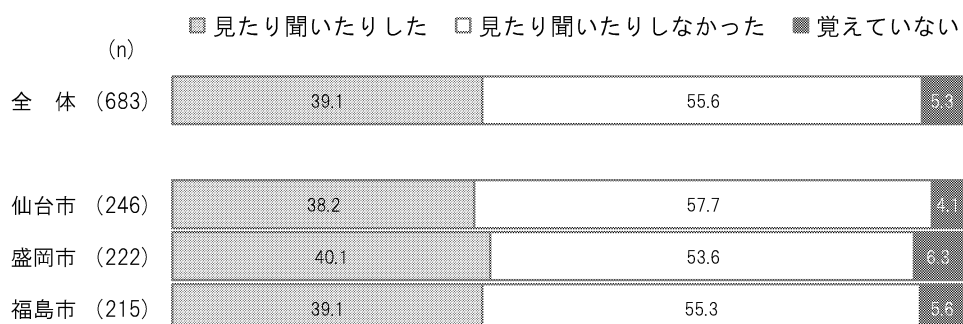
	調査数	車・バイクを止めて	その他	何もしなかった(できなかった)	無我夢中でおぼえて
全体	683	1.8	4.1	8.6	0.4
性					
男性	330	2.1	4.2	9.7	-
女性	353	1.4	4.0	7.6	0.8
年齢					
20代	193	-	5.2	11.4	0.5
30代	211	0.9	2.4	9.0	0.5
40代	209	3.8	4.3	6.7	0.5
50代	50	4.0	4.0	6.0	-
60代以上	20	-	10.0	5.0	-
地震時の居場所					
自宅	519	-	2.7	5.4	0.6
会社・学校	76	1.3	3.9	13.2	-
上記以外の建物の中にいた	23	-	8.7	4.3	-
建物の外にいた	30	-	20.0	26.7	-
車・バイクで走っていた	26	42.3	7.7	34.6	-
電車やバスなどに乗っていた	8	-	12.5	37.5	-
その他	1	-	-	-	-

## 2 緊急地震速報の入手

### (1) 緊急地震速報の入手状況

#### 「見たり聞いたりした」が4割弱

問 5 気象庁は、この地震の本震や余震で「緊急地震速報」を出し、身の安全を図るよう警告しました。本震の時（午前 8 時 43 分ごろ）、「緊急地震速報」を見たり聞いたりしましたか。



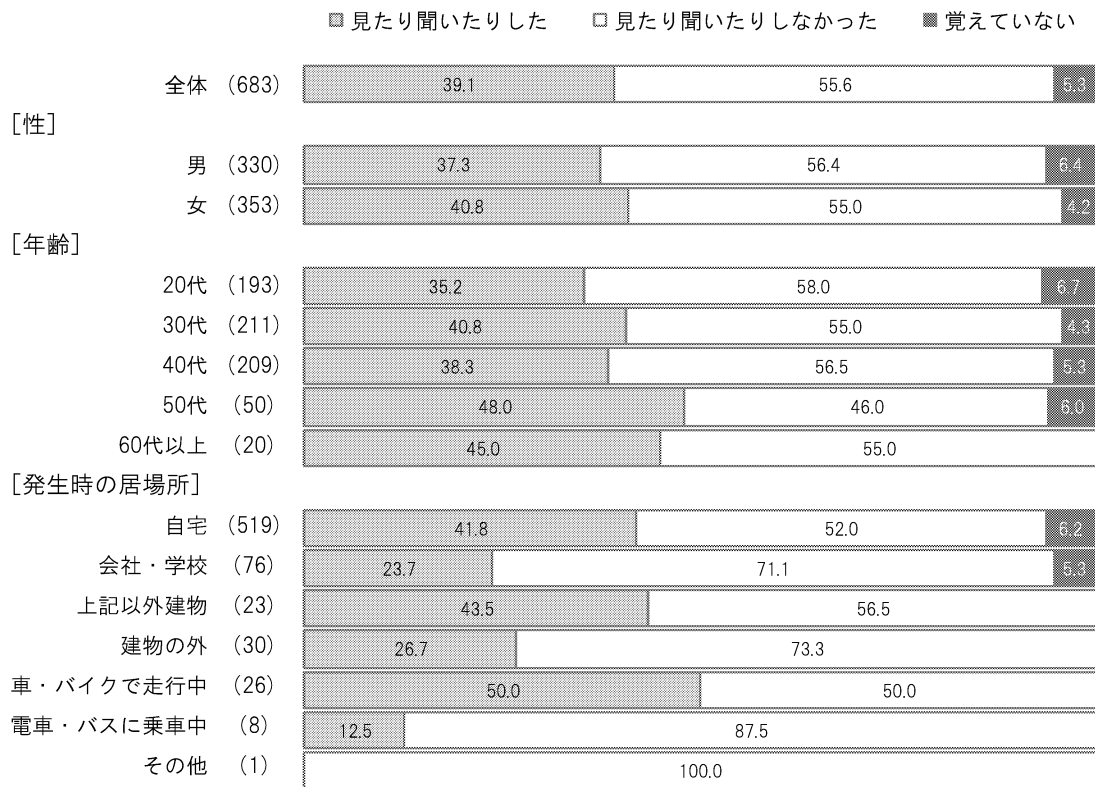
今回の地震で緊急地震速報を入手（見たり聞いたり）したかについて尋ねたところ、「見たり聞いたりした」（39.1%）との回答は4割弱、「見たり聞いたりしなかった」（55.6%）は5割台半ばであった。

都市別にみると、「見たり聞いたりした」との回答は、仙台市（38.2%）、盛岡市（40.1%）、福島市（39.1%）でいずれも4割程度となっている。なお、「見たり聞いたりしなかった」との回答は、仙台市（57.7%）で最も高くなっている。

地震発生時の居場所別にみると、「見たり聞いたりした」との回答は、自宅（41.8%）で4割強である。会社・学校（23.7%）では2割強にとどまり、上記（自宅・会社・学校）以外の建物（43.5%・10人）の方が4割強と高く、屋内では会社・学校での入手状況が悪くなった。一方、屋外では、建物の外（26.7%・8人）で2割台半ば、車・バイクで走行中（50.0%・13人）では半数となっている。



■性別／年齢別／発生時の居場所別

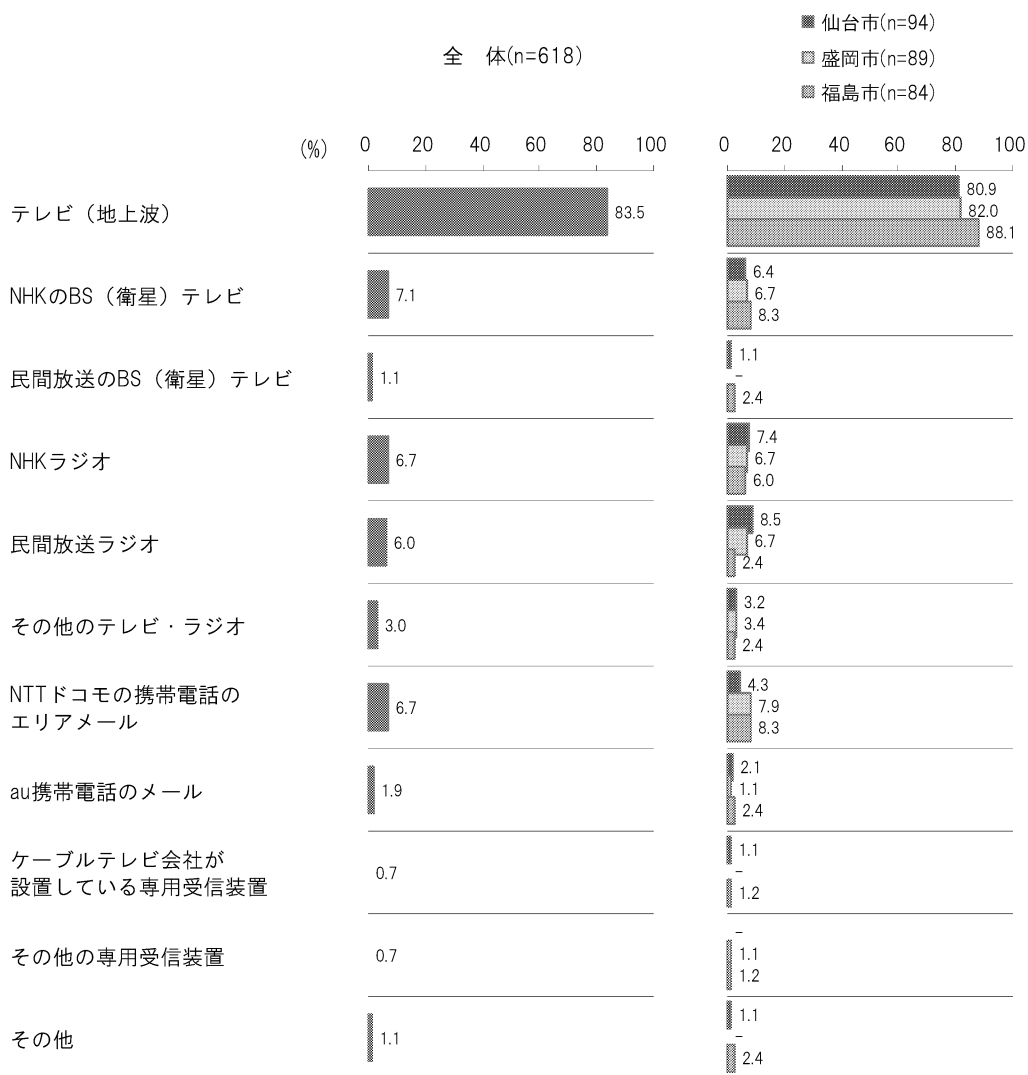


(2) 緊急地震速報の入手媒体

① 緊急地震速報を入手した媒体

「テレビ（地上波）」が8割強

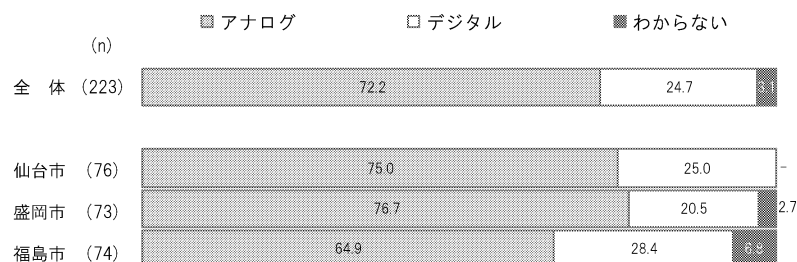
問6 その「緊急地震速報」を何から見たり聞いたりしましたか。(〇はいくつでも)



※ 「民間放送ラジオ」は対象都市により異なる。

仙台市=TBC(東北放送)ラジオ、盛岡市=IBC(岩手放送)ラジオ、福島市=RFラジオ(ラジオ福島)

問7 それは、アナログ放送ですか。それとも地上デジタル（地デジ）放送ですか。(〇はひとつ)



IV. 調査結果

緊急地震速報を入手したと回答した 267 人に対して、その入手媒体について尋ねたところ、「テレビ（地上波）」(83.5%) との回答が最も高く 8 割強を占め、他を圧倒した。他には、「NHK の BS（衛星）テレビ」(7.1%)、「NTT ドコモの携帯電話のエリアメール」(6.7%)、「NHK ラジオ」(6.7%) などが続いている。

なお、テレビ（地上波）の放送形態については、「アナログ」(72.2%) が 7 割強、「デジタル」(24.7%) が 2 割台半ばであった。

■性別／年齢別／地震時の居場所別

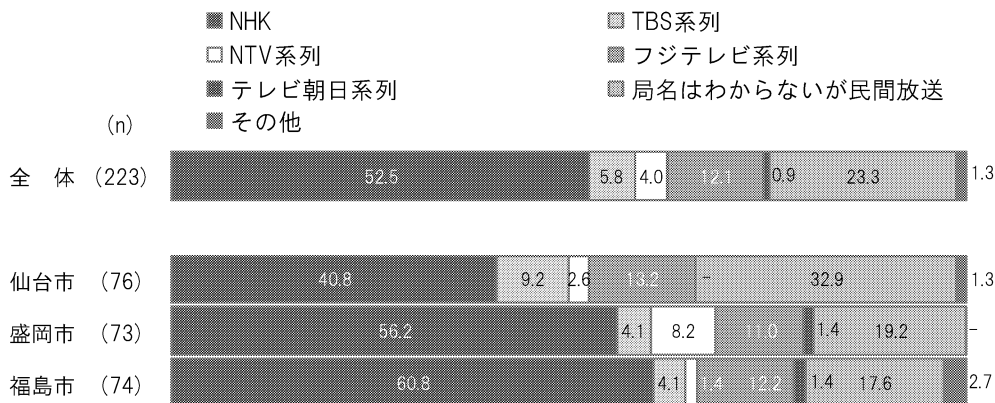
(全体と比べて 10 ポイント以上高いものに網掛け)

	調査数	テレビ（地上波）	星 NHK の BS（衛星）テレビ	民間放送の BS（衛星）テレビ	NHK ラジオ	民間放送ラジオ	その他のテレビ・ラジオ	NTT ドコモの携帯電話のエリアメール	au の携帯電話のメール	受信装置が設置されている専用社	ケーブルテレビ会社専用受信装置	その他の専用受信装置	その他
全体	267	83.5	7.1	1.1	6.7	6.0	3.0	6.7	1.9	0.7	0.7	1.1	
性													
男性	123	82.1	8.9	1.6	6.5	8.1	2.4	6.5	3.3	1.6	0.8	0.8	
女性	144	84.7	5.6	0.7	6.9	4.2	3.5	6.9	0.7	-	0.7	1.4	
年齢													
20代	68	86.8	8.8	2.9	2.9	2.9	1.5	4.4	4.4	-	-	1.5	
30代	86	89.5	7.0	1.2	4.7	-	4.7	10.5	-	-	2.3	2.3	
40代	80	77.5	5.0	-	8.8	6.3	2.5	6.3	2.5	1.3	-	-	
50代	24	70.8	12.5	-	20.8	25.0	4.2	4.2	-	4.2	-	-	
60代以上	9	88.9	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	
地震時の居場所													
自宅	217	87.6	8.3	1.4	6.0	5.1	1.8	6.9	1.8	0.5	0.5	0.9	
会社・学校	18	83.3	5.6	-	5.6	-	5.6	5.6	-	5.6	-	5.6	
上記以外の建物の中にいた	10	80.0	-	-	-	-	10.0	10.0	-	-	-	-	
建物の外にいた	8	75.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	
車・バイクで走っていた	13	23.1	-	-	15.4	38.5	15.4	-	7.7	-	7.7	-	
電車やバスなどに乗っていた	1	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

② 視聴していた具体的な放送局

「NHK」が過半数

問8 ご覧になっていた放送局はどこですか。(〇はひとつ)

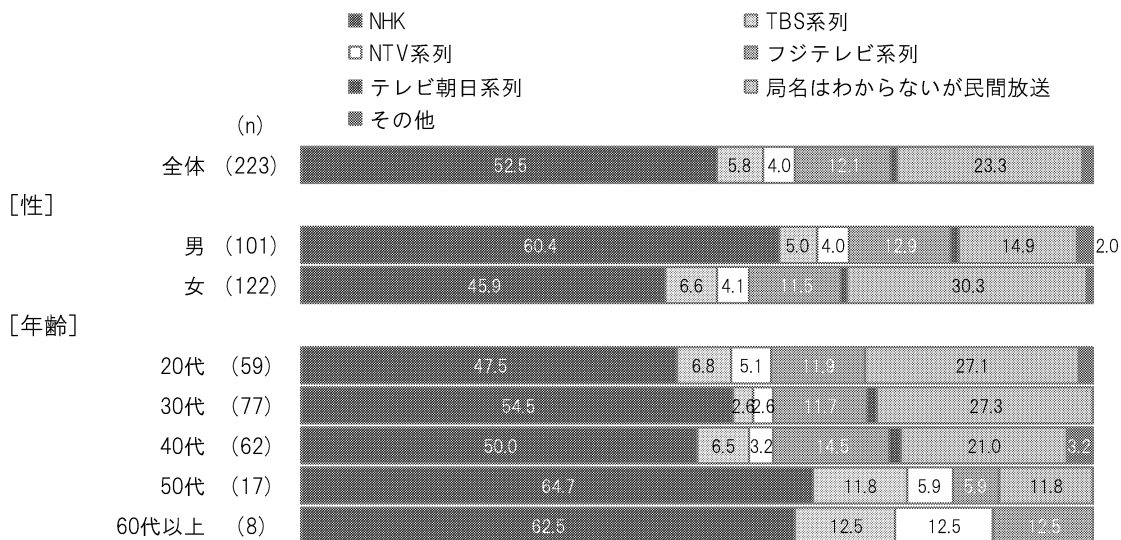


※ 各系列の具体的放送局は以下の通り。

	仙台市	盛岡市	福島市
TBS系列	TBC(東北放送)	IBC(岩手放送)	テレビユー福島
NTV系列	ミヤギテレビ	テレビ岩手(TVI)	福島中央テレビ(FTC)
フジテレビ系列	仙台放送	岩手めんこいテレビ	福島テレビ (FTV)
テレビ朝日系列	東日本放送	岩手朝日テレビ	福島放送

緊急地震速報をテレビから入手したと回答した223人に対して、そのときに視聴していた具体的な放送局について尋ねたところ、「NHK」(52.5%)との回答が最も高く過半数を占めた。「局名はわからないが民間放送」(23.3%)は2割強となった。

■性別／年齢別



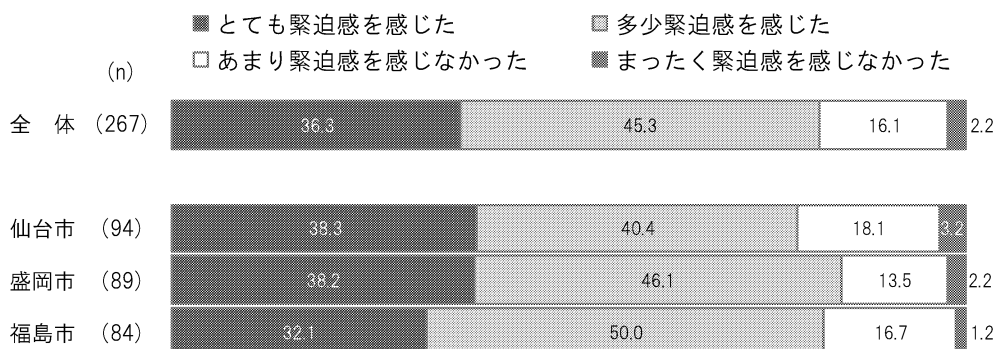
### 3 入手した緊急地震速報とその評価

#### (1) 緊急地震速報をどのように受け止めたのか

##### ① 緊迫感

「(とても+多少) 緊迫感を感じた」のは8割強

問9 「緊急地震速報」を見たり聞いたりしたとき、緊迫感を感じましたか。(○はひとつ)



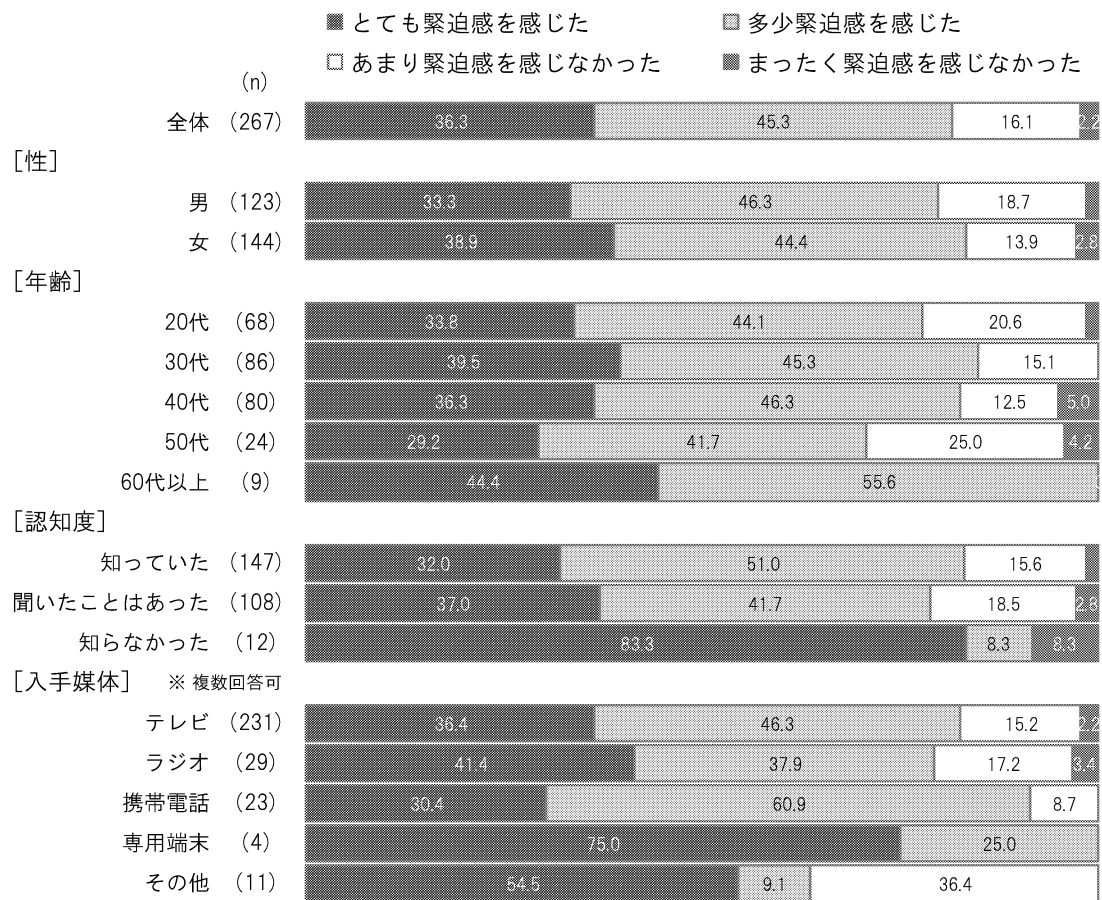
緊急地震速報を入手したと回答した267人に対して、そのときの緊迫度を尋ねたところ、「多少緊迫感を感じた」(45.3%)との回答が最も高く4割台半ばを占めた。「とても緊迫感を感じた」(36.3%)は3割台半ばで、両者を合わせると8割強が緊迫感を感じていた。

都市別にみると、いずれの都市でも8割程度は緊迫感を感じており、「とても緊迫感を感じた」との回答でも、仙台市(38.3%)、盛岡市(38.2%)で4割弱、福島市(32.1%)で3割強となっている。

緊急地震速報の認知度別にみると、「とても緊迫感を感じた」との回答は、知っていた(32.0%)、聞いたことはあった(37.0%)では3割台であるのに対し、知らなかった(83.3%)という層では8割を超えている。

緊急地震速報の入手媒体別にみると、「とても緊迫感を感じた」との回答は、ラジオ(41.4%)で4割強、テレビ(36.4%)で3割台半ば、携帯電話(30.4%)で3割となっている。因みに件数は少ないが、専用端末では4人のうち3人(75.0%)である。

## ■性別／年齢別／認知度別／入手媒体別



## ② 画面やアナウンスについての感想（おもな意見）

問 10 「緊急地震速報」の画面やアナウンスについて、どのように思いましたか。（自由記述）

### 内容について

- これまでの地震情報と同様に「地震があったこと」を知らせるのか、「これから地震が来ること」を知らせるのか、一目で判るものでなければ瞬時に判断できるものではない。もっと視覚的にはっきり区別してほしい。（テレビ）
- 対応は早かったが、具体的な内容がいまひとつだった。（ラジオ）
- 具体的に何をすればよいのかよくわからない。（テレビ）
- 実際に地震速報を見るのは初めてだったので驚いたが、適切なアナウンスを繰り返していたと思う。（テレビ）
- 地震発生後にテレビをつけてみたのですが、地震がおさまってもいつまでも緊急地震速報が出ている旨を繰り返していたので、白けた感じがした。（テレビ）
- もっとわかりやすくするべき。（NTT ドコモのエリアメール）
- 今まで何度か聞いたことのある「緊急地震速報のお知らせ」だと思った。（本物の速報と思わなかった）（ラジオ）
- 情報として適格だろうと思った（テレビ・ラジオ）

### 画面について

- はじめての画面だったので、テスト放送かと思った（テレビ）
- 一見したところ、通常の地震震度を知らせるアナウンスと区別がつかなかった。（テレビ）
- 時間とともに被害が拡大するのがリアルタイムで報道されて緊迫感を感じた。（テレビ）
- 最初何だかわからなかった。画面下3分の1くらいに表示されたが、緊急地震速報だと気づくのに2~3秒かかった。字幕がもっと大きくても良いのでは？（テレビ）
- 少し見にくい感じがしました。（テレビ）
- テレビの画面での速報はわかりやすかったが、音声がなかったので、目をそらしていると見逃してしまうと思う。特に今回は地震の揺れとほとんど同時に画面が出たような気がする。そのような場合、揺れがひどければ画面を注視していることは困難のように思う。（テレビ）
- 初めて見たのでびっくりしたけど、とても良かった。でも番組中断してもいいからもっと大きく発表して欲しかった。（テレビ）
- だんだん被害が拡大していくのがわかった。大きい地震被災地は普通の放送を中止してもっと地震速報番組をすべきと思う。（テレビ）
- 地震の発生中にエリアメールが届いたためあまり緊迫感がなかった（NTT ドコモのエリアメール）

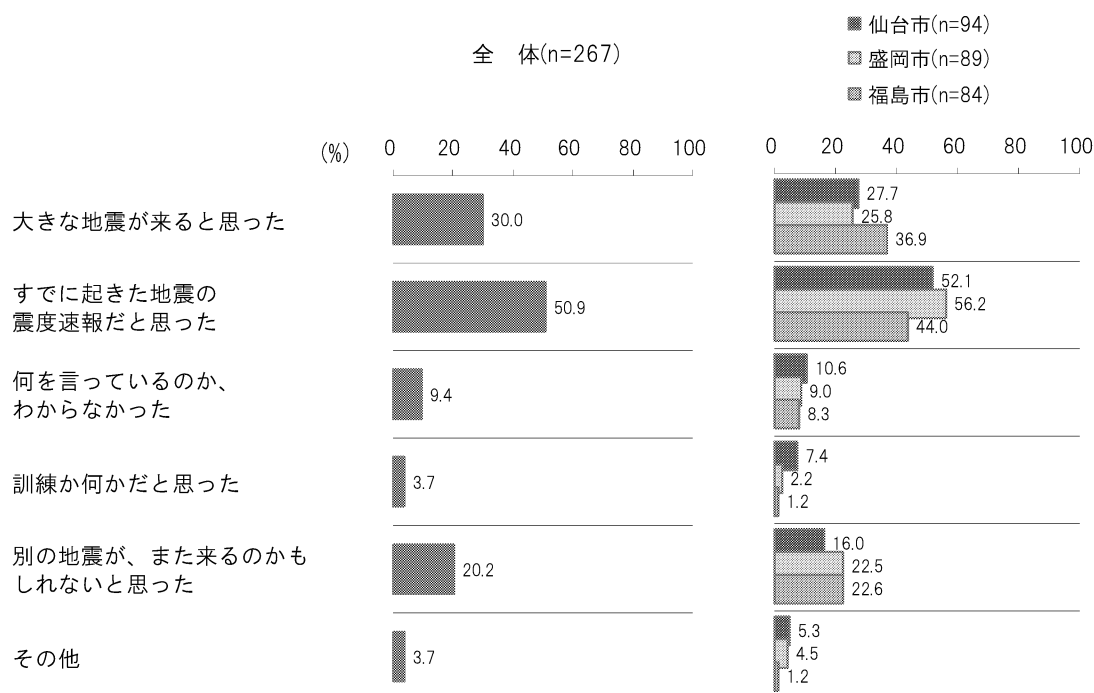
### 警告音について

- 音がけたましく、不安感をあおる（テレビ）
- 緊急ニュースの速報もそうですが、どういうアテンションにしても普通の電子音系で耳慣れた音なので緊迫感は感じない。田舎の自治体などにあるようなスピーカーからの一斉放送ぐらいのインパクトがないと、気づかないと思う。よほどテレビやラジオにかじりついて見ている人以外に意味がないと思う。（テレビ）
- テレビはつけていても、見ていなかった。速報の前に警告音的なものがあったかもしれない気がつかない。地震がきてからテレビに目がいき、その時速報が出ていた。もっと危機を知らせるように警告音をどンドン鳴らしたほうが良いのでは？気がつかないのでは意味が無い。（テレビ）
- 次に地震がくるお知らせを初めてTVで見たが、もっと分かりやすい音（警告音）の方が良いのではないかと思った。（テレビ）
- 警戒音と共に少々恐怖を感じました（テレビ）

## ③ 受け止め方

「すでに起きた地震の震度速報だと思った」が半数

問 11 「緊急地震速報」を見たり聞いたりして、どのように思いましたか。(〇はいくつでも)



緊急地震速報を入手したと回答した 267 人に対して、どのように思ったかを尋ねたところ、「すでに起きた地震の震度速報だと思った」(50.9%)との回答が最も高く半数を占めた。次いで「大きな地震が来ると思った」(30.0%)が3割、「別の地震が、また来るのかもしれないと思った」(20.2%)が2割となっている。

都市別にみると、仙台市と盛岡市は全般的に同じ傾向にあるが、福島市では「すでに起きた地震の震度速報だと思った」(44.0%)との回答が4割台半ばで他都市に比べて低く、逆に「大きな地震が来ると思った」(36.9%)がやや高くなっている。

緊急地震速報の認知度別にみると、「すでに起きた地震の震度速報だと思った」との回答は、知っていた(49.7%)、聞いたことはあった(50.0%)ではおよそ半数であるのに対し、知らなかった(75.0%)では7割台半ば(12人のうち9人)と高い。また、この知らなかった層では、「別の地震が、また来るのかもしれないと思った」(41.7%)が4割強(12人のうち5人)と比較的高くなっている。

緊急地震速報の入手媒体別にみると、「すでに起きた地震の震度速報だと思った」との回答は、ラジオ(72.4%)で最も高く7割強を占め、携帯電話(60.9%)で6割となっている。



## ■性別／年齢別／認知度別／入手媒体別

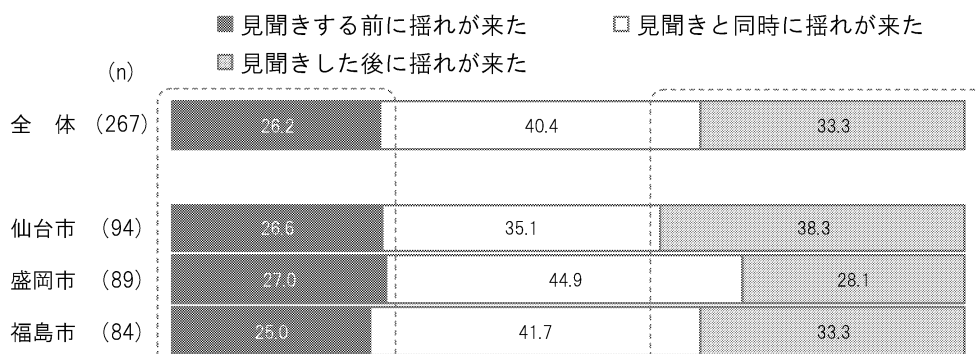
(全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	調査数	思 大 っ た な 地 震 が 来 る と	震 す で に 起 き た 地 震 の 速 報 だ と 思 っ た	か 、 わ を 言 っ て い る の な か つ た	た 訓 練 か 何 か だ と 思 っ た	思 る の か も し れ な い と 別 の 地 震 が 、 ま た 来 た	そ の 他
全体	267	30.0	50.9	9.4	3.7	20.2	3.7
性							
男性	123	27.6	55.3	8.1	2.4	14.6	4.1
女性	144	31.9	47.2	10.4	4.9	25.0	3.5
年齢							
20代	68	19.1	60.3	10.3	2.9	19.1	-
30代	86	37.2	47.7	9.3	3.5	26.7	1.2
40代	80	37.5	43.8	7.5	5.0	17.5	6.3
50代	24	12.5	62.5	12.5	4.2	8.3	12.5
60代以上	9	22.2	44.4	11.1	-	22.2	11.1
認知度							
知っていた	147	32.7	49.7	6.1	4.1	17.0	3.4
聞いたことはあった	108	27.8	50.0	13.9	3.7	22.2	4.6
知らなかった	12	16.7	75.0	8.3	-	41.7	-
入手媒体							
テレビ	231	30.7	51.9	7.8	3.0	20.3	3.9
ラジオ	29	6.9	72.4	6.9	3.4	13.8	3.4
携帯電話	23	26.1	60.9	13.0	-	30.4	-
専用受信装置	4	75.0	50.0	-	-	-	-
その他	11	36.4	36.4	18.2	18.2	18.2	-

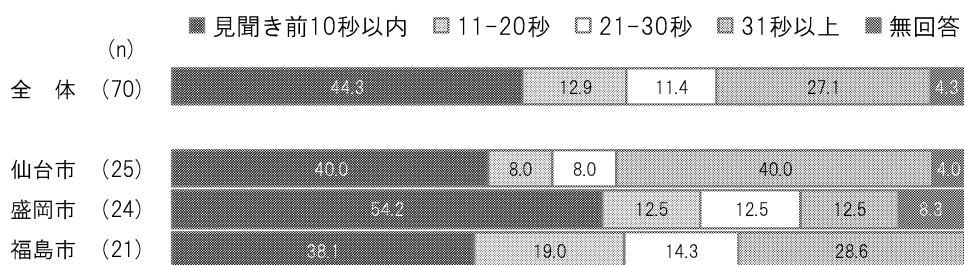
## (2) 緊急地震速報を入手したタイミング

## 「見聞きした後（＝揺れる前に速報入手）」が3割強

問12 「緊急地震速報」を見たり聞いたりしてから地震の揺れを感じるまで、だいたいどのくらいの時間がありましたか。(〇はひとつ)



[揺れが来てから速報を見聞きするまでの時間]



[速報を見聞きしてから揺れが来るまでの時間]



緊急地震速報を入手したと回答した267人に対して、どのタイミングで入手したのかを尋ねたところ、「見聞きと同時に揺れが来た」(40.4%)との回答が最も高く4割を占めた。次いで「見聞きした後に揺れが来た(＝地震前に速報入手)」(33.3%)が高く3割強となり、「見聞きする前に揺れが来た(＝地震後に速報入手)」(26.2%)は2割台半ばであった。

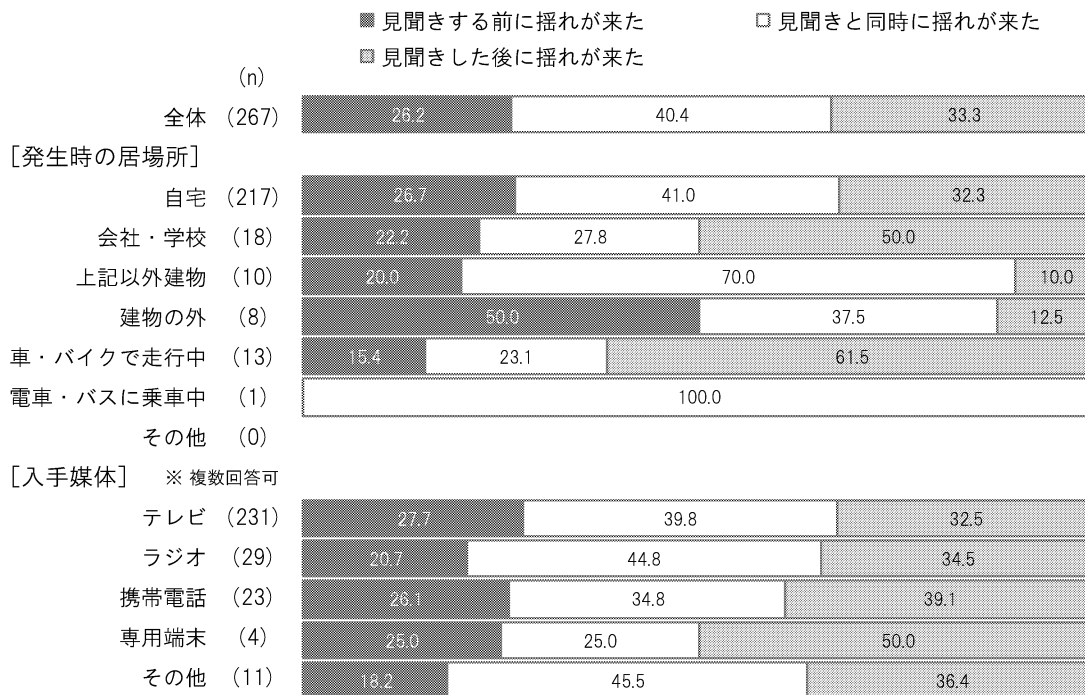
都市別にみると、「見聞きした後に揺れが来た」との回答は、仙台市(38.3%)で最も高く4割弱、盛岡市(28.1%)と福島市(33.3%)では3割程度であった。

IV. 調査結果

速報を見聞きしてから揺れが来るまでの時間（地震前に速報入手）については、「10秒以内」（65.2%）との回答が最も高く6割台半ばを占めた。都市別では、福島市（75.0%）で7割台半ば、仙台市（69.4%）でも7割弱となっている。

一方、逆に、揺れが来た後に速報を見聞きした時間（地震後に速報入手）についても、「10秒以内」（44.3%）との回答が最も高く4割台半ばとなった。「31秒以上」（27.1%）との回答も3割弱と次いで高くなっている。なお、「31秒以上」との回答は、仙台市（40.0%）で4割となり他都市に比べて高くなった。

■発生時の居場所別／入手媒体別

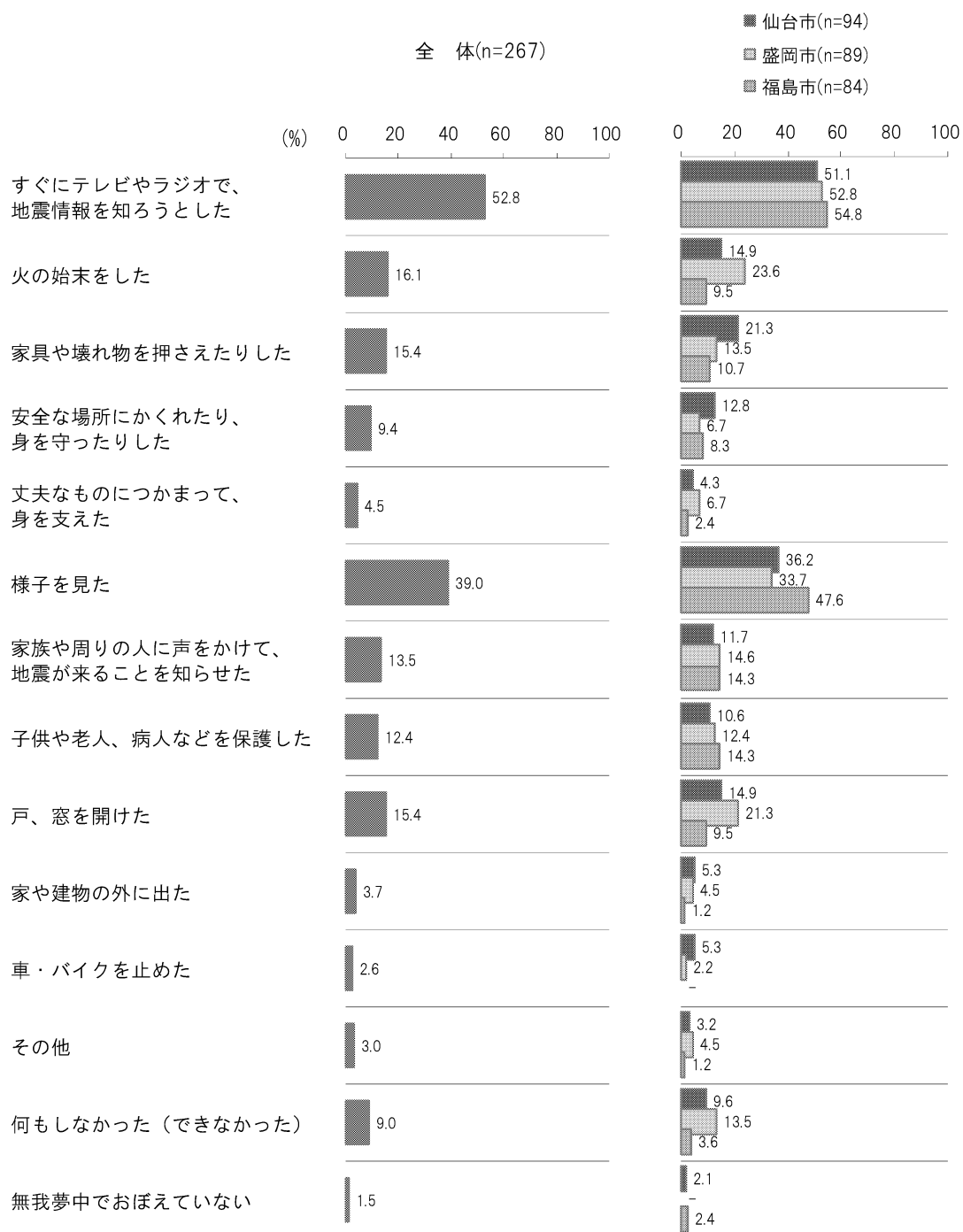


## (3) 緊急地震速報を入手した後の行動

## ① 対応行動

「火の始末」「家具などを押さえた」「戸、窓を開けた」が1割台半ば

問 13 「緊急地震速報」を見たり聞いたりして、あなたはどうしましたか。(〇はいくつでも)



IV. 調査結果

緊急地震速報を入手したと回答した 267 人に対して、速報を見聞きしてどうしたかを尋ねたところ、「すぐにテレビやラジオで地震情報を知ろうとした」(52.8%) との回答が最も高く過半数を占めた。次いで「様子を見た」(39.0%) が 4 割弱と高いが、具体的な行動としては、「火の始末をした」(16.1%)、「家具や壊れ物を押さえたりした」(15.4%)、「戸、窓を開けた」(15.4%)、「家族や周りの人に声をかけて、地震が来ることを知らせた」(13.5%)、「子供や老人、病人などを保護した」(12.4%) が 1 割を超えた。なお、「何もしなかった(できなかった)」(9.0%) は 1 割に満たなかった。

都市別にみると、「すぐにテレビやラジオで地震情報を知ろうとした」との回答は、福島市(54.8%)で最も高く、盛岡市(52.8%)、仙台市(51.1%)の順となっている。「様子を見た」との回答も福島市(47.6%)で高い。福島市では、仙台市・盛岡市に比べて、速報の入手からある程度の時間的余裕があったことがうかがえる。なお、仙台市では、「家具や壊れ物を押さえたりした」(21.3%)、「安全な場所にかくれたり、身を守ったりした」(12.8%)などが他都市に比べて高くなっており、身の安全を確保しようとする行動がとられている。

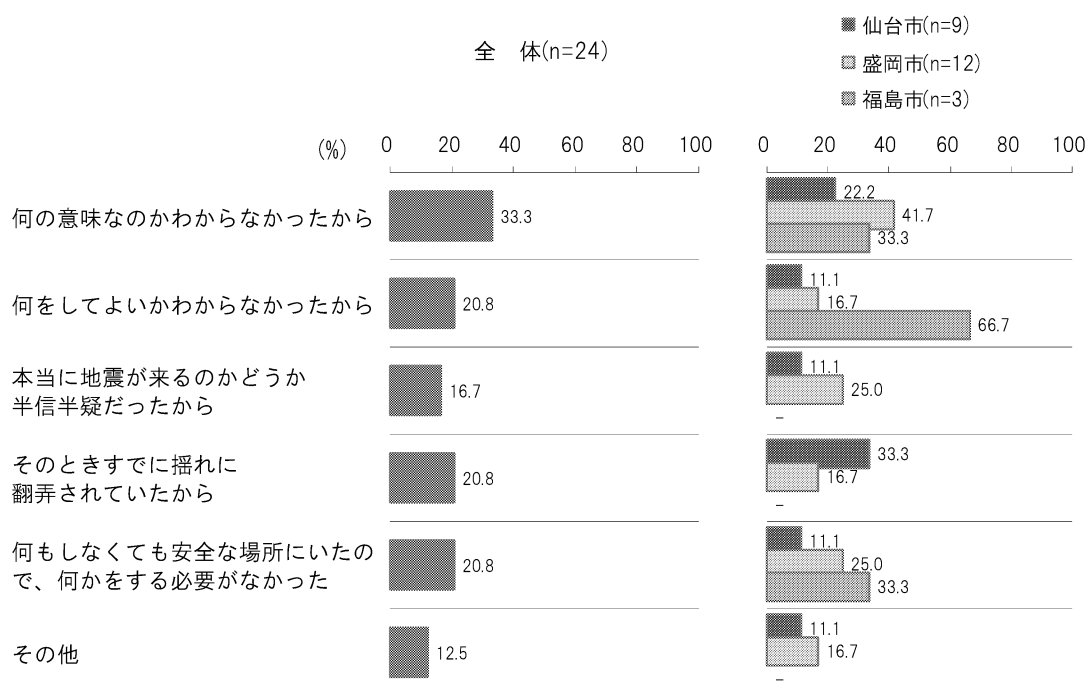
■性別／年齢別／地震時の居場所別／認知度別／入手状況別／緊迫感別 (全体と比べて 10 ポイント以上高いものに網掛け)

	調査数	すぐにテレビ情報やラジオで、地震を知った	火の始末をした	家具や壊れ物を押さえたりした	安全な場所にかくれたり、身を守ったりした	丈夫なものにつかまったり、身を支えた	様子を見た	家族や周りの人に声をかけて、地震が発生したことを知らせた	子供や老人、病人などを保護した	戸、窓を開けた	家や建物の外に出た	車・バイクを止めて	その他	何もしなかった(できなかった)	無我夢中でおぼえていない
全体	267	52.8	16.1	15.4	9.4	4.5	39.0	13.5	12.4	15.4	3.7	2.6	3.0	9.0	1.5
性															
男性	123	51.2	13.0	19.5	5.7	4.9	39.8	8.9	7.3	8.9	2.4	3.3	1.6	9.8	0.8
女性	144	54.2	18.8	11.8	12.5	4.2	38.2	17.4	16.7	20.8	4.9	2.1	4.2	8.3	2.1
年齢															
20代	68	57.4	11.8	8.8	10.3	1.5	51.5	10.3	13.2	14.7	2.9	-	1.5	7.4	-
30代	86	50.0	16.3	16.3	15.1	2.3	27.9	17.4	19.8	19.8	2.3	1.2	2.3	12.8	2.3
40代	80	46.3	16.3	16.3	1.3	6.3	45.0	12.5	7.5	11.3	3.8	5.0	5.0	8.8	-
50代	24	70.8	20.8	12.5	16.7	12.5	25.0	16.7	4.2	16.7	8.3	8.3	-	4.2	8.3
60代以上	9	55.6	33.3	55.6	-	11.1	33.3	-	-	11.1	11.1	-	11.1	-	-
地震時の居場所															
自宅	217	53.9	18.0	17.5	10.1	5.1	39.2	15.7	15.2	17.1	4.6	-	2.8	7.4	0.5
会社・学校	18	61.1	5.6	5.6	16.7	-	33.3	5.6	-	16.7	-	5.6	11.1	11.1	5.6
上記以外の建物の中にいた	10	50.0	10.0	20.0	-	-	40.0	10.0	-	-	-	-	-	-	10.0
建物の外にいた	8	37.5	12.5	-	-	12.5	62.5	-	-	-	-	-	-	25.0	-
車・バイクで走っていた	13	38.5	7.7	-	-	-	30.8	-	-	7.7	-	46.2	0.0	30.8	-
電車やバスなどに乗っていた	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
認知度															
知っていた	147	57.8	15.6	15.0	10.9	4.8	36.7	12.2	12.9	12.2	4.1	2.0	1.4	9.5	1.4
聞いたことはあった	108	47.2	15.7	14.8	8.3	3.7	38.0	14.8	13.0	17.6	3.7	2.8	4.6	9.3	1.9
知らなかった	12	41.7	25.0	25.0	-	8.3	75.0	16.7	-	33.3	-	8.3	8.3	-	-
入手状況															
見聞きする前に揺れた	70	60.0	12.9	14.3	5.7	2.9	41.4	11.4	15.7	14.3	1.4	2.9	2.9	5.7	-
見聞きと同時に揺れた	108	48.1	20.4	18.5	11.1	6.5	32.4	10.2	8.3	12.0	2.8	1.9	-	11.1	1.9
見聞きした後に揺れた	89	52.8	13.5	12.4	10.1	3.4	44.9	19.1	14.6	20.2	6.7	3.4	6.7	9.0	2.2
緊迫感															
緊迫感あり	218	57.8	18.3	16.1	9.6	5.0	37.6	14.2	14.2	15.6	3.7	2.3	3.2	6.9	1.8
緊迫感なし	49	30.6	6.1	12.2	8.2	2.0	44.9	10.2	4.1	14.3	4.1	4.1	2.0	18.4	-

## ② 何もしなかった（できなかった）理由

「意味がわからなかった」が3割強

問 14 何もしなかった（できなかった）理由をお答えください。（○はいくつでも）



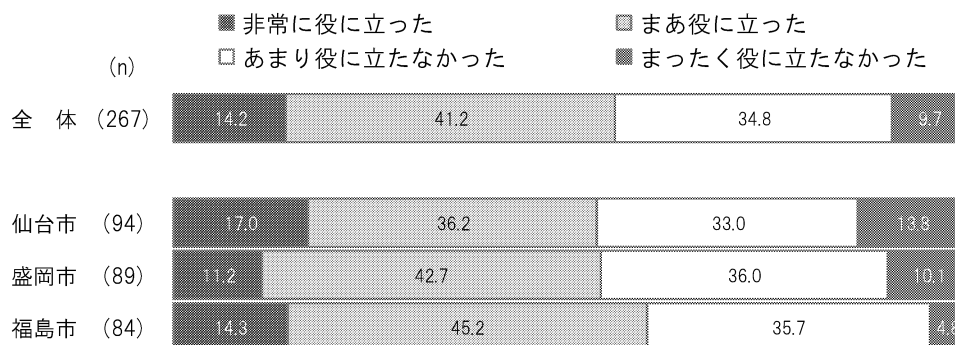
緊急地震速報を入手したときに、特に何もしなかった（あるいはできなかった）と回答した24人に対して、その理由を尋ねたところ、「何の意味がわからなかった」（33.3%）との回答が最も高く3割強となった。次いで「何をしてもよいかわからなかったから」、「そのときすでに揺れに翻弄されていたから」、「何もしなくても安全な場所にいたので、何かをする必要がなかった」（いずれも20.8%）が2割となっている。

## (4) 今回の緊急地震速報の評価

## ① 有用性

「(非常に+まあ)役に立った」が過半数

問 15 今回の「緊急地震速報」は、あなたご自身にとって役に立ちましたか。(○はひとつ)



緊急地震速報を入手したと回答した 267 人に対して、その情報が役に立ったかを尋ねたところ、「まあ役に立った」(41.2%) との回答が最も高く 4 割強、「非常に役に立った」(14.2%) を合わせると、過半数が役に立ったとしている。「まったく役に立たなかった」(9.7%) は 1 割に満たない。

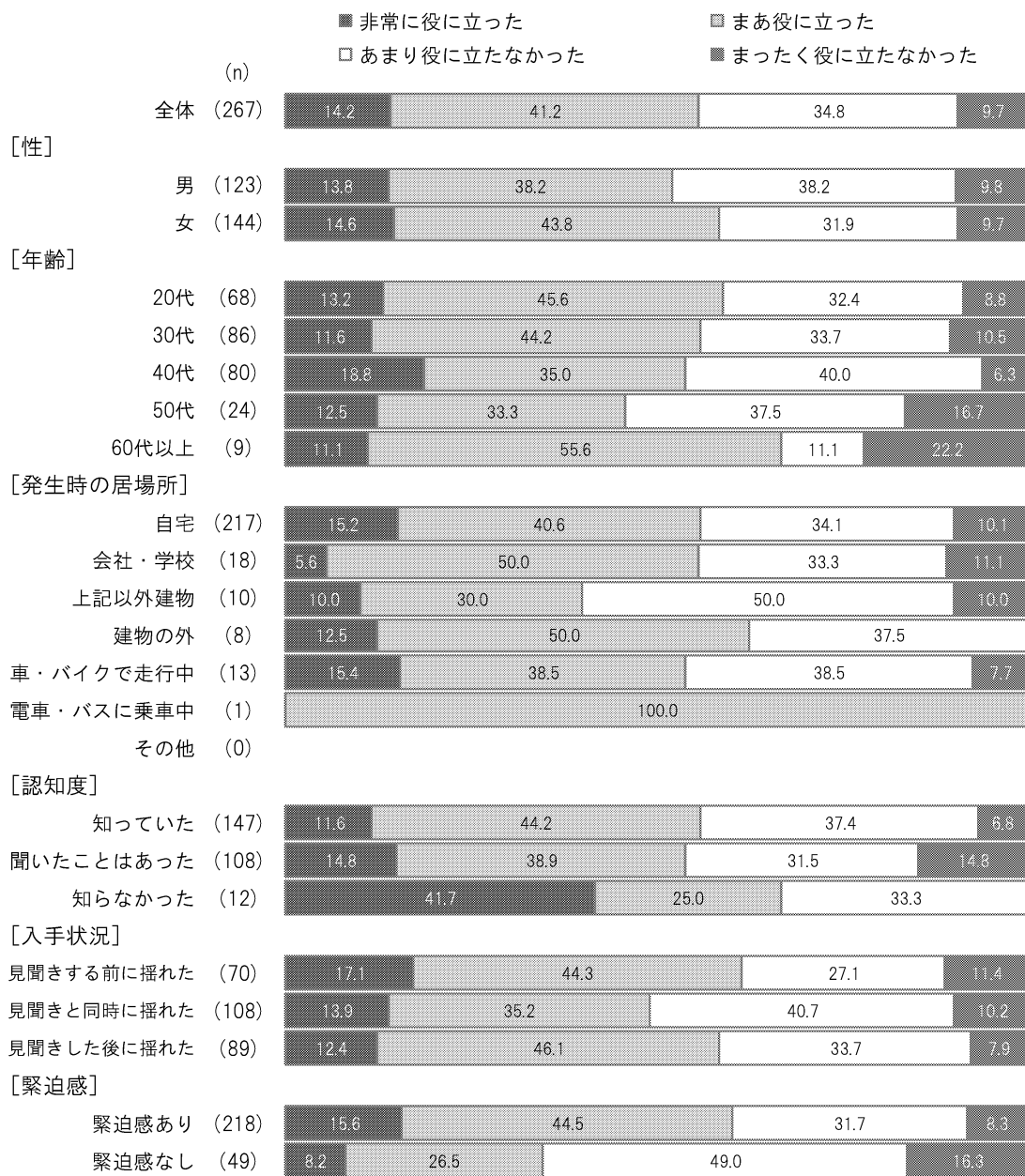
都市別にみると、役に立った(「非常に役に立った」+「まあ役に立った」)との回答は、福島市(59.5%)で最も高く 6 割弱を占めた。仙台市(53.2%)、盛岡市(53.9%)では過半数となっている。

年齢別にみると、役に立った(「非常に役に立った」+「まあ役に立った」)との回答は、20 代(58.8%)、30 代(55.8%)など若年層で高くなる傾向がある。

地震時の居場所別にみると、役に立った(「非常に役に立った」+「まあ役に立った」)との回答は、屋内では、自宅(55.8%)、会社・学校(55.6%)で 5 割台半ばとなるに対し、上記(自宅・会社・学校)以外の建物(40.0%)では 4 割にとどまっている。また、建物の外では 8 人中 5 人となっている。

緊急地震速報の緊迫感別にみると、役に立った(「非常に役に立った」+「まあ役に立った」)との回答は、緊迫感があった(60.1%)という層で 6 割と高くなっている。

■性別／年齢別／発生時の居場所別／認知度別／入手状況別／緊迫感別

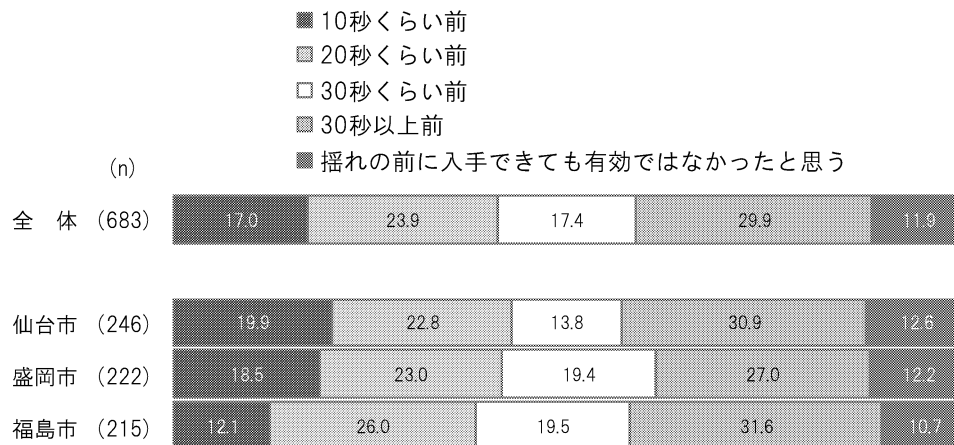




② 今回の地震で緊急地震速報が有効となる猶予時間

「30秒以上前」が3割

問16 今回の地震では、「緊急地震速報」を地震の揺れが来る何秒くらい前に入手できていれば、情報は有効だったと思いますか。(〇はひとつ)



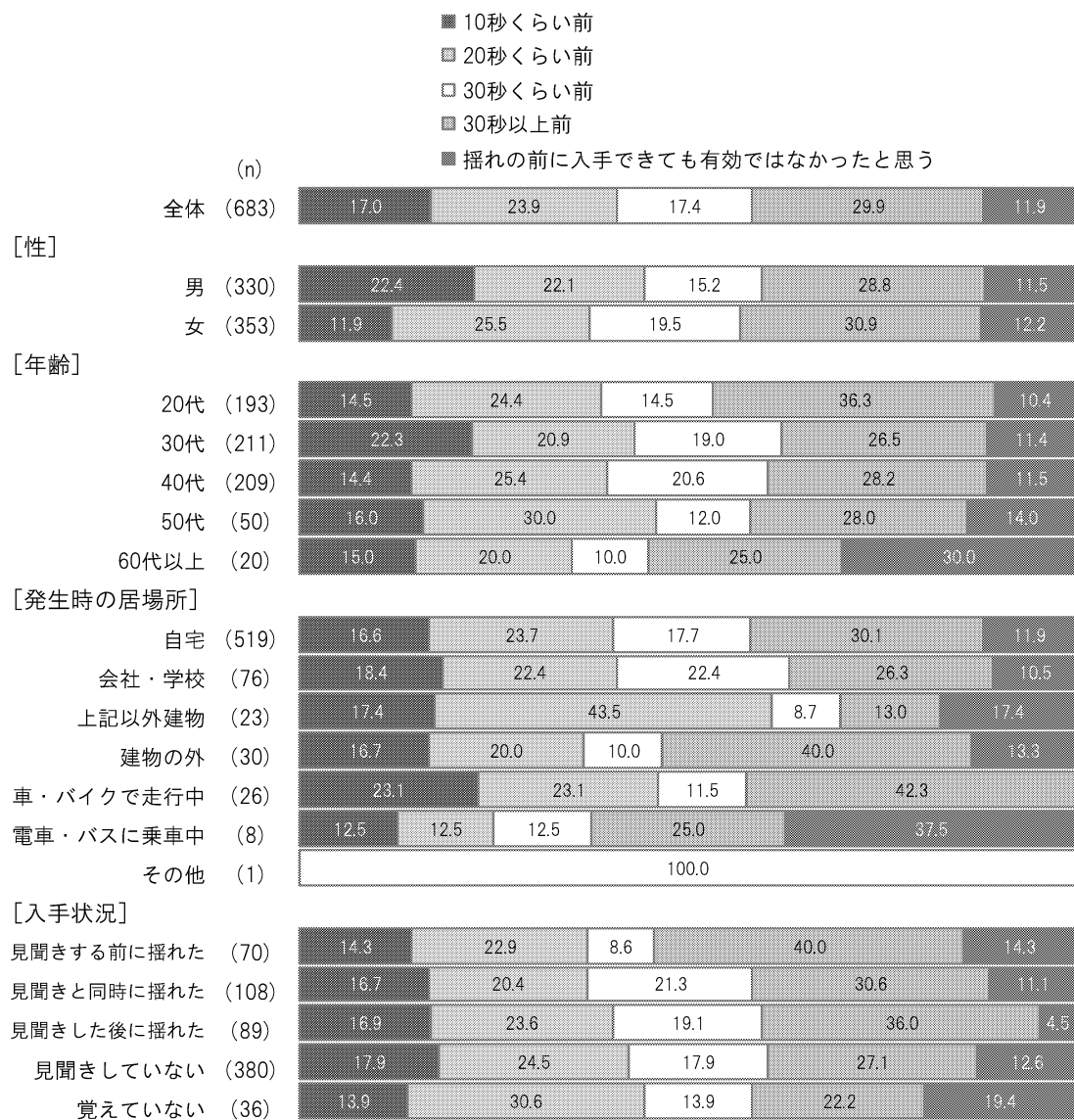
今回の地震で、緊急地震速報を地震の揺れが来る何秒前に入手していたら有効だったと思うかを尋ねたところ、「30秒以上前」(29.9%)との回答が最も高く3割弱となった。「10秒くらい前」(17.0%)、「20秒くらい前」(23.9%)、「30秒くらい前」(17.4%)はそれぞれ2割程度であった。「揺れの前に入手できてでも有効ではなかったと思う」(11.9%)は1割強だった。

都市別にみると、「30秒以上前」との回答は、仙台市(30.9%)、盛岡市(27.0%)、福島市(31.6%)いずれでも最も高く3割程度となっている。「10秒くらい前」は、仙台市(19.9%)、盛岡市(18.5%)で2割弱となり、福島市(12.1%)に比べ高い。

今回の地震のケースで緊急地震速報の猶予時間を有効と考える割合

	仙台市 (n=246)		盛岡市 (n=222)		福島市 (n=215)	
		累計		累計		累計
「10秒くらい前」まで	19.9 %	19.9 %	18.5 %	18.5 %	12.1 %	12.1 %
「20秒くらい前」まで	22.8	42.7	23.0	41.5	26.0	38.1
「30秒くらい前」まで	13.8	56.6	19.4	60.9	19.5	57.6
「30秒以上前」まで	30.9	87.4	27.0	87.9	31.6	89.2

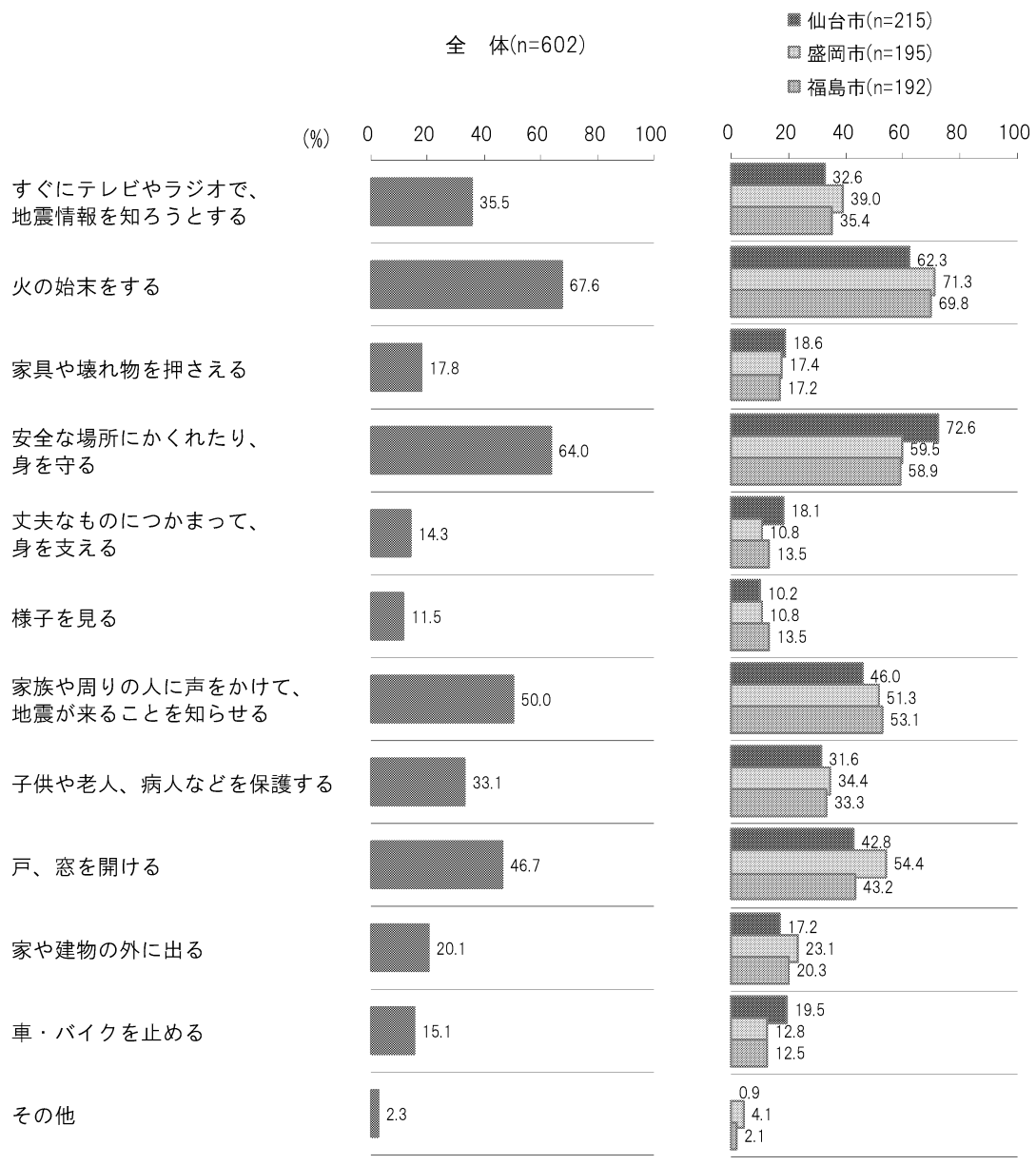
## ■性別／年齢別／地震時の居場所別／入手状況別



③ 猶予時間がある場合の行動

「火の始末」「身を守る」が6割超、仙台では「身を守る」が7割強

問 17 もし今後岩手・宮城内陸地震と同じような規模の地震が発生した場合、地震の揺れが来る前に「緊急地震速報」が入手できていたとすれば、どのようなことをすると思いますか。(〇はいくつでも)



今回の地震で、緊急地震速報を地震の揺れが来る前に入手していたら有効だったと回答した 602 人に対して、揺れの前に速報を入手したらどうするかを尋ねたところ、「火の始末をする」(67.6%) との回答が最も高く、「安全な場所にかくれたり、身を守る」(64.0%) も 6 割を超えた。次いで「家族や周りの人に声をかけて、地震が来ることを知らせる」(50.0%)、「戸、窓を開ける」(46.7%) が 5 割程度となった。今回の緊急地震速報を入手した後の実際の行動と比較すると(25 ページ参照)、「すぐにテレビやラジオで地震情報を知ろうとした」(52.8%) や「様子を見た」(39.0%) などが高くなってはいたが、多くが身を守る行動をとろうと考えていることがわかる。

都市別にみると、「安全な場所にかくれたり、身を守る」との回答は、今回の調査対象で最も震源に近い仙台市(72.6%) で最も高く 7 割強を占めている。盛岡市(59.5%) と福島市(58.9%) では 6 割弱となっており、これらの都市では「火の始末をする」(盛岡市 71.3%・福島市 69.8%) が 7 割程度を占めている。

■性別／年齢別／地震時の居場所別／入手状況別／緊迫感別 (全体と比べて 10 ポイント以上高いものに網掛け)

	調査数	すぐにテレビやラジオで地震情報を知ろうとする	火の始末をする	家具や壊れ物を押さえる	安全な場所にかくれたり、身を守る	丈夫なものにつかまったり、身を支える	様子を見る	家族や周りの人に声をかけて、地震が発生したことを知らせる	子供や老人、病人などを保護する	戸、窓を開ける	家や建物の外に出る	車・バイクを止める	その他
全体	602	35.5	67.6	17.8	64.0	14.3	11.5	50.0	33.1	46.7	20.1	15.1	2.3
性別													
男性	292	31.8	63.4	18.2	58.6	14.0	9.9	47.6	26.7	39.4	20.2	18.8	0.3
女性	310	39.0	71.6	17.4	69.0	14.5	12.9	52.3	39.0	53.5	20.0	11.6	4.2
年齢													
20代	173	35.3	71.1	19.1	67.1	20.8	11.0	50.3	27.2	47.4	25.4	14.5	0.6
30代	187	32.6	67.9	21.4	66.8	15.5	11.8	47.6	36.9	47.6	17.6	12.8	2.1
40代	185	35.7	66.5	14.6	56.8	7.6	10.3	55.7	38.9	47.6	16.8	15.7	4.3
50代	43	44.2	62.8	14.0	72.1	14.0	14.0	46.5	25.6	37.2	18.6	30.2	-
60代以上	14	50.0	50.0	7.1	57.1	7.1	21.4	14.3	-	42.9	35.7	-	7.1
地震時の居場所													
自宅	457	36.5	69.6	18.8	65.0	14.9	12.9	51.2	35.0	51.4	19.5	12.3	2.8
会社・学校	68	33.8	52.9	16.2	61.8	13.2	8.8	42.6	23.5	26.5	27.9	14.7	-
上記以外の建物の中にいた	19	42.1	68.4	15.8	52.6	15.8	5.3	47.4	31.6	36.8	21.1	15.8	5.3
建物の外にいた	26	23.1	76.9	11.5	57.7	15.4	3.8	46.2	34.6	46.2	19.2	23.1	-
車・バイクで走っていた	26	30.8	65.4	7.7	65.4	3.8	7.7	53.8	26.9	30.8	15.4	57.7	-
電車やバスなどに乗っていた	5	20.0	40.0	40.0	80.0	-	-	60.0	20.0	20.0	-	20.0	-
その他	1	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
入手状況													
見聞きする前に揺れた	60	45.0	63.3	20.0	63.3	11.7	15.0	51.7	33.3	50.0	20.0	16.7	-
見聞きと同時に揺れた	96	43.8	65.6	16.7	59.4	12.5	7.3	37.5	27.1	42.7	17.7	14.6	3.1
見聞きした後揺れた	85	40.0	68.2	22.4	62.4	16.5	18.8	56.5	34.1	54.1	21.2	15.3	4.7
見聞きしていない	332	31.0	69.3	16.6	66.3	15.1	10.8	51.2	34.0	46.1	20.5	14.5	2.1
覚えていない	29	27.6	62.1	17.2	58.6	10.3	3.4	55.2	37.9	37.9	20.7	20.7	-
緊迫感													
緊迫感あり	197	45.2	66.5	22.3	62.4	13.2	13.2	48.7	33.5	50.3	19.3	14.2	3.0
緊迫感なし	44	31.8	63.6	6.8	56.8	15.9	13.6	43.2	20.5	40.9	20.5	20.5	2.3

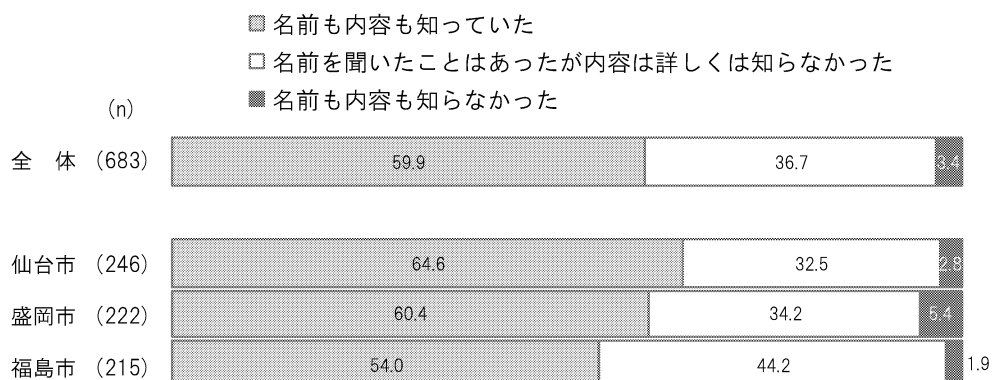
## 4 緊急地震速報に対する認識

### (1) 緊急地震速報に対する認識

#### ① 認知度

「名前も内容も知っていた」が6割

問 18 今回、「緊急地震速報」が出される前に、「緊急地震速報」のことを知っていましたか（○はひとつ）

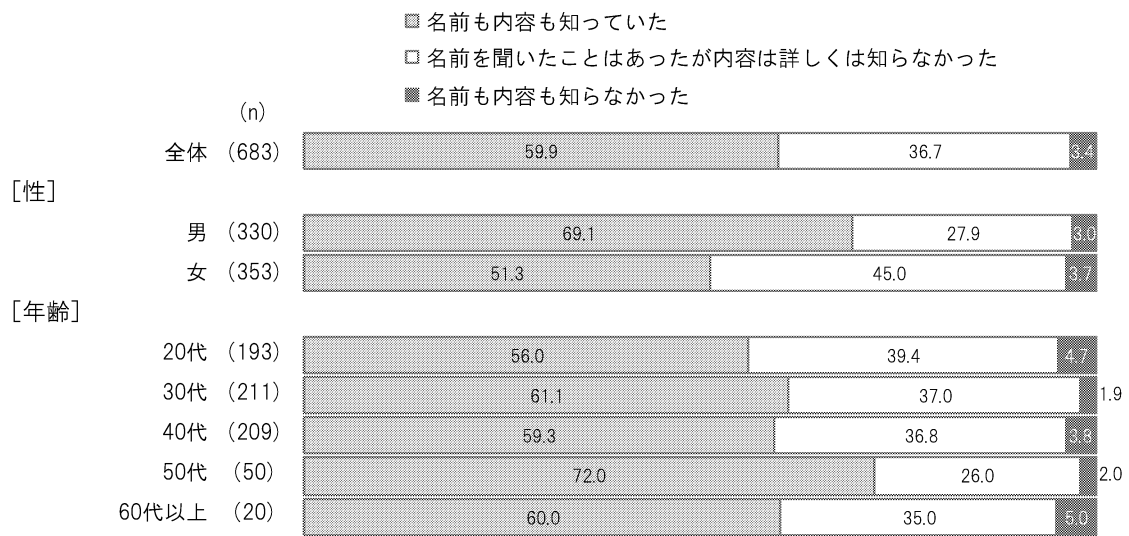


緊急地震速報を今回の地震の前に知っていたかどうかを尋ねたところ、「名前も内容も知っていた」(59.9%)との回答が最も高く6割を占めた。「名前を聞いたことはあったが内容は詳しく知らなかった」(36.7%)が3割台半ば、「名前も内容も知らなかった」はわずか3.4%であった。

都市別にみると、「名前も内容も知っていた」との回答は、仙台市(64.6%)で最も高く6割台半ば、盛岡市(60.4%)で6割となった。なお、福島市では、「名前を聞いたことはあったが内容は詳しく知らなかった」(44.2%)が4割台半ばを占めている。

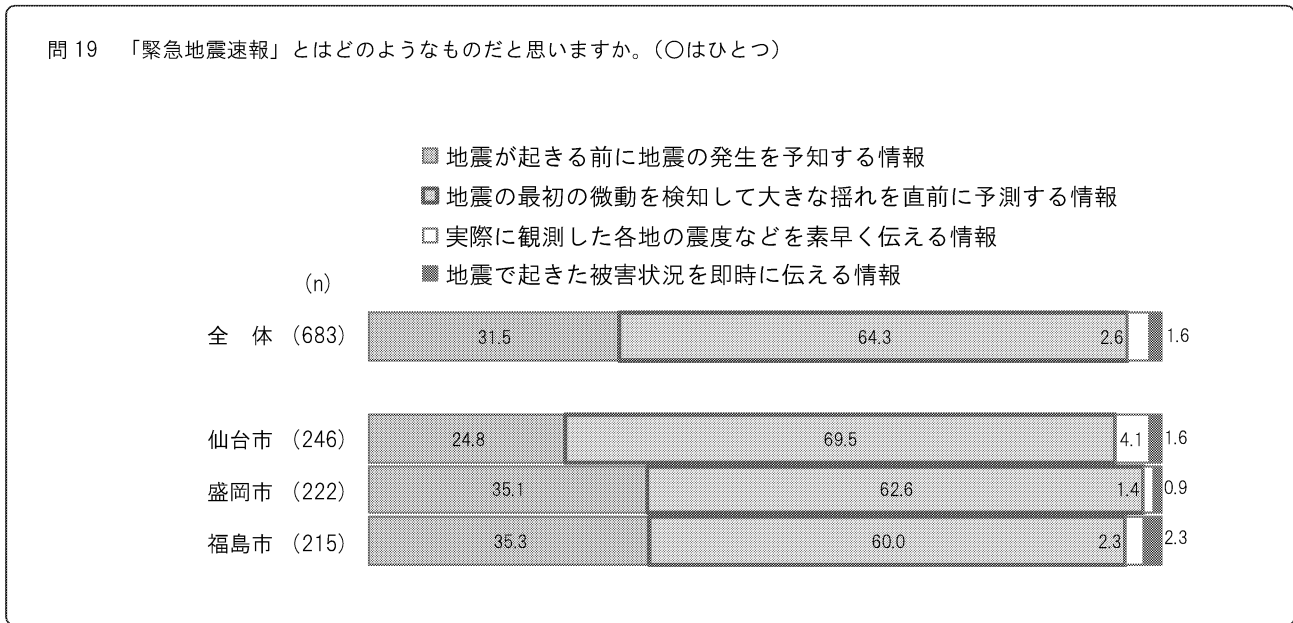
性別にみると、「名前も内容も知っていた」との回答は、男(69.1%)では7割弱であるのに対し、女(51.3%)では5割強と低い。女では「名前を聞いたことはあったが内容は詳しく知らなかった」(45.0%)が4割台半ばを占め回答が分かれている。

## ■ 性別／年齢別



② 理解度

正解（「地震の最初の微動を検知して大きな揺れを直前に予測」）は6割台半ば



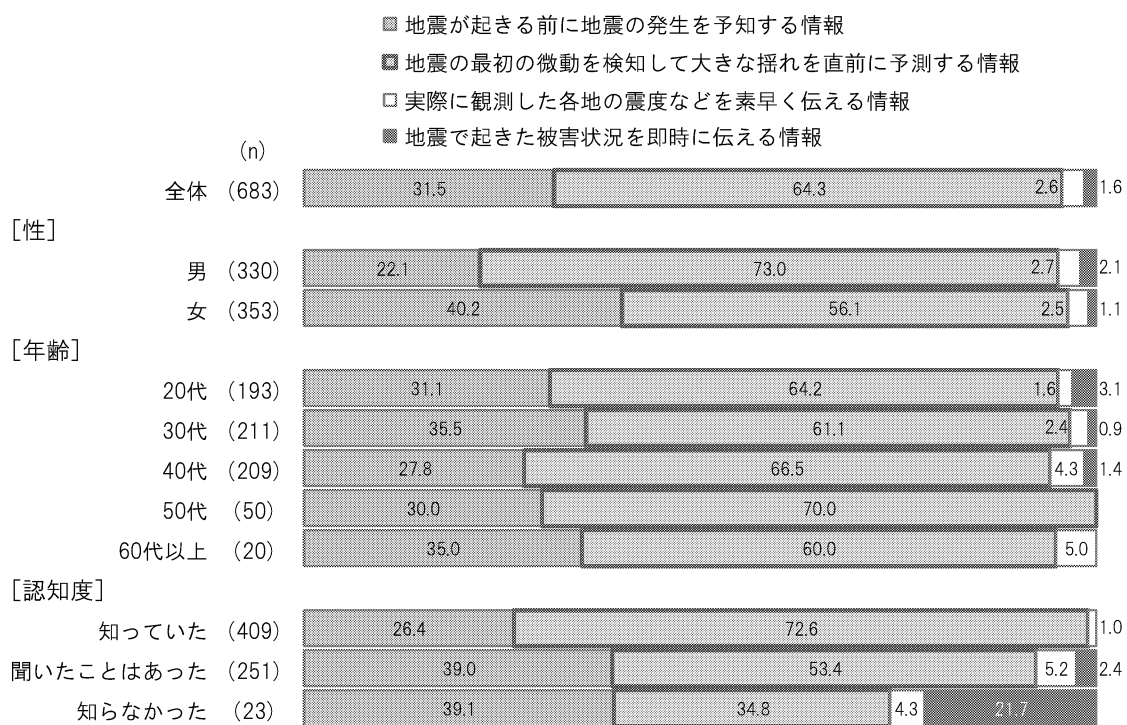
緊急地震速報の内容についての理解度を尋ねたところ、正解である「地震の最初の微動を検知して大きな揺れを直前に予測する情報」（64.3%）との回答が最も高く6割台半ばを占めた。「地震が起きる前に地震の発生を予知する情報」（31.5%）が3割強となった。

都市別にみると、「地震の最初の微動を検知して大きな揺れを直前に予測する情報」との回答は、仙台市（69.5%）で最も高く7割弱、盛岡市（62.6%）、福島市（60.0%）では6割程度となっている。「地震が起きる前に地震の発生を予知する情報」は、盛岡市（35.1%）、福島市（35.3%）では3割台半ばとなり、仙台市（24.8%）に比べてやや高い。

性別にみると、「地震の最初の微動を検知して大きな揺れを直前に予測する情報」との回答は、男（73.0%）で7割強となるのに対し、女（56.1%）では5割台半ばにとどまっている。

緊急地震速報の認知度別にみると、「地震の最初の微動を検知して大きな揺れを直前に予測する情報」との回答は、知っていた（72.6%）という層で最も高く7割強、聞いたことはあった（53.4%）で5割強、知らない（34.8%）では3割台半ばと、認知度が低くなるにしたがって正解率も低くなっている。また、「地震が起きる前に地震の発生を予知する情報」は、聞いたことはあった（39.0%）、知らない（39.1%）というという認知度の低い層では4割弱を占めている。なお、知らないという層では、「地震で起きた被害状況を即時に伝える情報」（21.7%）も比較的高く2割強となっている。

## ■ 性別／年齢別／認知度別



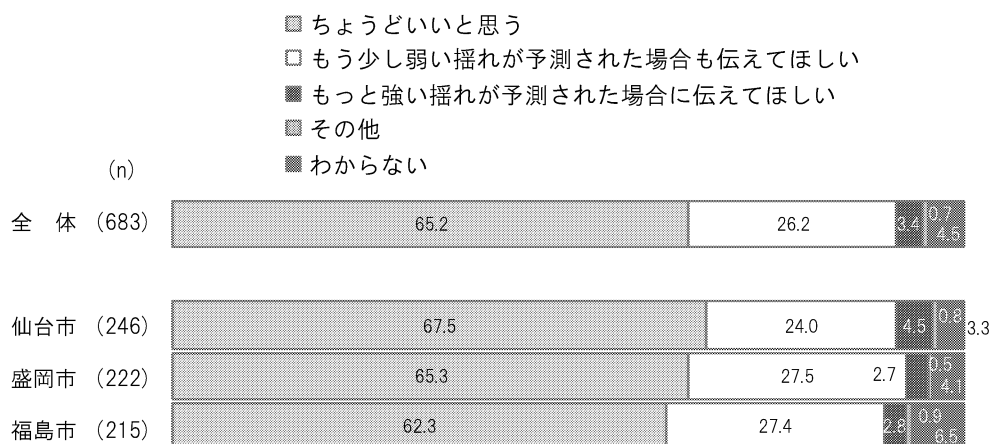


(2) 緊急地震速報の伝達に対する意識

① 伝達対象とする基準

「ちょうどいいと思う」が6割台半ば

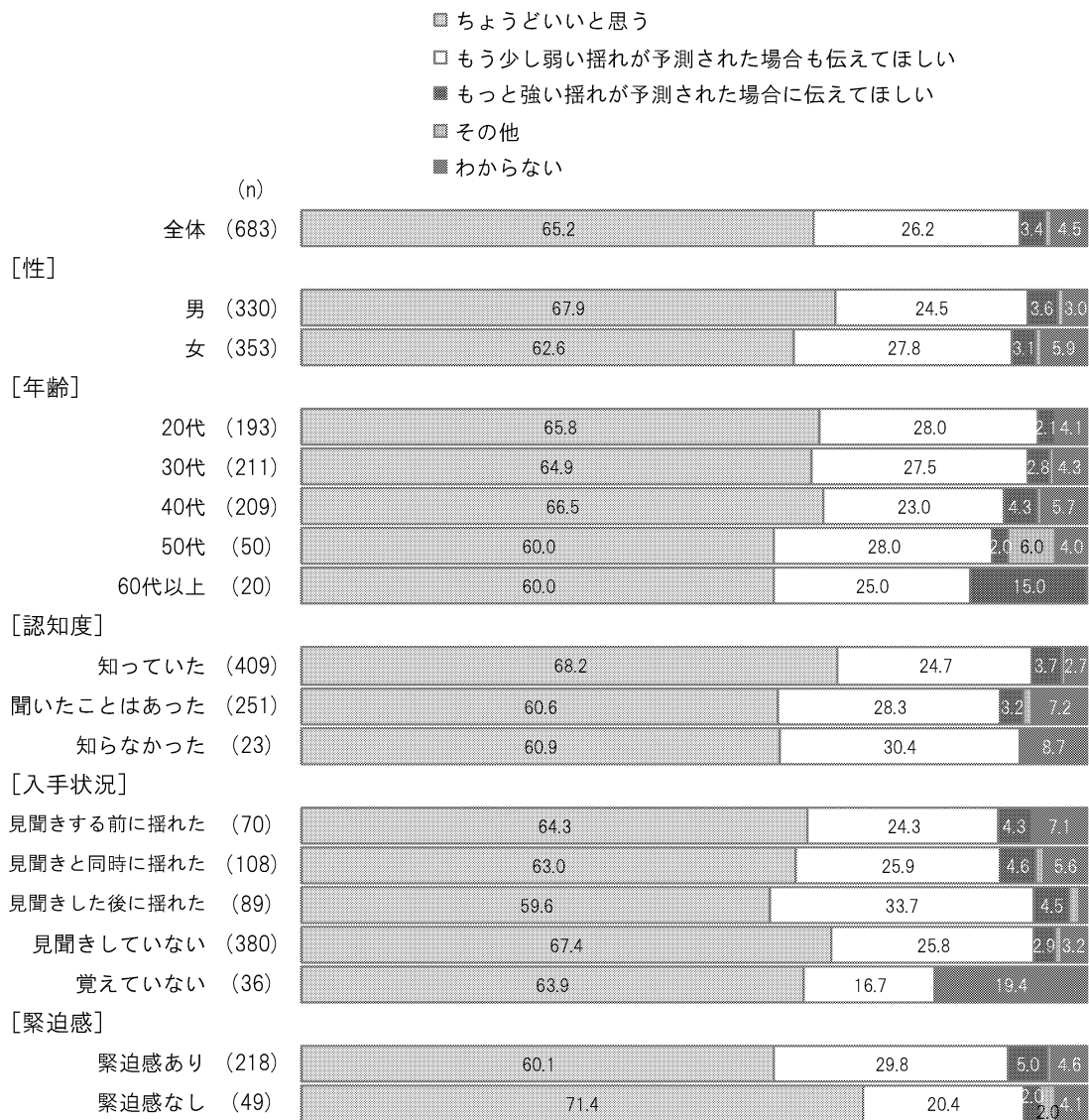
問 20 テレビ・ラジオならびに携帯電話では、現在、「緊急地震速報」は「震度5弱（あるいは震度5強）以上の揺れが予想される地震が発生した場合に、震度4以上の揺れが来る地域」を対象に伝えられます。この基準について、あなたはどのように思いますか。（〇はひとつ）



テレビやラジオならびに携帯電話における、緊急地震速報の伝達対象（震度5弱あるいは震度5強以上の揺れが予想される地震が発生した場合に、震度4以上の揺れが来る地域）となる基準について尋ねたところ、「ちょうどいいと思う」（65.2%）との回答が最も高く6割台半ばを占めた。また「もう少し弱い揺れが予測された場合にも伝えてほしい」（26.2%）が2割台半ばとなった。

都市別にみると、「ちょうどいいと思う」との回答は、仙台市（67.5%）で最も高く7割弱、盛岡市（65.3%）で6割台半ば、福島市（62.3%）では6割強となっている。「もう少し弱い揺れが予測された場合にも伝えてほしい」は、盛岡市（27.5%）、福島市（27.4%）で3割弱となり、仙台市（24.0%）に比べてやや高い。

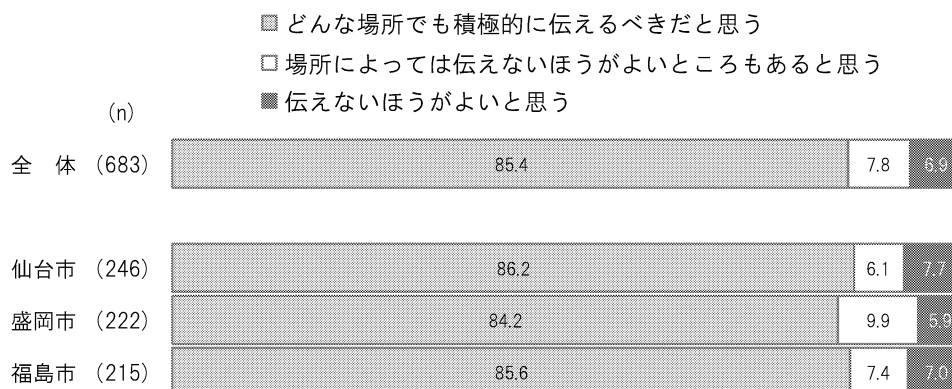
## ■性別／年齢別／認知度別／入手状況別／緊迫感別



## ② 自治体や集客施設における伝達

「どんな場所でも積極的に伝えるべき」が8割台半ば

問 21 自治体や集客施設の一部では、「緊急地震速報」によって混乱や望ましくない対応が生じることを懸念して、この速報を一般の人々に伝えないところもあります。あなたは、このような対応についてどう思いますか。(〇はひとつ)



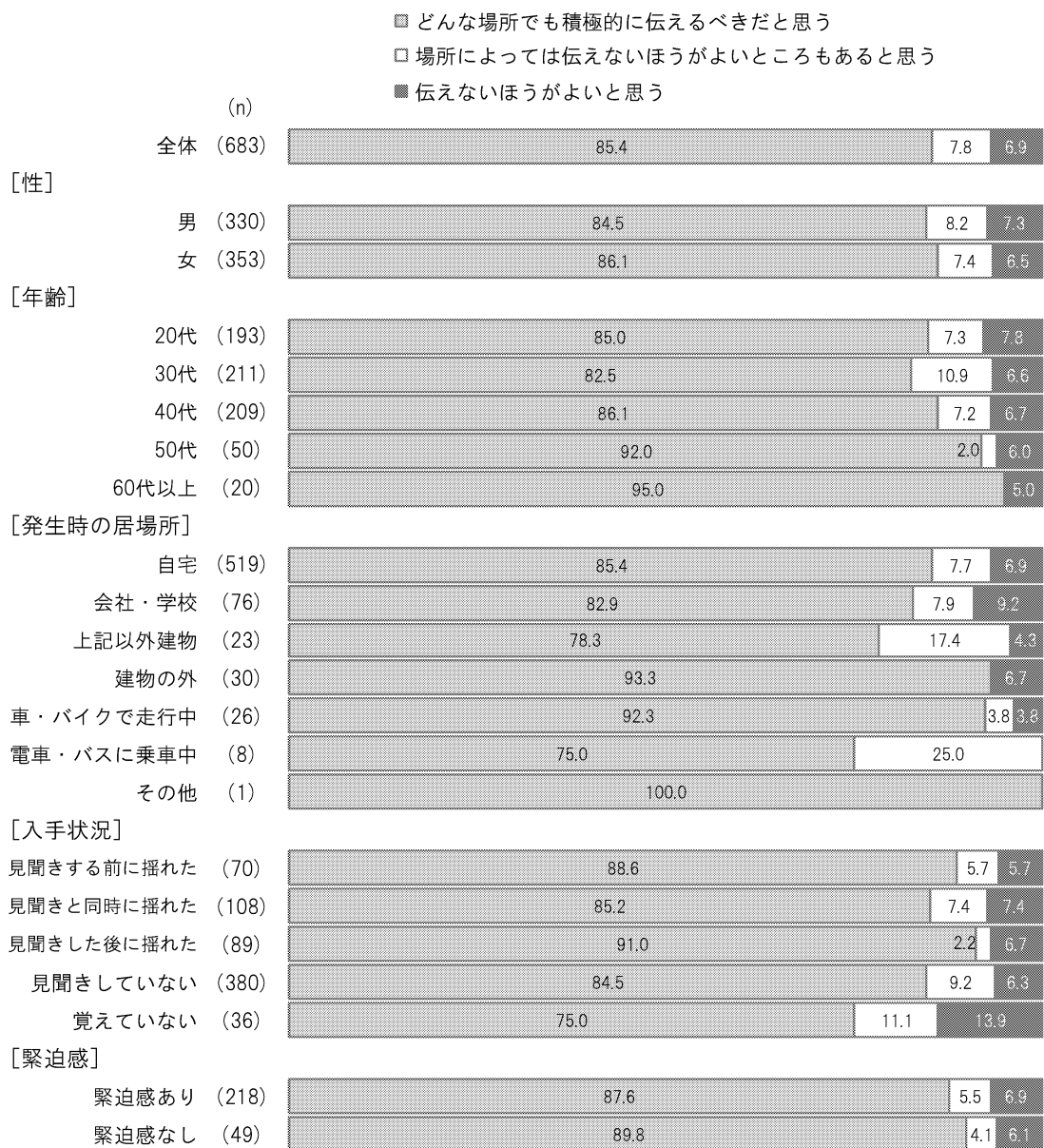
自治体や集客施設においての緊急地震速報伝達による混乱などを懸念した対応について尋ねたところ、「どんな場所でも積極的に伝えるべきだと思う」(85.4%)との回答が最も高く8割台半ばを占めた。「場所によっては伝えないほうがよいところもあると思う」(7.8%)、「伝えないほうがよいと思う」(6.9%)という消極的な回答は1割にも満たなかった。これは都市別でも同様の傾向である。

年齢別にみると、「どんな場所でも積極的に伝えるべきだと思う」との回答は、いずれの年代でも9割に近い割合となっているが、20代(85.0%)で8割台半ばであったのが50代(92.0%)で9割を超え、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。

地震発生時の居場所別にみると、「どんな場所でも積極的に伝えるべきだと思う」との回答は、屋内(自宅:85.4%、会社・学校:82.9%、上記以外の建物:78.3%)では8割程度であるのに対し、建物の外(93.3%)、車・バイクで走行中(92.3%)では9割を超え、積極的に伝えるべきとの意向が強い。

緊急地震速報の入手状況別にみると、「どんな場所でも積極的に伝えるべきだと思う」との回答は、今回の地震では速報を入手していない、見聞きしていない(84.5%)や覚えていない(75.0%)という層に比べ、見聞きした層で高い傾向にあり、特に見聞きした後に揺れた(揺れる前に速報を入手/91.0%)では9割を超えている。

## ■性別／年齢別／地震時の居場所別／入手状況別／緊迫度別



## (3) 地震被害軽減への有用性

「(非常に+ある程度)役に立つ」が8割台半ば

問 22 「緊急地震速報」は地震被害の軽減に役立つと思いますか。(〇はひとつ)



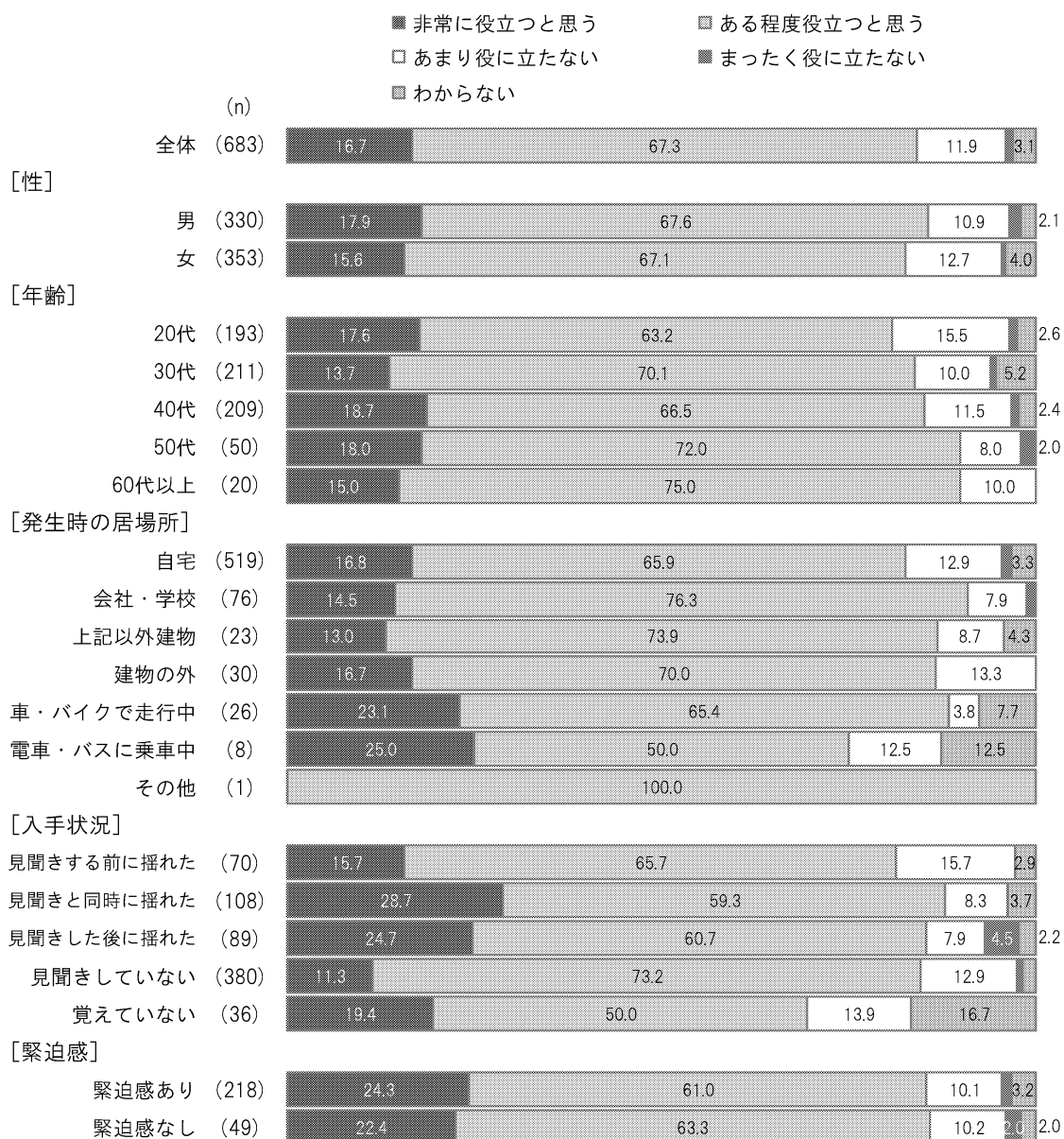
緊急地震速報が地震被害の軽減に役立つと思うかを尋ねたところ、「ある程度役に立つと思う」(67.3%)との回答が最も高く7割弱を占めた。「非常に役立つと思う」(16.7%)を合わせると、被害の軽減に役立つと思っているのは8割台半ばとなる。これは都市別でも同様の傾向である。

年齢別にみると、被害の軽減に役立つと思うとの回答は、いずれの年代でも8割を超えているが、50代、60代以上(ともに90.0%)では9割となり、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。

地震発生時の居場所別にみると、被害の軽減に役立つと思うとの回答は、会社・学校(90.8%)で高く9割となっている。

緊急地震速報の入手状況別にみると、「非常に役立つと思う」との回答は、見聞きと同時に揺れが来た(28.7%)で最も高く3割弱、見聞きした後に揺れが来た(揺れる前に速報を入手/24.7%)でも2割台半ばとなり、比較的高くなっている。それに対し、見聞きする前に揺れが来た(揺れた後に速報を入手/15.7%)、見聞きしていない(11.3%)、覚えていない(19.4%)では1割台にとどまっている。

## ■性別／年齢別／地震時の居場所別／入手状況別／緊迫度別



(4) 緊急地震速報の信頼度

「(非常に+ある程度) 信頼できる」が8割強

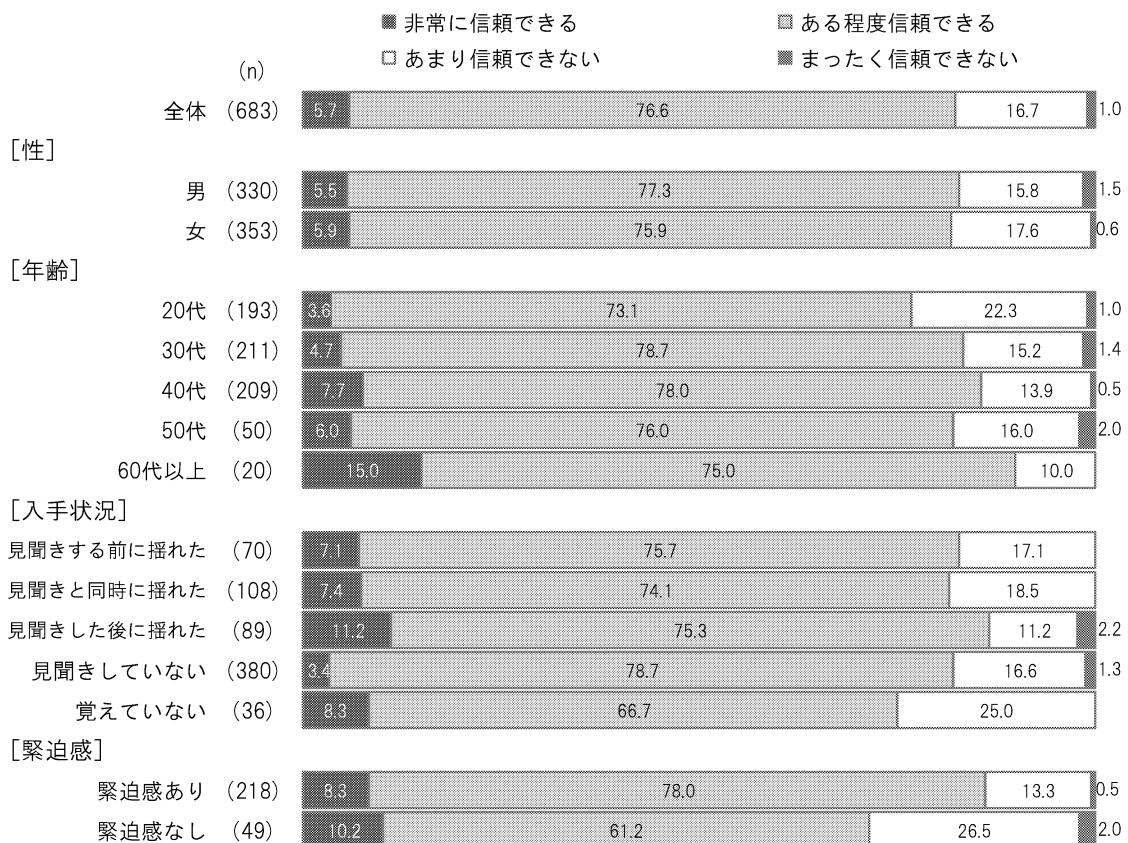
問 23 「緊急地震速報」をどの程度信頼していますか。(〇はひとつ)



緊急地震速報の信頼度については、「ある程度信頼できる」(76.6%)との回答が最も高く7割台半ばを占めた。「非常に信頼できる」(5.7%)を合わせると、信頼しているのは8割強となる。

都市別にみると、「ある程度信頼できる」との回答は、いずれの都市でも7割以上を占め高いが、「非常に信頼できる」は、仙台市(6.5%)、盛岡市(7.2%)に対し、福島市ではわずか3.3%と低い。

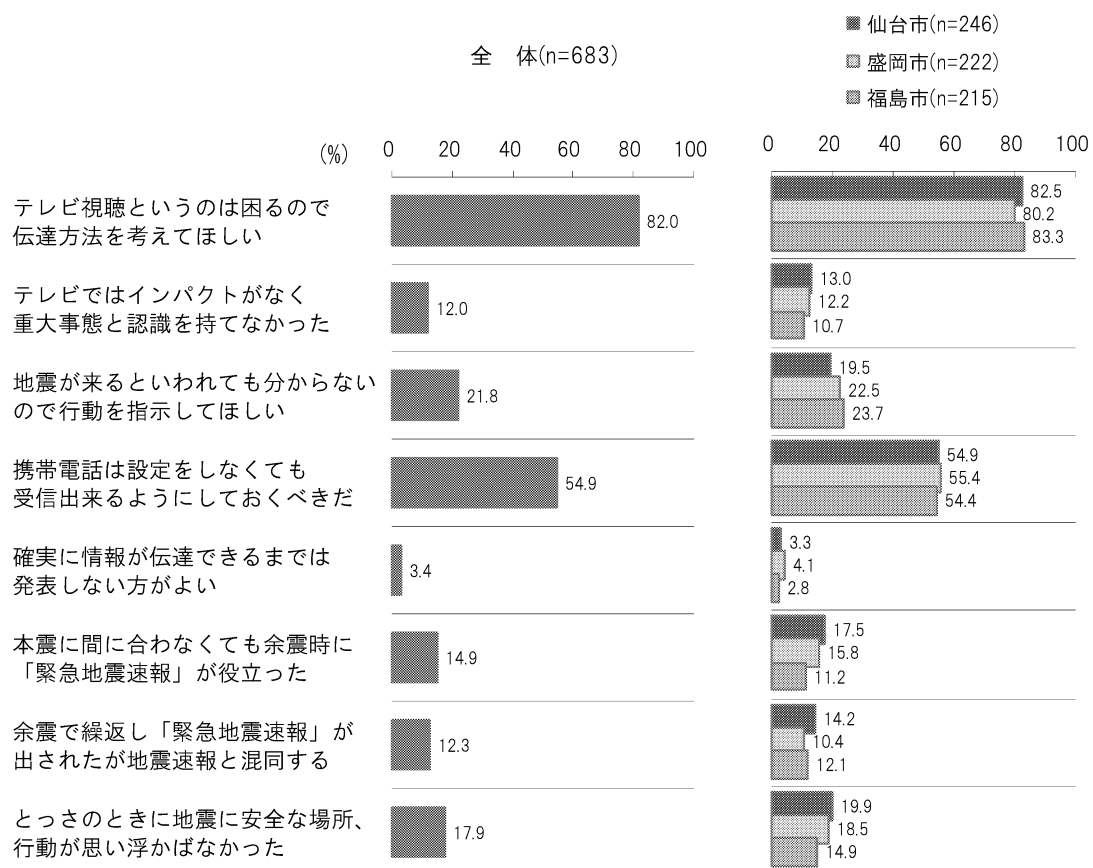
■性別／年齢別／入手状況別／緊迫度別



## (5) 緊急地震速報についての意識

「テレビ以外にも伝達手段を考えてほしい」が8割強

問 24 「緊急地震速報」について、あなたに当てはまるものをお選びください。(○はいくつでも)



緊急地震速報に対する意見について全般的に尋ねたところ、「テレビ視聴というのは困るので伝達方法を考えてほしい」(82.0%)との回答が最も高く8割強を占めた。次いで「携帯電話は設定しなくても受信できるようにしておくべきだ」(54.9%)が5割台半ばと高い。これは都市別でも同様の傾向である。



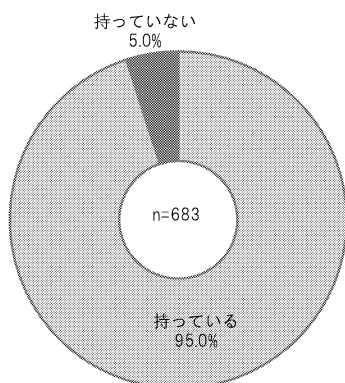
■性別／年齢別／地震時の居場所別／入手状況別／入手媒体別 (全体と比べて10ポイント以上高いものに網掛け)

	調査数	は困るの で伝達方 法	テレビで は重大事 態と	テレビで はインパ ク	地震が来 るといわ れて	携帯電 話を受 信出来 るよう に	携帯電 話の設 定をし な	確認に は発表 しな	速報が 役立っ た	本震に 間に合 わな	余震で 線返し 「緊急 地	余震で 線返し 「緊急 地	い浮か ばな	安全な 場所、 行動が 思	とつさ のとき に地震 に
全体	683	82.0	12.0	21.8	54.9	3.4	14.9	12.3	17.9						
性別															
男性	330	79.4	13.0	22.4	50.6	3.6	14.2	11.5	17.3						
女性	353	84.4	11.0	21.2	58.9	3.1	15.6	13.0	18.4						
年齢															
20代	193	82.9	10.4	29.5	58.0	3.1	13.0	12.4	19.7						
30代	211	80.1	13.3	16.6	54.0	3.8	15.6	12.8	16.6						
40代	209	81.3	12.4	18.2	53.6	3.3	14.4	10.5	17.7						
50代	50	84.0	12.0	24.0	52.0	2.0	18.0	8.0	14.0						
60代以上	20	95.0	10.0	35.0	55.0	5.0	25.0	35.0	25.0						
地震時の居場所															
自宅	519	81.7	13.7	22.5	53.9	3.1	15.8	13.1	18.7						
会社・学校	76	82.9	7.9	21.1	52.6	6.6	9.2	7.9	17.1						
上記以外の建物の中にいた	23	91.3	-	8.7	52.2	-	21.7	8.7	8.7						
建物の外にいた	30	83.3	6.7	36.7	63.3	3.3	23.3	3.3	20.0						
車・バイクで走っていた	26	76.9	11.5	7.7	61.5	3.8	-	15.4	7.7						
電車やバスなどに乗っていた	8	87.5	-	12.5	87.5	-	12.5	37.5	25.0						
その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-						
入手状況															
見聞きする前に揺れた	70	85.7	17.1	17.1	50.0	2.9	14.3	12.9	20.0						
見聞きと同時に揺れた	108	71.3	16.7	17.6	45.4	0.9	14.8	13.0	15.7						
見聞きした後に揺れた	89	76.4	15.7	23.6	56.2	5.6	21.3	21.3	16.9						
見聞きしていない	380	86.8	7.9	23.2	58.7	2.9	14.2	10.5	18.4						
覚えていない	36	69.4	22.2	25.0	50.0	11.1	8.3	5.6	16.7						
入手媒体															
テレビ	231	77.9	16.0	20.8	49.8	3.0	18.6	15.2	18.2						
ラジオ	29	69.0	13.8	17.2	34.5	3.4	10.3	13.8	20.7						
携帯電話	23	56.5	26.1	17.4	73.9	4.3	13.0	13.0	21.7						
専用受信装置	4	100.0	-	25.0	100.0	-	25.0	-	-						
その他	11	81.8	18.2	27.3	45.5	9.1	27.3	27.3	18.2						

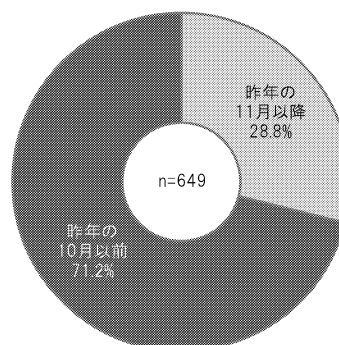
## 5 携帯電話での緊急地震速報の受信

### 携帯電話での速報入手は4人に1人

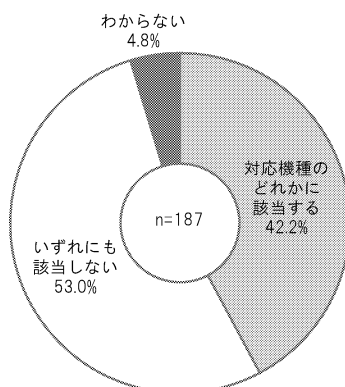
問 25 ところで、あなたは携帯電話をお持ちですか。  
(○はひとつ)



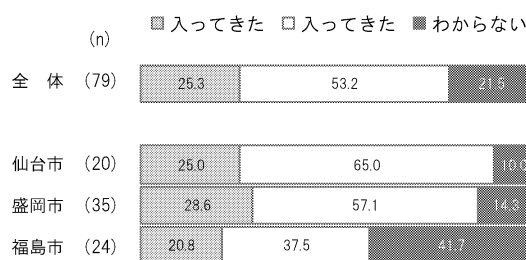
問 26 今使っている携帯電話はいつごろ買いましたか。  
(○はひとつ)



問 27 昨年11月以降に発売された、以下の携帯電話には、緊急地震速報受信機能がありますが、あなたの携帯電話はそれに該当しますか。(○はひとつ)



問 28 「緊急地震速報」を受信するには設定が必要ですが、今回の「緊急地震速報」はあなたの携帯電話に入ってきましたか。(○はひとつ)



回答者の携帯電話所有率は95.0%。購入時期を尋ねたところ、緊急地震速報の受信機能がある携帯電話が発売された、「昨年の11月以降」(28.8%)との回答は3割弱であった。そのうち、緊急地震速報の受信機能がある(「対応機種のだれかに該当する」42.2%)との回答は4割強を占めた。さらに、今回の地震で、緊急地震速報が携帯電話に入ってきたかを尋ねたところ、「入ってきた」(25.3%)との回答は4人に1人の割合であった。

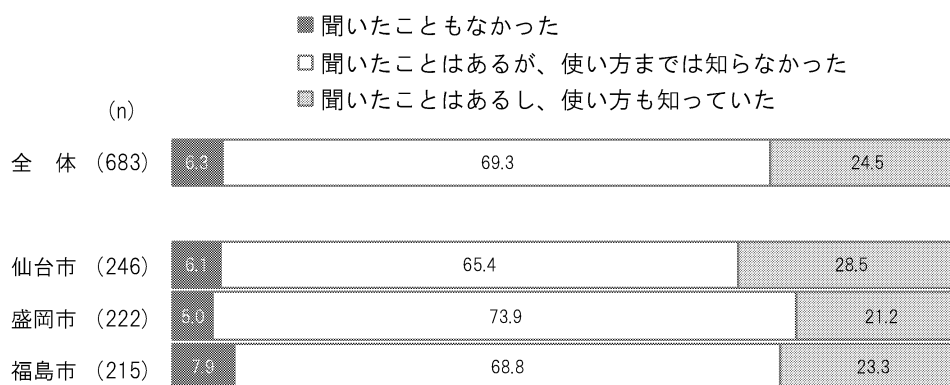
## 6 安否確認サービス

### (1) 「安否確認サービス」の認知度

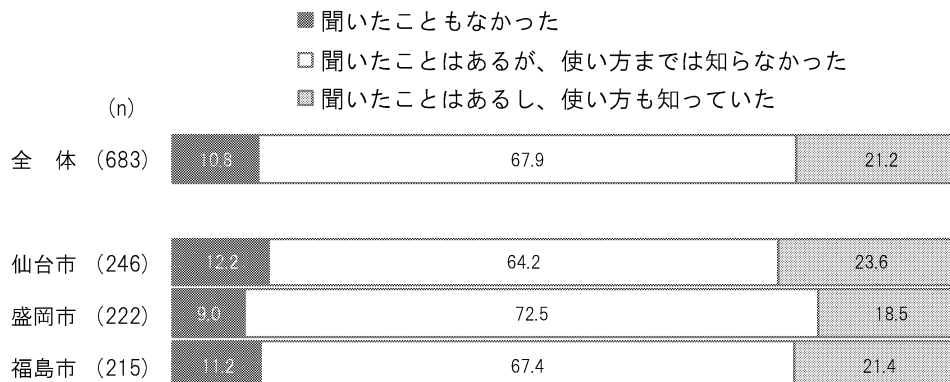
サービスの認知は4人に1人、使用したのは171よりも伝言板がやや高い

問 29 地震当日、あなたは、次にあげる「安否確認サービス」を知っていましたか。(○はひとつ)

[災害用伝言ダイヤル (171)]



[災害用伝言板サービス (携帯)]

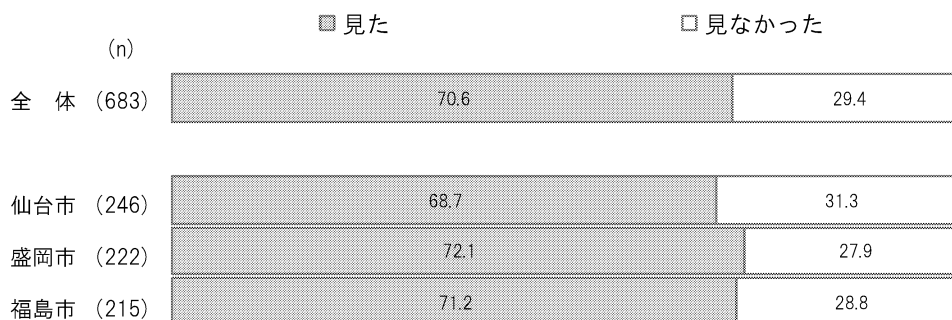


災害用伝言ダイヤル (171) については、「聞いたこともあるし、使い方も知っていた」(24.5%)との回答は4人に1人の割合となった。「聞いたこともなかった」(6.3%)は1割に満たないものの、「聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった」(69.3%)が最も高く7割弱を占めた。

災害用伝言板サービス(携帯)も同様の傾向で、「聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった」(67.9%)との回答が最も高く7割弱を占めた。「聞いたこともあるし、使い方も知っていた」(21.2%)は2割で、「聞いたこともなかった」(10.8%)は1割となった。

## (2) 地震後の災害用伝言ダイヤル等のCMの視聴

問 30 地震後、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板のコマーシャルを見ましたか。(○はひとつ)

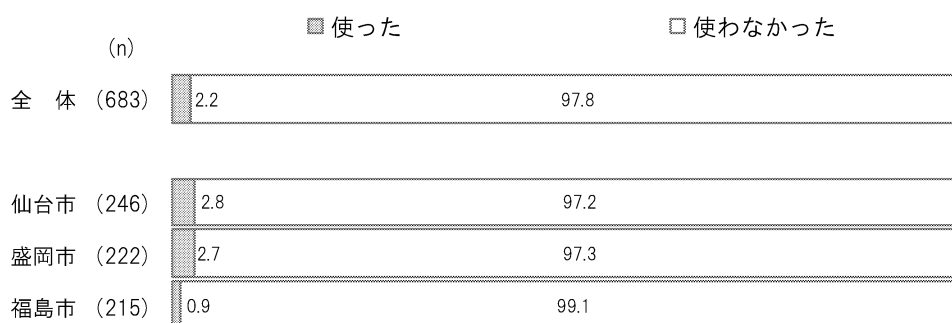


災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板のコマーシャルについて、「見た」(70.6%)との回答が7割を占めた。

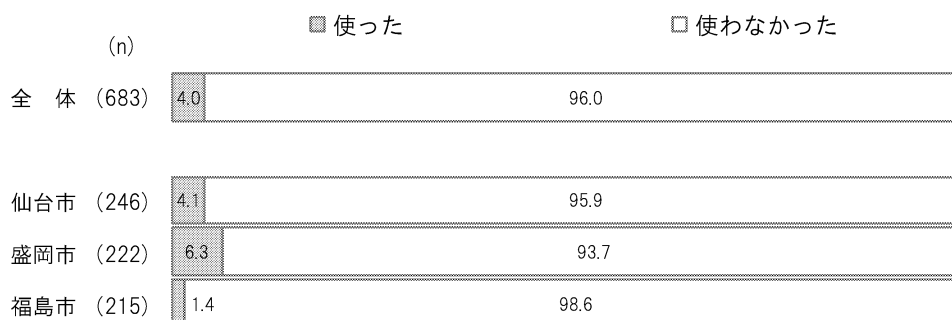
## (3) 安否確認サービスの使用状況

問 31 あなたは、今回の地震で「安否確認サービス」を使いましたか。(○はひとつ)

[災害用伝言ダイヤル (171)]



[災害用伝言板サービス (携帯)]



今回の地震での災害用伝言ダイヤル(171)の使用率は2.2%、福島市では0.9%と他都市と比べ低くなった。一方、災害用伝言板サービス(携帯)の使用率は4.0%で、災害用伝言ダイヤル(171)よりも高くなった。盛岡市では6.3%とやや高い。



V

## 調査票（単純集計結果）



## 岩手・宮城内陸地震についてのアンケート調査

### 地震発生時の状況

6月14日の午前8時43分ころ、東北地方で最大震度6強の地震(本震)が起きました。

問1 この地震が起きたとき（午前8時43分ころ）、あなたはどこにいましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 自宅		76.0	75.2	77.5	75.3
2 会社・学校		11.1	10.6	11.7	11.2
3 上記（自宅・会社・学校）以外の建物の中にいた		3.4	3.7	3.2	3.3
4 建物の外にいた		4.4	5.3	3.6	4.2
5 車・バイクで走っていた		3.8	3.7	3.6	4.2
6 電車やバスなどに乗っていた		1.2	1.6	0.5	1.4
7 その他		0.1	-	-	0.5

問1で「1 自宅」「2 会社・学校」「3 上記以外（自宅・会社・学校）以外の建物の中にいた」と回答した方にお聞きます。

問2 この地震が起きたとき、あなたは何をしていましたか。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (618)	仙台 (220)	盛岡 (205)	福島 (193)
1 食事や身じたくをしていた		19.7	21.4	20.5	17.1
2 仕事や家事をしていた		23.8	24.1	22.0	25.4
3 寝ていた		24.1	23.6	22.9	25.9
4 テレビを見ていた		25.2	21.8	30.2	23.8
5 ラジオを聴いていた		0.6	0.5	1.5	-
6 その他		11.8	13.6	11.7	9.8

問1で「5 車・バイクで走っていた」と回答した方にお聞きます。

問3 この地震が起きたとき、何をしましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (26)	仙台 (9)	盛岡 (8)	福島 (9)
1 そのまま走り続けた		19.2	22.2	25.0	11.1
2 すぐにスピードを落として停車した		26.9	22.2	37.5	22.2
3 ハザードランプを点灯して、緩やかにスピードを落とした		7.7	22.2	-	-
4 この地震に気がつかなかった		26.9	11.1	37.5	33.3
5 その他		19.2	22.2	-	33.3



V. 調査票（単純集計結果）

問4 揺れがおさまるまでの間、あなたはどうしましたか。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1		40.3	36.2	44.1	40.9
2		9.5	10.2	12.2	6.0
3		19.8	20.3	19.8	19.1
4		10.1	15.4	9.0	5.1
5		6.6	9.8	5.0	4.7
6		44.7	40.7	48.2	45.6
7		16.0	14.2	16.7	17.2
8		14.2	15.0	14.9	12.6
9		20.6	18.3	27.5	16.3
10		3.7	4.1	5.0	1.9
11		1.8	2.8	0.5	1.9
12		4.1	4.9	3.2	4.2
13		8.6	9.3	5.9	10.7
14		0.4	0.8	0.5	-

緊急地震速報について

問5 気象庁は、この地震の本震や余震で「緊急地震速報」を出し、身の安全を図るよう警告しました。本震の時（午前8時43分ころ）、「緊急地震速報」を見たり聞いたりしましたか。

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1		39.1	38.2	40.1	39.1
2		55.6	57.7	53.6	55.3
3		5.3	4.1	6.3	5.6

問6～問15は、問5で「1.見たり聞いたりした」と回答した方にお聞きします。

問6 その「緊急地震速報」を何から見たり聞いたりしましたか。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (267)	仙台 (94)	盛岡 (89)	福島 (84)
1		83.5	80.9	82.0	88.1
2		7.1	6.4	6.7	8.3
3		1.1	1.1	-	2.4
4		6.7	7.4	6.7	6.0
5		6.0	8.5	6.7	2.4
6		3.0	3.2	3.4	2.4
7		6.7	4.3	7.9	8.3
8		1.9	2.1	1.1	2.4
9		0.7	1.1	-	1.2
10		0.7	-	1.1	1.2
11		1.1	1.1	-	2.4

問6で「1. テレビ（地上波）」と回答した方にお聞きします。

問7 それは、アナログ放送ですか。それとも地上デジタル（地デジ）放送ですか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (223)	仙台 (76)	盛岡 (73)	福島 (74)
1		72.2	75.0	76.7	64.9
2		24.7	25.0	20.5	28.4
3		3.1	-	2.7	6.8

問6で「1 テレビ（地上波）」と回答した方にお聞きします。

問8 ご覧になっていた放送局はどこですか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (223)	仙台 (76)	盛岡 (73)	福島 (74)
1 NHK		52.5	40.8	56.2	60.8
2 TBC、IBC、福岡テレビ		8.5	9.2	4.1	12.2
3 仙台放送、テレビ岩手、福島中央テレビ		7.6	13.2	8.2	1.4
4 ミヤギテレビ、岩手めんこいテレビ、テレビユー福島		5.8	2.6	11.0	4.1
5 東日本放送、岩手朝日テレビ、福島放送		0.9	-	1.4	1.4
6 局名はわからないが民間放送		23.3	32.9	19.2	17.6
7 その他		1.3	1.3	-	2.7

問9 「緊急地震速報」を見たり聞いたりしたとき、緊迫感を感じましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (267)	仙台 (94)	盛岡 (89)	福島 (84)
1 とても緊迫感を感じた		36.3	38.3	38.2	32.1
2 多少緊迫感を感じた		45.3	40.4	46.1	50.0
3 あまり緊迫感を感じなかった		16.1	18.1	13.5	16.7
4 まったく緊迫感を感じなかった		2.2	3.2	2.2	1.2

問10 「緊急地震速報」の画面やアナウンスについて、どのように思いましたか。（自由記述）

問11 「緊急地震速報」を見たり聞いたりして、どのように思いましたか。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (267)	仙台 (94)	盛岡 (89)	福島 (84)
1 大きな地震が来ると思った		30.0	27.7	25.8	36.9
2 すでに起きた地震の震度速報だと思った		50.9	52.1	56.2	44.0
3 何を言っているのか、わからなかった		9.4	10.6	9.0	8.3
4 訓練か何かだと思った		3.7	7.4	2.2	1.2
5 別の地震が、また来るのかもしれないと思った		20.2	16.0	22.5	22.6
6 その他		3.7	5.3	4.5	1.2

問12 「緊急地震速報」を見たり聞いたりしてから地震の揺れを感じるまで、だいたいどのくらいの時間がありましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (267)	仙台 (94)	盛岡 (89)	福島 (84)
1 「緊急地震速報」を見たり聞いたりする前に揺れが来た		26.2	26.6	27.0	25.0
2 「緊急地震速報」を見たり聞いたりしたと同時に揺れが来た		40.4	35.1	44.9	41.7
3 「緊急地震速報」を見たり聞いたりした後に揺れが来た		33.3	38.3	28.1	33.3

V. 調査票（単純集計結果）

問 13 「緊急地震速報」を見たり聞いたりして、あなたはどうしましたか。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (267)	仙台 (94)	盛岡 (89)	福島 (84)
1 すぐにテレビやラジオで、地震情報を知ろうとした		52.8	51.1	52.8	54.8
2 火の始末をした		16.1	14.9	23.6	9.5
3 家具や壊れ物を押さえたりした		15.4	21.3	13.5	10.7
4 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした		9.4	12.8	6.7	8.3
5 丈夫なものにつかまって、身を支えた		4.5	4.3	6.7	2.4
6 様子を見た		39.0	36.2	33.7	47.6
7 家族や周りの人に声をかけて、地震が来ることを知らせた		13.5	11.7	14.6	14.3
8 子供や老人、病人などを保護した		12.4	10.6	12.4	14.3
9 戸、窓を開けた		15.4	14.9	21.3	9.5
10 家や建物の外に出た		3.7	5.3	4.5	1.2
11 車・バイクを止めた		2.6	5.3	2.2	-
12 その他		3.0	3.2	4.5	1.2
13 何もしなかった（できなかった）		9.0	9.6	13.5	3.6
14 無我夢中でおぼえていない		1.5	2.1	-	2.4

問 13 で、「1 何もしなかった（できなかった）」と回答した方にお聞きします。

問 14 何もしなかった（できなかった）理由をお答えください。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (24)	仙台 (9)	盛岡 (12)	福島 (3)
1 何の意味なのかわからなかったから		33.3	22.2	41.7	33.3
2 何をしてもよいかわからなかったから		20.8	11.1	16.7	66.7
3 本当に地震が来るのかどうか半信半疑だったから		16.7	11.1	25.0	-
4 そのときすでに揺れに翻弄されていたから		20.8	33.3	16.7	-
5 何もしなくても安全な場所にいたので、何かをする必要がなかったから		20.8	11.1	25.0	33.3
6 その他		12.5	11.1	16.7	-

問 15 今回の「緊急地震速報」は、あなたご自身にとって役に立ちましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (267)	仙台 (94)	盛岡 (89)	福島 (84)
1 非常に役に立った		14.2	17.0	11.2	14.3
2 まあ役に立った		41.2	36.2	42.7	45.2
3 あまり役に立たなかった		34.8	33.0	36.0	35.7
4 まったく役に立たなかった		9.7	13.8	10.1	4.8

ここからは全員の方にお聞きします。

問 16 今回の地震では、「緊急地震速報」を地震の揺れが来る何秒くらい前に入手できていれば、情報は有効だったと思いますか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 5 秒くらい前		2.2	2.0	2.3	2.3
2 10 秒くらい前		14.8	17.9	16.2	9.8
3 15 秒くらい前		12.2	11.8	10.4	14.4
4 20 秒くらい前		11.7	11.0	12.6	11.6
5 25 秒くらい前		0.4	0.4	0.5	0.5
6 30 秒くらい前		17.0	13.4	18.9	19.1
7 30 秒以上前		29.9	30.9	27.0	31.6
8 揺れの前に入手できていても有効ではなかったと思う		11.9	12.6	12.2	10.7

問 16 で「8 揺れの前に入手できて有効ではなかったと思う」と回答した方以外の方にお聞きます

問 17 もし今後岩手・宮城内陸地震と同じような規模の地震が発生した場合、地震の揺れが来る前に「緊急地震速報」が入手できていたとすれば、どのようなことをすると思いますか。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (602)	仙台 (215)	盛岡 (195)	福島 (192)
1	すぐにテレビやラジオで、地震情報を知ろうとする	35.5	32.6	39.0	35.4
2	火の始末をする	67.6	62.3	71.3	69.8
3	家具や壊れ物を押さえる	17.8	18.6	17.4	17.2
4	安全な場所にかくれたり、身を守る	64.0	72.6	59.5	58.9
5	丈夫なものにつかまって、身を支える	14.3	18.1	10.8	13.5
6	様子を見る	11.5	10.2	10.8	13.5
7	家族や周りの人に声をかけて、地震が来ることを知らせる	50.0	46.0	51.3	53.1
8	子供や老人、病人などを保護する	33.1	31.6	34.4	33.3
9	戸、窓を開ける	46.7	42.8	54.4	43.2
10	家や建物の外に出る	20.1	17.2	23.1	20.3
11	車・バイクを止める	15.1	19.5	12.8	12.5
12	その他	2.3	0.9	4.1	2.1

全員の方にお聞きます。

問 18 今回、「緊急地震速報」が出される前に、「緊急地震速報」のことを知っていましたか（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1	名前も内容も知っていた	59.9	64.6	60.4	54.0
2	名前を聞いたことはあったが内容は詳しくは知らなかった	36.7	32.5	34.2	44.2
3	名前も内容も知らなかった	3.4	2.8	5.4	1.9

問 19 「緊急地震速報」とはどのようなものだと思いますか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1	地震が起きる前に、地震の発生を予知する情報	31.5	24.8	35.1	35.3
2	地震の最初の微動を検知して、大きな揺れを直前に予測する情報	64.3	69.5	62.6	60.0
3	実際に観測した各地の震度などを素早く伝える情報	2.6	4.1	1.4	2.3
4	地震で起きた被害状況を、即時に伝える情報	1.6	1.6	0.9	2.3

問 20 テレビ・ラジオならびに携帯電話では、現在、「緊急地震速報」は「震度 5 弱（あるいは震度 5 強）以上の揺れが予想される地震が発生した場合に、震度 4 以上の揺れが来る地域」を対象に伝えられます。この基準について、あなたはどのように思いますか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1	ちょうどいいと思う	65.2	67.5	65.3	62.3
2	もう少し弱い揺れが予測された場合も伝えてほしい	26.2	24.0	27.5	27.4
3	もっと強い揺れが予測された場合に伝えてほしい	3.4	4.5	2.7	2.8
4	その他	0.7	0.8	0.5	0.9
5	わからない	4.5	3.3	4.1	6.5

問 21 自治体や集客施設の一部では、「緊急地震速報」によって混乱や望ましくない対応が生じることを懸念して、この速報を一般の人々に伝えないところもあります。あなたは、このような対応についてどう思いますか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1	どんな場所でも積極的に伝えるべきだと思う	85.4	86.2	84.2	85.6
2	場所によっては伝えないほうがよいところもあると思う	7.8	6.1	9.9	7.4
3	伝えないほうがよいと思う	6.9	7.7	5.9	7.0

V. 調査票（単純集計結果）

問 22 「緊急地震速報」は地震被害の軽減に役立つと思いますか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 非常に役立つと思う		16.7	17.1	14.9	18.1
2 ある程度役立つと思う		67.3	66.3	69.8	66.0
3 あまり役に立たない		11.9	12.6	13.1	9.8
4 まったく役に立たない		1.0	1.2	0.5	1.4
5 わからない		3.1	2.8	1.8	4.7

問 23 「緊急地震速報」をどの程度信頼していますか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 非常に信頼できる		5.7	6.5	7.2	3.3
2 ある程度信頼できる		76.6	76.4	71.6	81.9
3 あまり信頼できない		16.7	15.9	19.8	14.4
4 まったく信頼できない		1.0	1.2	1.4	0.5

問 24 「緊急地震速報」について、あなたに当てはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 テレビを見ていないと分からない、というのは困るので、伝達方法を考えてほしい		82.0	82.5	80.2	83.3
2 テレビの「緊急地震速報」は、インパクトがなく、重大事態との認識を持てなかった		12.0	13.0	12.2	10.7
3 地震が来るといわれてもどうしてよいか分からないので行動を指示してほしい		21.8	19.5	22.5	23.7
4 携帯電話は、わざわざ設定しなくても、受信できるようにしておくべきだ		54.9	54.9	55.4	54.4
5 確実に揺れが来る前に情報が伝えられるようになるまでは、「緊急地震速報」は発表しないほうがよいと思う		3.4	3.3	4.1	2.8
6 本震には間に合わなくても、余震のときには「緊急地震速報」が役立った		14.9	17.5	15.8	11.2
7 余震で繰り返し「緊急地震速報」が出されたが、地震速報と混同してしまった		12.3	14.2	10.4	12.1
8 とっさのときに、地震に安全な場所、行動が思い浮かばなかった		17.9	19.9	18.5	14.9

問 25 ところで、あなたは携帯電話をお持ちですか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 持っている		95.0	94.3	95.5	95.3
2 持っていない		5.0	5.7	4.5	4.7

問 25 で「1 持っている」と回答した方にお聞きします。

問 26 今使っている携帯電話はいつごろ買いましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (649)	仙台 (232)	盛岡 (212)	福島 (205)
1 昨年の11月以降		28.8	25.4	32.5	28.8
2 昨年の10月以前		71.2	74.6	67.5	71.2

問 26 で「1 昨年の 11 月以降」と回答した方にお聞きます。

問 27 昨年 11 月以降に発売された、以下の携帯電話には、緊急地震速報受信機能がありますが、あなたの携帯電話はそれに該当しますか。（○はひとつ）

緊急地震速報受信機能のある携帯電話

ドコモ	906i 905i シリーズの全機種 705i シリーズの一部(N705iμ、P705iμ、N705i、P705i、S0705i) 「PROSOLID μ」「らくらくホン プレミアム」
au	「W61CA」「W61H」「W61K」「W61SH」「W61SA」「W62SA」

	(n)	全体 (187)	仙台 (59)	盛岡 (69)	福島 (59)
1 以下のどれかに該当する		42.2	33.9	50.7	40.7
2 いずれにも該当しない		52.9	62.7	43.5	54.2
3 わからない		4.8	3.4	5.8	5.1

問 27 で「1 以下のどれかに該当する」と回答した方にお聞きます。

問 28 「緊急地震速報」を受信するには設定が必要ですが、今回の「緊急地震速報」はあなたの携帯電話に入ってきましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (79)	仙台 (20)	盛岡 (35)	福島 (24)
1 入ってきた		25.3	25.0	28.6	20.8
2 入ってこなかった		53.2	65.0	57.1	37.5
3 わからない		21.5	10.0	14.3	41.7

安否確認サービス

問 29 地震当日、あなたは、次にあげる「安否確認サービス」を知っていましたか。（○はひとつ）

災害用伝言ダイヤル（171）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 聞いたこともなかった		6.3	6.1	5.0	7.9
2 聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった		69.3	65.4	73.9	68.8
3 聞いたことはあるし、使い方も知っていた		24.5	28.5	21.2	23.3

災害用伝言板サービス（携帯）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 聞いたこともなかった		10.8	12.2	9.0	11.2
2 聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった		67.9	64.2	72.5	67.4
3 聞いたことはあるし、使い方も知っていた		21.2	23.6	18.5	21.4

問 30 地震後、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言版のコマーシャルを見ましたか。（○はひとつ）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 見た		70.6	68.7	72.1	71.2
2 見なかった		29.4	31.3	27.9	28.8

V. 調査票（単純集計結果）

問 31 あなたは、今回の地震で「安否確認サービス」を使いましたか。（○はひとつ）

災害用伝言ダイヤル（171）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 使った		2.2	2.8	2.7	0.9
2 使わなかった		97.8	97.2	97.3	99.1

災害用伝言板サービス（携帯）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 使った		4.0	4.1	6.3	1.4
2 使わなかった		96.0	95.9	93.7	98.6

ご自身について

F1 性別

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 男		48.3	48.0	47.7	49.3
2 女		51.7	52.0	52.3	50.7

F2 年代

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 20代		28.3	28.9	27.0	28.8
2 30代		30.9	28.9	32.0	32.1
3 40代		30.6	28.9	32.0	31.2
4 50代		7.3	8.9	7.7	5.1
5 60代以上		2.9	4.5	1.4	2.8

F3 職業

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 自営業		7.3	6.5	7.7	7.9
2 家族従業（家事手伝い）		1.0	0.4	1.4	1.4
3 勤め（全日）		50.2	47.6	51.8	51.6
4 勤め（パートタイム）		11.7	13.8	11.7	9.3
5 専業主婦		17.1	19.5	15.8	15.8
6 学生		6.4	8.1	5.9	5.1
7 無職		4.8	3.3	5.4	6.0
8 その他		1.3	0.8	0.5	2.8

F4 お宅には、あなた自身も含めて、災害時に避難するときなど、援助あるいは支援が必要な方はいますか。（○はいくつでも）

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 乳幼児・小学校低学年児		24.6	22.0	27.0	25.1
2 1人での避難が困難な高齢者		7.3	4.9	9.5	7.9
3 寝たきりの方、または障害・病気などで1人での避難が困難な方		4.0	3.7	2.7	5.6
4 その他		2.6	1.2	3.2	3.7
5 そのような人はいない		64.9	70.7	61.3	61.9

## F5 あなたは、「緊急地震速報」を受けるサービスを契約していましたか

	(n)	全体 (683)	仙台 (246)	盛岡 (222)	福島 (215)
1 はい		5.0	5.3	5.9	3.7
2 いいえ		95.0	94.7	94.1	96.3

F5で「1 はい」と回答した方にお聞きします

## F6 契約しているサービスは何ですか（〇はいくつでも）

	(n)	全体 (34)	仙台 (13)	盛岡 (13)	福島 (8)
1 専用端末		2.9	7.7	-	-
2 パソコン		20.6	23.1	-	50.0
3 CATV		14.7	23.1	15.4	-
4 携帯電話		67.6	46.2	84.6	75.0
5 その他		-	-	-	-





## 付 サーベイリサーチセンターの業務案内



## 会社概要

商号 株式会社サーベイリサーチセンター  
設立 昭和50年2月  
資本 6,000万円  
年商 48億円（平成19年度）  
代表者 代表取締役 藤澤士朗  
社員数 190名 契約社員数 170名  
調査員数 約1,000人  
顧問 竹内郁郎（東京大学名誉教授）  
取引銀行 三井住友銀行 赤羽支店  
百十四銀行 東京支店  
みずほ銀行 尾久支店  
三菱東京UFJ銀行 日暮里支店  
商工中央金庫 押上支店  
所属団体 (財)日本世論調査協会  
(社)日本マーケティング・リサーチ協会  
(社)日本マーケティング協会  
(社)交通工学研究会  
日本災害情報学会  
ESOMAR（ヨーロッパ世論・市場調査協会）他

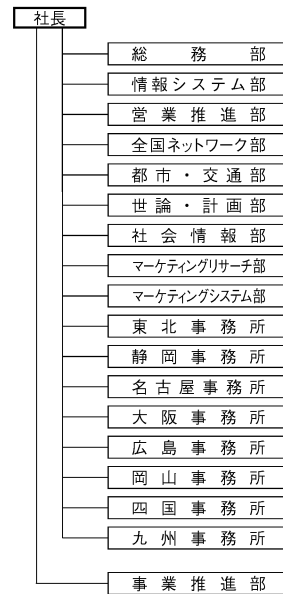
## 沿革

昭和50年2月 資本金1,000万円にて設立  
昭和51年6月 大阪事務所開設  
昭和54年1月 静岡事務所開設  
昭和61年9月 名古屋事務所開設  
昭和63年4月 本社社屋竣工  
平成2年4月 東北事務所開設  
平成4年1月 広島事務所開設  
平成5年6月 資本金を4,000万円に増資  
平成9年3月 本社社屋増築  
平成9年4月 九州事務所開設  
平成10年4月 岡山事務所開設  
平成12年7月 資本金を6,000万円に増資  
平成15年4月 四国事務所開設

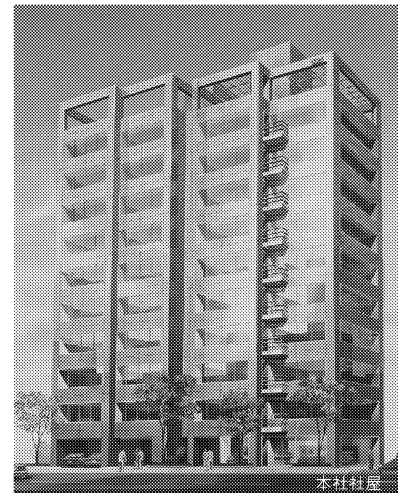
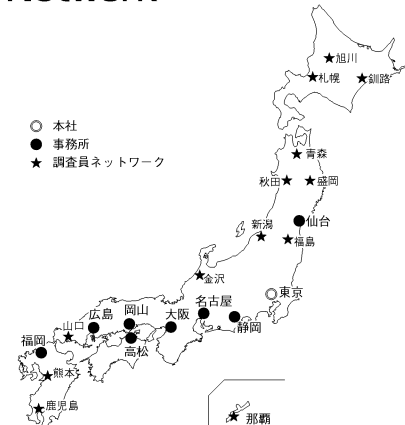
## 取得認証・登録資格

ISO9001（JMAQA-676）  
プライバシーマーク（C820008(04)）  
建設コンサルタント（道路部門 建18第7120号）

## 組織図



## Network



■SRCは基本を大切にしています。

- 基本に忠実なデータ収集の管理・運営
- 経験豊富なスタッフで実施
- 迅速で精度の高い情報処理
- 高度な技術の開発
- 豊富なブレン
- 機密保持と個人情報保護

● 岩手・宮城内陸地震に関する調査

平成 20 年 7 月 3 日



# 緊急地震速報…どう備えた？

## 情報収集 ■ 子どもら保護 ■ 火の始末

岩手・宮城内陸地震で、仙台・盛岡、福島市の市民の1割余りが、強い揺れが来る前に気象庁の緊急地震速報を聞いて、周りに知らせたりして備えたことが、総合調査会社の調べでわかった。

地震情報	47人
地震発生時にラジオやテレビを見た	40人
地震発生時にラジオやテレビの音を聞いた	18人
地震発生時にラジオやテレビの画面を見た	17人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	13人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	12人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	11人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	9人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	6人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	3人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	3人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	3人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	6人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	8人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	2人
地震発生時にラジオやテレビの音や画面を見た	89人

聞き、その大半が安全な場所に隠れたり周りに知らせたりして備えていたことが、総合調査会社の調べでわかった。「サーベイリサーチセンター」がインターネットを使い、3市の683人から回答を得た。揺れが来る前に地震の発生を知らせる緊急地震速報は震源近くでは間に合わないものの、3市は70〜120秒程度遅くは届く。速報を聞いたのは4割にあ

### 仙台など調査

なる267人。このうち89人（全体の13%）は強い揺れが来る前にテレビやラジオで速報を知った。「何もなかった」は8人と少なく、大半は「（心構えや身構えをして）様子を見た」「子どもや老人を保護した」「火の始末をした」など揺れに備えた。揺れが来るまでの時間は「10秒以内」が65%。速報は9割近くが「役に立つ」と答えた。今回の地震は、土曜日の朝方の発生。共同研究にあたる東京大学の田中淳・総合防災情報研究センター長は「平日地震が発生したら、会社や職場ではどう速報を伝えるのか考えていく必要がある」と話している。（大久保 泰）

平成 20 年 7 月 5 日



# システム浸透が課題

## 緊急地震速報

### 「揺れ前」に聞いた 仙台など3市で1割

岩手・宮城内陸地震で気象庁が発表した緊急地震速報について、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」がアンケートしたところ、回答した仙台・盛岡、福島市民計683人のうち、速報を聞いたのは267人で、強い揺れの到達前に聞いた人は1割に過ぎない。

今回の速報は、震源地付近では間に合わなかったものの、強い揺れが到達するまで、▽仙台市で10秒程度▽盛岡市で20秒程度▽福島市で30秒程度▽の余裕があったとされる。インターネットを使って6月27日〜7月1日に調査したところ、地震発生時に自宅にいた519人のうち、217人（42%）が速報を聞いた。しかし、建物の外にいた30人では8人（27%）しか聞いていなかった。入手媒体（複数回答）は「テレビ」が8割を超えていた。強い揺れの到達前に

速報を聞いた89人（その後の対応を尋ねると）（同）「すぐにテレビやラジオで地震情報を知ろうとした」が47人で最も多く、「様子を見た40人」「戸、窓を開けた18人が続く。一方、「安全な場所にかくれたい、身を守ったりした」9人、「丈夫なものにつかまって、身を支えた」3人と、具体的に身の安全を図った人は少なかった。同社担当者は「強い揺れの到達前に速報を聞いた人が少ないなど、システムが十分に生かされていない。自宅外でも聞けるシステム整備のほか、住民に速報を有効活用してもらうようさらなるPRが必要だ」と指摘している。【樋岡徹也】

平成 20 年 7 月 9 日



岩手・宮城内陸地震の「緊急地震速報」について盛岡、仙台、福島三市の市民を対象にしたアンケート結果を民間調査会社がまとめた。速報に接した人の過半数が「テレビなどで地震情報を収集した」と回答するなど、何らかの対応を取った人も多かったが、「大きな地震が来ると思った」と正しく理解していた人は三〇%にとどまった。

### 岩手・宮城地震

## 緊急速報理解3割とまじり

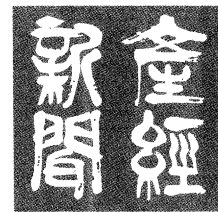
調査は「サーベイリサーチセンター」（東京）が六月二十七日、七月一日、三市の成人計六百八十三人を対象にインターネットで実施。三市では大きな揺れの十三秒程度前に速報が流れたとみられる。「速報を見聞きした」と回答した人は三九%の

### 盛岡・仙台・福島で民間調査 危険回避行動わずか

「安全な場所に隠れたり身を守ったりした」が九%だった。一方、「様子を見た」との回答が二番目に多い三九%、「何もしなかった」も九%あり、とっさの危険回避行動が難しい現実も浮かん

「戸や窓を開けた」がそれぞれ一五%、六%、「家具や壊れ物を押さえた」がそれぞれ一五%、四%はテレビで情報を入手。しかし大きな地震が来ると思ったとの回答は速報に接した人の三〇%の八十人にとどまり、

平成 20 年 7 月 28 日



## 自動的に作動する装置など有効 精度や信頼性に課題残る

4秒後に発表 午前8時43分の地震発生か

4秒後、気象庁の緊急地震速報が発せられた。震度4以上が観測された広い地域で、大きな揺れ（S波）が到達する前に速報が流れた。

一般向けに速報が発表されたのは3回目。最初の2回は観測誤差から地震発生を揺れる前に伝えることができず、

調査地域	・仙台市（選り時間10秒程度）・盛岡市（同20秒程度） ・福島市（同30秒程度）
調査対象	調査地域に居住する20歳以上の男女個人
調査方法	インターネット
有効回収数	683サンプル（仙台市246/盛岡市222/福島市215）
調査期間	6月27日（金）～7月1日（火）

発生が未明だったため利用者の反応もほとんどなかった。本来の機能を発揮し、多くの利用者が反応できたのは岩手・宮城内陸地震が初めてだ。東北大学災害制御研究センターの今村文彦教授は「直下型地震でも、きつくと機能すれば緊急地震速報が有効であることが分かった」と評価する。

「役立った」55% 一般向け速報を利用する住民の反応はさうだったが、東京都荒川区の調査会社「サーベイリサーチセンター」が、仙台、盛岡、福島の3市の市民にインターネットで行ったアンケート調査（図参照）によると、緊急地震速報を見たという人が全体の39%、そのうちの14%が「非常に役に立った」、41%が「まあ役に立った」と評価している。

速報を見聞きした後の行動（複数回答）では、「地震情報を知ろうとした」（52.8%）、「様子を見た」（39.0%）、「戸の始末」（16.1%）などの順で、多くの人が何らかの行動を起したり地震に備えたりしており、「何もしなかった（できなかった）」のは9.0%だった。また、緊急地震速報の名称や内容について知らなかった人は、知識のあった人よりも緊迫感を強く感じている。

この地震では家屋の倒壊被害は少なかったが、大規模な地滑りや土石流に多くの人が巻き込まれた。津波工学が専門の今村教授は「地震の後に来る土砂災害や津波は、避難場所を前もって考えておけば避けられる可能性が高い。緊急地震が出たととき揺れを感じたときに、何をすべきかを普段からイメージしておくことが大切」と防災意識の重要性を強調する。一方、アンケートでは8割が、テレビを緊急地震速報の入手媒体としていた。しかし、3年後に地上デジタル放送（地デジ）に完全移行すると、現行のアナログ放送に比べて約2秒、情報発信が遅れるという。

一秒でも早く地震発生を伝えることが使命の緊急地震速報にとって「2秒の遅れは致命的」（今村教授）だ。緊急地震速報の、地デジ対応は、今後の大きな課題となる。

平成 19 年 8 月 15 日



## 「安全確認まで稼働イヤ」6割 民間会社が住民アンケート

新潟県中越沖地震で東京電力柏崎刈羽原発が受けた被害について、被災住民の8割が「非常に重大なこと」と受け止めていることが、民間調査会社による現地調査でわかった。以前は原発に賛成だったのに反対に変わった人も3割おり、安全が確認されるまで再開すべきでないとした人が6割を占めた。トラブルが相次いだ原発への不信の大きさを裏付けた形だ。

サーベイリサーチセンター(東

京都)などが7月28日から8月3日、柏崎市で500人を訪ね、アンケートした。原発を襲った想定外の揺れについて82%、地震後に起きた放射能漏れについて81%、変圧器の火災について76%が「非常に重大なこと」と受け止めていた。

原発の問題点を複数回答で尋ねたところ、「下に活断層があること」「トラブルが多すぎることをそれぞれ63%、「東京電力の報告・情報伝達が遅すぎることを62%

が挙げた。

原発への賛否では「賛成だったが、反対する気持ちに変わった」が34%、「賛成に変わりない」は21%。以前から反対の人は39%で、地震を境に賛否が逆転した形になっている。

複数回答で原発の被災へのとらえ方を聞くと、安全性に疑問を持ち「廃止すべきだ」としたのが27%、「確認されるまで稼働すべきではない」が60%だった。

平成 19 年 8 月 16 日



### 原発の安全性

#### 「疑問」89%に

新潟県中越沖地震の被災者を対象に民間調査会社が実施したアンケートで、「今回のような大地震が起きるとは思わなかった」と83%の人が回答したことが15日、分かった。原子力発電の安全性に疑問を抱いている人は89%にのぼった。

「サーベイリサーチセンター」(東京都)が7月28日～8月3日、新潟県柏崎市の住民500人から聞き取り調査した。地震への意識についての質問に「自分の居住地域は安全と思っていた」人は地震前は61%だったが、地震後は19%となった。

平成 19 年 4 月 8 日



# 能登半島地震 「予想外」8割 住民500人を調査

3月末の能登半島地震の体験者のうち、大きな地震がこの地域で起こると思っていなかった人が8割を占めていることが、民間調査会社のインターネット調査でわかった。7割が家具の固定をしておらず、地震が少な

いと思われてきた地域の危機感の薄さが改めて浮き彫りになった。  
サーベイリサーチセンター(東京都荒川区)が地震直後の3月29日から4月2日まで、石川、富山両県で震度5弱以上を記録した市町村にいる登録者504人にネットを通じアンケートした。  
この地域で大地震が起きると「思っていた」のは4%、「ある程度思っていた」のは15%に過ぎず、「あまり思っていなかった」は44%、「全く思っていなかった」は38%だった。家具を固定していないと答えたのは74%。備えが不十分だったと思う人は9割に達した。

平成 19 年 5 月 9 日



## 地震中、67%が「何もできず」

能登で住民アンケート  
能登半島地震で民間調査会社が住民を対象に

実施したアンケートで、地震発生中に「様子を見ていた」「動けなかった」など約六七%の人が事実上、何もできなかったと回答していることが分

った。  
調査は「サーベイリサーチセンター」(東京)が地震直後の三月二十九日―四月二日、石川、富山両県で震度5弱以上の揺れを記録した市町村に住む同社の登録者五百四人に、インターネットを通じてアンケートした。

「地震発生中にできなかった」の質問に「じっと様子を見ていた」との回答が最多の四八・六%、「動けなかった」が一・五%、「何もしなかった」が七・一%で計六七・二%。震度6強だった地域では「動けなかった」が二六・四%に達した。



平成20年4月26日

朝日新聞

三宅島空路再開  
羽田から第1便

噴火の影響で00年8月を最後に運休していた羽田―三宅島間の定期航空便が26日、7年8カ月ぶりに再開した。午前11時51分、平野祐康・三宅村長ら乗客53人を乗せたプロペラ機が羽田を出発し、午後0時40分、三宅島空港に到着した。出発前、羽田空港内では記念式典も開かれた。

緊急時にも安心

島民の意識調査

三宅島の住民は空路再開に

「東京と近くなる」「緊急時にも安心」と期待を寄せながらも、島の復興や将来の見通しにはいままも強い不安を抱いていることが、民間の調査会社の意識調査で分かった。

サーベイリサーチセンター（東京）が19～23日、帰島住民627世帯を訪問して調べた。空路再開には76・3%が「期待している」と答え、「期待していない」の23・6%を大きく上回った。「東京との時間が短縮される」（77・8%）、「急病などの緊急時でも安心感が持てる」（56・5%）などの理由が多い。一方、現在の不安では二火

山ガスの発生」が60・1%で最も多く、次いで「自分や家族の健康」の51・8%、「島の人口の減少」の50・2%。三宅島では05年に住民の帰島が始まった。意識調査も同年に始まり、今回が4回目。  
(鈴木彩子)

平成20年4月30日

東京新聞

「帰島して良かった」76%だが...

火山ガス復興に影

噴火災害からの復興を目指す伊豆諸島・三宅島（三宅村）の島民アンケートで、現在の復興状況を「満足」「不満」とする回答が、ともに30%余りで拮抗していることが二十八日、分かった。具体的には、道路整備への満足度が74%に上る半面、医療機関・医療設備に対する不満度が51%と高かった。

三宅島民アンケートで浮き彫り

アンケートは、荒川区内の民間調査会社サーベイリサーチセンターが今月十九～二十三日、島内の全世帯を訪問して実施。噴火前からの居住世帯を対象に、六百二十七人から回答を得た。

現在の不安として多く挙げたのは「火山ガスの発生」60%、「自分や家族の健康」52%、「島の人口の減少」50%の順。復興を実感できる条件を尋ねたところ、「（火山ガスによる）立ち入り規制の解除」との回答が35%で最も多かった。

現況には「満足」「不満」とも3割

二〇〇五年の帰島開始から四年目に入った今も、放出の続く火山ガスが、島の復興に影を落としている。再開されたばかりの羽田空港との定期航空便にも、76%が「期待」する一方、ガスの状況次第で欠航という懸念がつきまとう。

そうした暮らしの中でも、「帰島して良かった」との回答は76%を占めた。理由のトップには「慣れ親しんだ海や山の景色」（67%）が挙がり、島への愛着を裏付けている。

平成20年5月3日



所要時間の短縮／緊急時の安心感／観光客増

00年の噴火災害から約7年8カ月ぶりに、4月26日に再開された三宅島(三宅村)と羽田空港を結ぶ航空路の定期便について、帰島した住民の7割強が期待感を示していることが、民間調査会社「サーベイリサーチセンター」(荒川区)が実施したアンケートで分かった。【木村健二

島民アンケート

空路の再開について、ツプで、▽急病などの尋ねたところ、▽大きい緊急の場合でも安心感に期待している45%▽が持てる(56・5%)ある程度は期待している▽観光客が増え、村が活活性化される(30・176・3%)が期待感を示(%)と続いた。理由(三つまで)として「東期待していない(20京との距離が短縮される(6%)と「まったく期待していない(3(77・8%)が期待していない(3

羽田空港—三宅島定期便

7割強が期待感

の計23・6%が期、祭典が開かれたが、待たないとの回答「オートバイレース」だった。理由は「気象など各種の施策を定着状況で欠航が多い(59・5%)が最も多く、火山ガスの影響が少ない東風の日に限った運航条件が不安感につながったとみられる。島への集客策(三つまで選択可)では、「定期の航空便を1日2便に増やす(50・6%)」が最多で、一層の空路拡充を期待する住民の意識が表れた。昨年11月には石原慎太郎知事の発案でオートバイの運航条件に不安感も

運航条件に不安感も

# 防災、防災計画関係の実績一覧

平成20年7月

## 防災

阪神・淡路大震災に関する調査<第1回目>	自主企画調査	7年	新潟県中越地震に関する住民調査	NHK放送文化研究所	16年
阪神・淡路大震災に関する調査<第2回目>	自主企画調査	7年	新潟豪雨災害に関する住民調査	NHK報道局気象災害センター	16年
阪神・淡路大震災に関する調査<第3回目>	自主企画調査	9年	地方自治体の防災情報システムに関する自治体アンケート	NPO環境防災総合政策研究機構	16年
芸予地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13年	新潟水害に関する避難及び情報に関する実態調査	NPO環境防災総合政策研究機構	16年
静岡県中部地震に関する住民意識調査	自主企画調査	13年	津波避難推進に係る調査	NPO環境防災総合政策研究機構	19年
H15宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	15年	市町村における住民向け防災広報に関するアンケート調査	消防研究センター	18年
宮城県北部を震源とする地震についてのアンケート調査	自主企画調査	15年	市町村における降雨災害時の住民向け対応調査	消防研究センター	18年
H17宮城県沖の地震に関するアンケート調査	自主企画調査	17年	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災体制の現状および課題に関する調査	消防庁	18年
福岡県西方沖地震についての住民調査	自主企画調査	17年	旧耐震住宅居住者グループインタビュー調査	東京経済大学	14年
三宅島帰島住民についての調査	自主企画調査	17年	家屋の耐震化に関するアンケート調査	東京経済大学	15年
三宅島帰島住民についての調査	自主企画調査	18年	水害・中越地震被災地域グループインタビュー調査	東京経済大学	16年
能登半島地震に関するアンケート調査	自主企画調査	19年	救急医療と通信システムについての消防本部アンケート調査	東洋大学	16年
第3回三宅島帰島住民についての調査	自主企画調査	19年	台風23号についての兵庫県豊岡市市民アンケート調査	東洋大学	16年
新潟県中越沖地震に関する調査	自主企画調査	19年	東海豪雨における視覚障害者の災害行動についてのアンケート調査	東洋大学	16年
新潟県中越地震に関する調査	茨城大学	18年	新潟中越についての十日町市民アンケート調査	東洋大学	16年
自動販売機の転倒防止に係る実態調査	埼玉県	15年	山古志村の復興に関する住民意識調査	東洋大学	17年
防災に関する世論調査	東京都	17年	福岡県西方沖地震グループインタビュー	東洋大学	17年
市町村防災研修事業に資するためのアンケート	(財)消防科学総合センター	18年	救急医療と通信システムについての災害拠点病院アンケート調査	東洋大学	18年
地下街利用者の災害に関する意識調査	(財)河川情報センター	11年	2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査	東洋大学	18年
集中豪雨による水害についての住民調査	(財)河川情報センター	17年	首都圏における通信行動についての住民アンケート調査	東洋大学	18年
砂防施設計画検討調査	(財)砂防・地すべり技術センター	11年	原子力事業者アンケート調査	東洋大学	18年
浅間山噴火についての住民アンケート	(財)砂防・地すべり技術センター	16年	旧山古志村復興意識調査	東洋大学	18年
台風14号地すべり災害についての住民調査	(財)砂防・地すべり技術センター	17年	原子力に関するアンケート調査	東洋大学	19年
平成18年7月豪雨による土砂災害警戒避難に関する調査	(財)砂防・地すべり技術センター	18年	観光地災害ヒヤリハット調査	常磐大学	18・19年
桜島島民の防災意識に関するアンケート調査	(財)砂防・地すべり技術センター	18年	緊急地震速報に関する学生アンケート調査	日本大学	18年
活断層長期予測デルファイ調査	(財)地震予知総合研究振興会	12年	災害報道内容分析	日本大学	18年
地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査	(財)地震予知総合研究振興会	17年	一人暮らしの若者の防災意識調査	日本大学	18年
ナウキャスト地震情報の活用に関する調査	(財)日本気象協会	12・13年	青年の防災意識・対策についてのグループインタビュー	日本大学	19年
ナウキャスト地震情報の社会的影響調査	(財)日本気象協会	15年	緊急地震速報WEB調査	日本大学	19年
富士山噴火情報についての自治体調査	(財)日本気象協会	15年	「新潟県中越地震」におけるライフラインについての住民アンケート調査	富士常葉大学	16年
緊急地震速報についての企業ヒアリング調査	(財)日本気象協会	16年	消防団員の安全教育・訓練に関する調査	消防基金	10年
緊急地震速報の効果的な利活用に向けたアンケート調査	(財)日本気象協会	19年	消防団の安全装備品等の配備状況に関する調査	消防基金	11年
災害体験についての「ヒヤリハット」調査	(独)防災科学技術研究所	14年	阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13・15・16年
水害ハザードマップ調査	(独)防災科学技術研究所	15年	災害等に関する意識調査	朝日新聞社	13年
福岡市博多区におけるヒヤリ・ハット体験および災害体験アンケート調査	(独)防災科学技術研究所	15年	阪神大震災に関する住民意識調査	朝日新聞社	13年
名古屋市西部および西枇杷町における住民の防災意識と防災対策の実態調査	(独)防災科学技術研究所	16年	自衛隊の災害派遣についてのアンケート調査	朝日新聞社	13年
新潟豪雨についての住民アンケート	(独)防災科学技術研究所	16年	広域連携についてのアンケート調査及び災害NPOアンケート調査	朝日新聞社	14年
東海豪雨災害に関する被災者の意識調査	NHK放送文化研究所	12年	阪神・淡路大震災8年後の被災者意識調査	朝日新聞社	14年
有珠山避難者アンケート調査	NHK放送文化研究所	12年	自治体復興・被災者支援制度アンケート調査	朝日新聞社	17年
東京都民の災害に関するアンケート調査	NHK報道局	14年	十勝沖地震緊急調査	東京経済大学	15年
			帰宅難民対応についての事業所調査	東京大学社会情報研究所	10年
			大地震発生時の東京都民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	10年
			平成10年8月集中豪雨災害についての調査	東京大学社会情報研究所	10年

河川災害情報の高度化及び危機管理に関する意識調査	東京大学社会情報研究所	11・12年	地域防災アンケート	静岡県	10・14・15年
東海村臨界事故時の行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	11年	防犯カメラの設置及び利用に関する実態調査	静岡県	15年
東京都「広域避難所」の管理体制についての調査	東京大学社会情報研究所	11年	防犯まちづくりアンケート調査	静岡県	15年
防災用語についてのアンケート	東京大学社会情報研究所	11年	東海地震県民意識・企業防災実態調査	静岡県	17・19年
災害写真データベース作成	東京大学	12年	静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート	(財)静岡総合研究機構	13年
三宅島噴火による住民の避難生活に関する調査	東京大学社会情報研究所	12年	市町村消防団実態調査	愛知県	18年
東海水害被災者調査	東京大学社会情報研究所	12年	市町村の消防の広域化に伴う調査分析	愛知県	19年
有珠山噴火による住民の避難行動に関する調査	東京大学社会情報研究所	12年	津波浸水予想図印刷	二見町	17年
富士山噴火住民アンケート	東京大学	13年	災害情報の提示方法に関する調査	大阪大学	18年
「富士山噴火」についての有識者デルファイ調査	東京大学社会情報研究所	13年	災害情報の提示方法に関する調査	大阪大学デザインセンター	17年
「富士山噴火情報」についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年	復興住宅アンケート調査	関西学院大学	19年
BSE(狂牛病)についての住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年	新潟中越地震被災者調査集計	関西学院大学	19年
芸予地震に関する住民アンケート調査	東京大学社会情報研究所	13年	災害復興住宅居住者意識調査(集計)	関西学院大学	19年
火山情報と噴火災害に関する有珠・島原住民調査	東京大学	14年	家屋等の耐震化に関する住宅調査	(財)人と防災未来センター	14年
災害や事故が社会生活に与える影響調査	東京大学	14年	東海・東南海・南海地震防災対策推進地域市町村における津波対策調査	(財)人と防災未来センター	16年
災害情報に対する民間企業の対応調査	東京大学	14年	風水害時における自治体の災害対応に関する調査	(財)人と防災未来センター	16年
自治体の火山噴火についての地域防災計画書調査	東京大学	14年	被災地の現在の都市状況に関する調査	(財)人と防災未来センター	19年
富士山噴火による企業影響調査	東京大学	14年	災害対策専門研修に関する調査	(財)人と防災未来センター	19年
2003年5月宮城県沖を震源とする地震住民調査	東京大学社会情報研究所	15年	震災5年後意識調査	NHK大阪局	11年
火山周辺自治体の地域防災計画内容分析	東京大学社会情報研究所	15年	阪神淡路大震災に関する住民意識調査	NHK神戸局	16年
火山噴火災害についての観光企業アンケート調査	東京大学社会情報研究所	15年			
宮城県北部地震に関するアンケート	東京大学社会情報研究所	15年			
富士山噴火についての住民意識調査	東京大学社会情報研究所	15年			
富士山噴火自治体調査	東京大学社会情報研究所	15年			
東海地震対策強化地域における地震防災の現況調査	東京大学社会情報研究所	15年			
平成16年度民間事業所の東海地震の各情報に対する対応調査	東京大学大学院情報学環	16年			
「東海地震情報についての防災ビデオ」作成	東京大学大学院情報学環	16年			
民間放送局の災害報道に関する調査	東京大学大学院情報学環	16年			
新潟県中越地震についての住民調査および自治体調査	東京大学大学院情報学環	16年			
インターネットと携帯電話に関するアンケート	東京大学	18年			
子供の安全と災害に対する意識調査	東京大学	18年			
地震時の地域防災に関するアンケート	東京大学	18年			
安全観についての住民アンケート調査	東洋大学	14～16年			
北海道駒ヶ岳噴火についての住民意識調査	東洋大学	14年			
苫小牧市民の火山防災意識調査	東洋大学	15年			
2004年水害被災地における復興の実態と意識に関する調査	東洋大学	17年			
災害弱者に関する調査	文教大学	10年			
防災についてのアンケート調査	文教大学	10年			
事業所防災調査等業務	新宿区	19年			
集中豪雨に伴う住宅等被害状況調査	世田谷区	17年			
街頭設置消火器実態調査	東久留米市	12年			
東海地震についての県民意識調査	静岡県	3・5・7・9・11・13・17年			

## 防災計画

地域防災計画修正	騎西町	17年
地域防災計画	西桂町	18年
地域防災計画	忍野村	18年
地域防災計画	鳴沢村	18年
地域防災計画修正	掛川市	12年
掛川新市地域防災計画及び行動マニュアル策定	掛川市	16年
伊豆市地域防災計画	伊豆市	16年
地域防災計画修正	伊豆長岡町	14年
地域防災計画修正	土肥町	15年
地域防災計画	榛原町	8・13年
地域防災計画修正	榛原町	14年
地域防災計画修正	吉田町	12年
地域防災計画策定	安曇野市	18年
地域防災計画策定	中津川市	17年
地域防災計画策定	伊豆の国市	17年
特殊災害救助活動計画策定	愛知県	18年
消防広域化推進計画策定	愛知県	19年
地域防災計画策定	東郷町	13・14年
職員初動マニュアル作成	東郷町	14年
防災マップ作成	東郷町	14年
避難誘導計画策定	東郷町	17年
地域防災計画策定	西春町	15年
防災新聞作成	西春町	15年
地域防災計画等修正	甚目寺町	14・15年
防災に関する講演会	甚目寺町	15年
洪水ハザードマップ作成	甚目寺町	16年
新市地域防災計画策定	津市	17年
地域防災計画策定	いなべ市	17年
地域防災計画	伊賀市	17年
住民災害対策活動マニュアル作成	多気町	19年
自主防災組織活動マニュアル作成	二見町	15年
職員災害初動マニュアル等作成	二見町	15年
津波ハザードマップ作成	御園村	17年
地域防災計画	江津市	17年
地域防災計画改定	早島町	18年
防災マップ作成	鏡野町	18年
防災対策アクションプラン策定	三原市	18年
地域防災計画修正	三原市	19年
地域防災計画	中土佐町	18年



株式会社 **サーベイリサーチセンター**  
SURVEY RESEARCH CENTER CO., LTD.

本社  
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号 〒116-8581  
TEL : (03)3802-6711 (大代表) / FAX : (03)3802-6730

田端事務所  
東京都北区田端1丁目25番19号 〒114-0014  
TEL : (03) 5832-7061 (代) / FAX : (03) 5832-7060

東北事務所  
仙台市青葉区二日町11番11号 〒980-0802  
TEL : (022) 225-3871 (代) / FAX : (022) 225-3866

静岡事務所  
静岡市葵区呉服町1丁目6番11号 〒420-0031  
TEL : (054) 251-3661 (代) / FAX : (054) 252-6544

名古屋事務所  
名古屋市中村区名駅3丁目8番7号 〒450-0002  
TEL : (052) 561-1251 (代) / FAX : (052) 561-1254

大阪事務所  
大阪市北区天満橋1丁目8番30号 〒530-6011  
TEL : (06) 4801-9231 (代) / FAX : (06) 4801-9233

岡山事務所  
岡山市大供2丁目1番1号 〒700-0913  
TEL : (086) 226-8031 (代) / FAX : (086) 226-8030

広島事務所  
広島市中区熨町13番14号 〒730-0016  
TEL : (082) 227-7511 (代) / FAX : (082) 227-7558

四国事務所  
高松市塩屋町8番1号 〒760-0047  
TEL : (087) 811-2671 (代) / FAX : (087) 821-0933

九州事務所  
福岡市博多区博多駅前4丁目4番21号 〒812-0011  
TEL : (092) 411-8811 (代) / FAX : (092) 411-8851

ホームページ <http://www.surece.co.jp/>